

にめたの性女



343

454



始





# 育兒に最良

赤チャンが産れてもお母様のお乳が出なかつたらどう致しませう、その時こそフクトーゲンは母乳の代りをつとめる一番よいお乳です。御心配なくフクトーゲンでお育て下さい、キット完全に育ちます。

世界第一の完全粉末純乳

# フクトーゲン



販賣店 薬店食料日用品店

# 吸入薬カンピロン

について

# 感冒、肺炎、百日咳

即効吸入薬

# カンピロン

患者、奈×弘 六歳  
麻疹後、急性氣管支カタルを起し發熱、咳嗽、聲啞、甚だしく肺炎併發を恐れたりしが、「カンピロン」の吸入（一日六回）により四日にて輕快、完全に肺炎を豫防し得て大いに病家より感謝せらる。惟ふに「カンピロン」は呼吸器系疾患（特に小兒に於て）には缺く可からざるものにて必ず一度は試むべきものと信ず

大阪市民病院小兒科長

醫學博士 谷 口 清 一

肺炎で到底駄目だと思つた患者もカンピロン吸入により助かつた例は澤山ある。

日本赤十字社支部病院長

醫學博士 大 野 淳 五

カンピロンの感冒肺炎等に奏効するは合理的事實である。肺結核に吸入して祛痰鎮咳の効頗る顯著、患者は、爽快を喜び其持續を切望する。



英陸軍々醫監 長濱醫學博士  
辰巳醫學博士 谷口醫學博士  
大野醫學博士 大野醫學博士  
宮田醫學博士 宮田醫學博士  
推 獎

世界的發見・合理的吸入療法にして通常の吸入器で適宜吸入、たんせきには勿論、熱を下げ、心臓の働きを強め、消炎、殺菌の効あり、一般せきの出る病に適應す。

「適應症」肺炎、感冒、百日咳、氣管支炎、氣管支カタル、麻疹、喘息、聲啞、肺結核、喉頭結核等

全國藥店にあり

（御注意） 定 價 六 十 錢  
三 一 二

大阪東區平野町 道修藥學研究所



# 卵巢ホルモン オオホルモン

## 月経障碍に 更年期障碍に

卵巣機能障碍及び子宮發育不全、並に之れに因る無月經その他の月經異常、婦人科去勢術後の脱落症狀に應用せらる。白木正博博士、樋口繁次博士その他多數醫家の臨床實驗によつてその効果を承認せらる。

更年期に至れば多くは先づ生殖腺に其機能減退乃至脱落が來り、ために微妙なる生活機能調節の平衡が破られ、遂に更年期障害を來すと稱せらる。オオホルモンは更年期に於ける頭重、眩暈、睡眠障害、心悸亢進、肩凝、精神憂鬱、血壓亢進、關節痛（ラウベル氏の卵巣性關節痛、或はリーボルト氏の内分泌關節病）、肢端知覺異常症に用ひて優秀なる効果を收む。

内用錠劑  
 五錠（一圓七五）  
 一〇錠（三圓三五）  
 一五錠（四圓六〇）

文獻送呈す

大坂市東區道徳町 武田長兵衛商店 發賣元  
 川崎市大宮町 帝國藥器研研究所 製造元

婦人との離せぬ

# エビオス

處女としては健康美  
 妻としては子寶

健康は最大の幸福です、家族一同揃てエビオスをお上りなさい、御主人は快活に、貴女は健康美に、お子さんは丈夫に、家中がニコニコ顔に變りませう、第一に食事が進みます食物が美味になります、胃腸が丈夫になつてお乳が溢れるやうに出ます。



胃腸強壯營養劑として全醫家の激賞

左の病人にはぜひ……

- 胃腸病、便秘病
- 肺結核、肋膜炎
- 虚弱者、脚氣
- 榮養不良、精力減退
- 母乳不足



説明書送呈



大坂道修町 田邊五兵衛商店



品産國良優獎推省兩林農・工商

# クニニ永森

ぜひ國産！

品質・舶來品に優り  
値段・二割方安い



本品の栄養、新鮮度は遙に  
舶來品を凌駕しますが殊に  
ビタミンの豊富な事は嚴寒  
の基本栄養料として推奨  
されて居ります

M-42

社會式株乳煉永森 元造製クニミイラド永森

# 下劑

一般の便秘殊に

實驗書進呈

ラキサトールは少量にて奏効し、無味無臭なる点に於て婦人、小兒  
と雖も嫌惡せず、服用簡易にして副作用絶無なり、排便は緩和にし  
て習慣性を來さざるが故に常習便秘者にさりて理想的下劑なり。

# ラキサトール

常習便秘、胃腸弛緩症によるもの、胃腸下垂症によるもの及腸の神  
經機障害によるもの、婦人、小兒の便秘その他消化不良の場合等に  
最適なり。

粉末、錠劑二種あり

全國藥店に販賣す

大阪市東區道修町  
株式會社 塩野義商店

東京市日本橋區伊勢町

LA.148



タ型榮養菓

# ルタバ菓乳

御家庭に

一日も缺かされぬ  
タルのお菓子

タル型美術罐入  
大樽 御家庭常備用  
中樽 四季の御贈答用  
小樽 おみやげ用

おみやげ樽三ヶ詰特に御好評

〔各百貨店・菓子舗・食料品店にあり〕



元 賣 發  
部 菓 製 社 星 ル タ 販 大

百日咳に  
オルフオン



母としての喜びは—あなたの最も尊い  
愛し兒を健やかに育て行くことでせう

人生の若芽を蝕まんとする咳の病  
こそあなたの喜びを奪ひ去る悪魔  
であります。  
咳の手當は成るべく早く内科小兒  
科の先生に御相談下さい。先生方  
はきつこ、あなたの愛し兒を新藥  
オルフオンでお守り下さるでせう

御家庭療法には便利な注腸用  
オルフオンを御用ひ下さい。

船井商店製薬部  
神戸市神戸區元町通五丁目



特220  
163



醫學博士三田谷啓編

# 女性のために



母乳代用  
粉末ミルク

## キノミール 産 國

◎見本説明書お贈り致します

お湯さへあればいつでも新鮮なお乳が出来ます。  
可愛いお友達をお持ちのお家庭には是非このキノミールをお備へ下さつてお友達のおすこやかな發育をお楽しみ下さい。  
▲どの薬店食料品店にもあります。

價定  
大 一圓九錢  
小 壹圓

株式会社 和光堂  
東京神田區治町九  
大阪東區南久太郎  
町



女性のために

目次

女性の身體

人の身體の比例……………一  
 女性身體美……………三  
 女性の正常身體……………四  
 精神美……………五  
 人種美……………六  
 女子體重及内臓の發育率……………七  
 女子の腦髓……………七  
 女子の體重及び内臓の重量……………八  
 女子内臓の比例重量……………九

年齢期より觀たる女性

成人と初生兒……………一〇  
 兒童期の發育狀態……………一一  
 兒童の發育……………一四  
 思春期……………二一  
 更年期……………二二

月經

月經……………二三  
 月經の初發……………二三

代價月經

月經過多……………二四  
 月經時の狀態……………二五  
 月經の手當……………二六

女性と結婚

戀愛……………二六  
 戀愛結婚と媒酌結婚……………二七  
 結婚……………三〇  
 各國に於ける結婚年齢……………三一  
 血族結婚……………三二  
 結婚を禁止すべき疾病及び異常……………三三  
 重婚……………三三  
 結婚に適する年齢……………三三  
 輕卒なる結婚……………三四  
 早婚すべきか……………三五  
 早婚と晩婚……………三五  
 友誼結婚……………三六  
 新婚旅行……………三六  
 丙午と結婚……………三七

妊娠

妊娠……………三八  
 妊娠はどうして起るか……………三八

人工妊娠法

胎兒の成長……………三九  
 胎兒の身長……………四〇  
 額の成長……………四三  
 妊娠時に起る全身的變化……………四四  
 妊娠時に起る生殖器の變化……………四五  
 子宮外妊娠……………四六  
 妊娠中の養生……………四七  
 妊娠時に起り易い病氣……………四八  
 流産の豫防……………四九  
 胎内教育……………四九

出産

出産の種類……………五一  
 出産の時間……………五二  
 コドモの生るゝ日を知る法……………五三  
 人工流産……………五三  
 分娩時の出血……………五四  
 助産婦の選び方……………五四

産褥

産褥……………五五  
 産褥時の腹帯……………五五

性教育

受胎と出生と成長……………五六



女性の心理

女性の感覚……………六八  
 女性の観念……………六九  
 女性の記憶……………七〇  
 女性の想像……………七〇  
 女性と判断……………七一  
 女性と欲望……………七二  
 女性と選擇力……………七二  
 女性と實行力……………七四  
 女性と感情……………七四  
 女性と品性……………七五  
 女性と迷信……………七五  
 虛榮心と女性……………七七  
 男と女との特色……………七八

女性と體育

女性體育の理想……………七九  
 女性と體育……………八〇  
 女性と體操……………八一  
 女性と競技……………八一  
 女性と水泳……………八二  
 女性と散步及遠足……………八三  
 女性とテニス……………八四  
 女性とランニング……………八四

子供の教育

生前教育……………八九  
 女性と育児……………九〇  
 腺病質のコドモの取扱……………九一  
 幼児の運動……………九二  
 コドモと人生……………九三  
 強情なコドモの躱け方……………九四  
 よい習慣をつける方法……………九六  
 同情心の養成……………九七  
 働く習慣をつける方法……………九八  
 柔順の習慣……………九九  
 臆病の矯正……………一〇一  
 正直にする躱け方……………一〇二  
 神經質のコドモの取扱……………一〇三  
 最善を子に打ちこむこと……………一〇四

女性と家庭

家庭の起原……………一〇五

家庭の成立

家族……………一〇六  
 父……………一〇七  
 母……………一〇七  
 兄弟姉妹……………一〇八  
 家庭の和樂……………一〇九  
 家庭の三大任務……………一一〇  
 三つの生活様式……………一一一  
 夫婦和合の道……………一一二  
 父母は共同責任……………一一三  
 婦人の犠牲……………一一四  
 嫁と姑……………一一五  
 姑に事ふる道……………一一五  
 女性と老人……………一一七  
 老人を虐待するな……………一一八  
 召使……………一一九  
 主婦と女中……………一二〇  
 將來の家庭……………一二〇

服装と美装

衣服……………一二二  
 女性服……………一二二  
 女性服と流行……………一二三  
 女性と結髪……………一二三  
 女性と履物……………一二四

美粧……………一二四

家庭衛生

洗濯の仕方……………一二五  
 家庭衛生具……………一二七  
 家庭常備薬……………一二八  
 家庭看護……………一二八  
 女性と酒……………一二九

食物

栄養素の種類……………一三〇  
 調理十則……………一三〇  
 料理と調味……………一三一  
 牛乳の良否を知る法……………一三一  
 飲食物と病原體……………一三二  
 果物を取る時刻……………一三三  
 ヴイタミン……………一三三  
 コドモの菓子……………一三五  
 食物の好き嫌い……………一三五  
 食事衛生……………一三六  
 病人料理……………一三七  
 食べ方の注意……………一三七  
 血色をよくする食物……………一三八  
 女性と趣味……………一三八  
 女性と裁縫……………一三八

女子と教育

女子教育の目的……………一四六  
 女子教育の理想……………一四七  
 女子教育の目標……………一四七  
 家庭教育……………一四八  
 日本に於ける女子教育……………一四九  
 女性と獨立生活……………一五〇  
 女性の徳……………一五一  
 女性と讀書……………一五二  
 娘に苦勞を教へよ……………一五二  
 天才兒の教育……………一五三  
 家庭教師……………一五四  
 女子教育と學科の過重……………一五五

女性と職業

女性と社會

社會……………一六二  
 男女の尊卑……………一六三  
 男女同體……………一六五  
 女性と交際……………一六六  
 女性と集會……………一六七  
 社會奉仕……………一六七  
 各方面より觀たる女性  
 婦人の美德……………一六九  
 忍耐する女……………一六九  
 快活の女……………一六九  
 犠牲的の女……………一七〇  
 理解のある女……………一七〇



内助の女	一七二
名譽を重ずる女	一七二
婦人氣質	一七二
嫉妬する女	一七二
働かぬ女	一七三
虚榮の女	一七三
冷淡な女	一七四
人を壓迫する女	一七五
境遇より觀たる女性	一七五
娘としての女性	一七五
妻としての女性	一七六
母としての女性	一七七
職業家としての女性	一七七
孤獨の女性	一七八
母の氣質	一七八
序言	一七九
子との約束を無にする母	一七九
父の教育を	一七九
台なしにする母	一七九
子に對する	一七九
命令を貰かぬ母	一八〇
子を病身にさせる母	一八〇
子の質問を	一八〇
邪魔教にする母	一八一
子の性質を惡化させる母	一八一

子の惡行を増長させる母	一八二
子を愚物にする母	一八二
子の病氣を氣にせぬ母	一八三
子をよく叱る母	一八三
子の病氣を看護せぬ母	一八四
他人に我子を	一八四
見せびらかす母	一八四
子をもちやにする母	一八五
子の意志を薄弱にする母	一八五
各方面の母	一八五
序言	一八六
乳母としての母	一八六
教育者としての母	一八七
保育者としての母	一八七
父としての母	一八八
醫師としての母	一八八
看護婦としての母	一八九
人としての母	一八九
社會人としての母	一八九
女性が行くべき道	一八九
いかに結婚すべきか	一九一
女性の使命	一九二
女性と責任	一九三
母性と愛	一九三
女性と向上心	一九四

眞劍の生活	一九五
女性の品位	一九五
母性の完成	一九六
將來の女性	一九七
女性と疾病	一九七
輪卵管炎	一九八
子宮後轉症	一九八
子宮内膜炎	一九九
卵巢腫腫	一九九
女性と性病	一九九
女性と神經衰弱	二〇〇
女性とヒステリー	二〇一
女性と修養	二〇一
序言	二〇二
母の修養	二〇二
母の準備	二〇二
母の健康	二〇三
母の責任	二〇三
母の智識	二〇四
母の意志	二〇四
母の眞劍	二〇四
母の中の母	二〇五
附 録	二〇五
新女大學	二〇六

## 女性の身體

### 人の身體の比例

どの生物でも一定の平均と調和を有して居るが、高等動物の人間ではこれが極めて巧妙にできて居る。そこでむかしから美術家はこの點に着目して人體の比例を按じて、比例の單位を多く頭にとつて居る。

それによると成人の身長は頭の高さの八倍に相當する。更に詳しく觀察すると直立して兩方の手を左右水平にひろげて左の指の先から右の同じ所まで計つた距離と全身長とが一致する。婦人では頭の高さの七倍半が身長に一致する。二つの足幅は頭の高さと同じである。

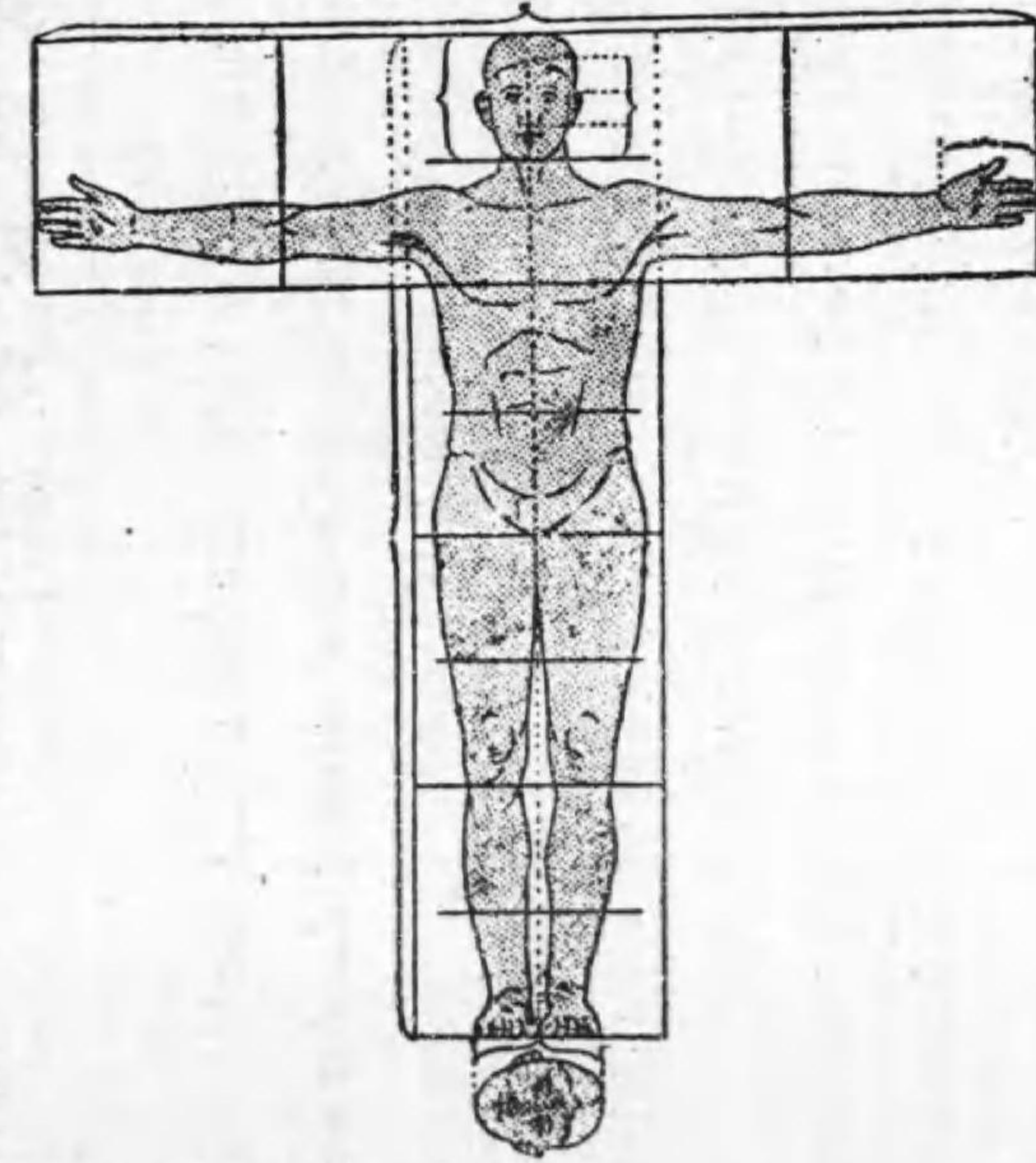
手（腕にあらず）の長さとも一致する。顔の長さとは前額から頤までの距離である。この顔の長さを三分すると前額から眉毛まで（一）眉毛から鼻尖まで（二）鼻尖から頤まで（三）の部位になる。この一部位は丁度全身の三十分の一となる。

全身長を四分すると、次の部位にわかれる。

第一部 頭頂から乳頭まで



第二部 乳頭から上腿上部まで  
 第三部 上腿上部から膝まで  
 第四部 膝から足趾まで  
 右の四部を指極（兩方の手を左右に水平にあげ兩中指の距離を計つたもの）に比較すると次の如くなる。  
 第一部 中指尖端から肘窩まで  
 第二部 肘窩から鼻尖の垂直線まで ★



★ 第三部 鼻尖の垂直線から肘窩まで  
 第四部 肘窩から中指尖端まで  
 右は標準的に美術家が計算したものであるが、一々の場合について見るとこれに一致せぬ

すれば更に變化のあることは明かであるが、しかし右の如き比例の大體に現れて居るのを知ることには興味のあることである。  
 そこで吾人の身體の各器官が適當に作用して居ると従つてその各部の比例も巧に保たれて居ると言へる。

女子の身體美

女性美の特徴の現れるのは第二性徴の時である。今これを男性美と比較すると次の如き差がある。



骨格 委態 纖細 女  
 骨盤 豐圓 角張る 男  
 乳房 弾力性に 狭平  
 皮膚 細麗にして軟粗にして硬  
 頭髮 豊富且長 短、粗



精神美



身體美、健康美は精神美が加はつて錦上の花となるのである。身體美、美は美なりといへども美の極致ではない。身體美がどれほど綺麗でもこれに精神

膚の色が白くして筋肉の發達が纖弱なることが重なる要素と見なされて居る。蒲柳では柳腰のヒョロ／＼である。胸は結核にかかり易い状態である。目はパッチリして鼻筋がよく通つて居ても結核型の美人では結局は苦難と戦つて努力してゆくわけにゆかぬ。病氣の器となつてはまるで「白く塗つた墓の如くなる」のである。故に従來の女性美はかゝる病的の標準より科學的、自然的、健康的のものに移らなければならぬのである。即ち全體が巧に調和された發育を遂げて居ること、従つて筋肉も、骨も、皮膚も健康状態を保ち、その機能が十分活動し、よく用ゐるに適應して居ることである。部分部分の美は人體綜合の美ではない。

女性美

の全長に一致するのである。(ガイエルに據る)

女性美の標準は健康美でなければならない。我國の女性美はこの健康といふ上から大分離れて居るやうである。即ち日本では身體の蒲柳であること、皮

女性の正常身體

第二圖に示したのは女性の身體の正常なるものについて頭と全身との比例を示したものである。即ち頭の高さの八倍が成熟した女性の身體

眉	細にして高く	角	平たし
頬	丸し	前方突出	角、大
頸	細、小	太	
手首	細	角	
肩	圓	太、突出	
鎖骨	細、突出せぬ	平たい	
大腿	肥りて圓し	銳	
恥骨弓	平、廣	角	
腓腸	圓	太	
足首	細	腹式	
呼吸式	胸式		



美が加はらなかつたら目の球を抜いてしまつた美人に等しい。身體美を完成させるものは精神美である。

精神美は心情の美である。徳の美である。この美が自然に外に現れてくる。心情美は修養によつて増して行く。肉體の美は限りがある。よし肉體が醜であつても精神美は増し加へることができる。それが女性を價値づける根本になる。男子も女性の精神美には渴仰の態度をとるのである。美貌の婦人は往々不遇に終るが精神美の女性は他人に尊重され、他人を救ひ、自己の満足を得ることができ。如何なる女性でも修養さへすれば圓滿なる人格の持主となつて精神美を發揮することができるのである。

### 人種美

美とか醜とか言ふのはもと／＼人の定めたもの故一定不易のものではない。或人が美としても他人はこれを醜と見ることもある。又昔美と見たものでも後に醜となることがある。

人種にはもとより當該の人種より見た美がある。これは必ずしも他の人種の見て美とするものと一致するとは限らない。形の美、色の美、靜態の美、動態の美などいろいろの立場から觀られるのである。本編に挿入したのは各國の人種美である。

を一として見たるもの)

### 女子體重及び内臓の發育率

	男子	女子
體重	一九・九	一七・〇
腦髓	三・七	三・〇
肺臓	一八・一	一七・六
心臓	一三・〇	一一・一
肝臓	二・九	一〇・二
腎臓	一三・九	一三・九
脾臓	一四・八	一六・一

女子の體重及び内臓の發育率 (das relative Wachstum) を男子のそれと比較すると次の如くである。(初生兒の發育程度

(Oppenheimer に據る)

### 女子の腦髓

げて見るとつきのごとくである。

女子の腦髓は男子に比較すると小さく且軽い。この事實は醫聖ヒポクラテス時代から知られて居た。從來の諸家の研究した成績を擧



研究者	脳髓重量(瓦)		差
	男子	女子	
ワグネル	1400	1330	170
ハチユケ	1400	1330	170
ブローカ	1365	1310	155
トビナルド	1400	1330	170
ビシヨッフ	1360	1300	160
ポイド	1350	1300	150

**女子の體重及び内臓の重量**

女子の體重及び内臓の重量を男子及び初生児のものと比較すると次の如くである。(瓦にて示す)

臓器	初生児		女子		男子	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
體重	3000	2500	5000	4500	6000	5500
脳髓	400	350	1350	1250	1750	1650
甲状腺	6	5	30	25	30	25
肺臓	20	18	85	75	95	85
心臓	25	22	260	240	300	280
肝臓	160	150	1550	1450	1640	1540
脾臓	13	12	180	170	190	180

臓器	初生児		女子		男子	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
腎臓	35	30	240	220	270	250
副腎	7	6	7	6	7	6

女子の内臓が男子のものより重量の軽いのは身長及び體重の小さな爲である。除外例として甲状腺は男女の區別なく、脾臓は男子よりも女子の方が重いのである。(Oskar Schultze u. Max Hirsch著 das Weib に據る)

**女子内臓の比例重量**

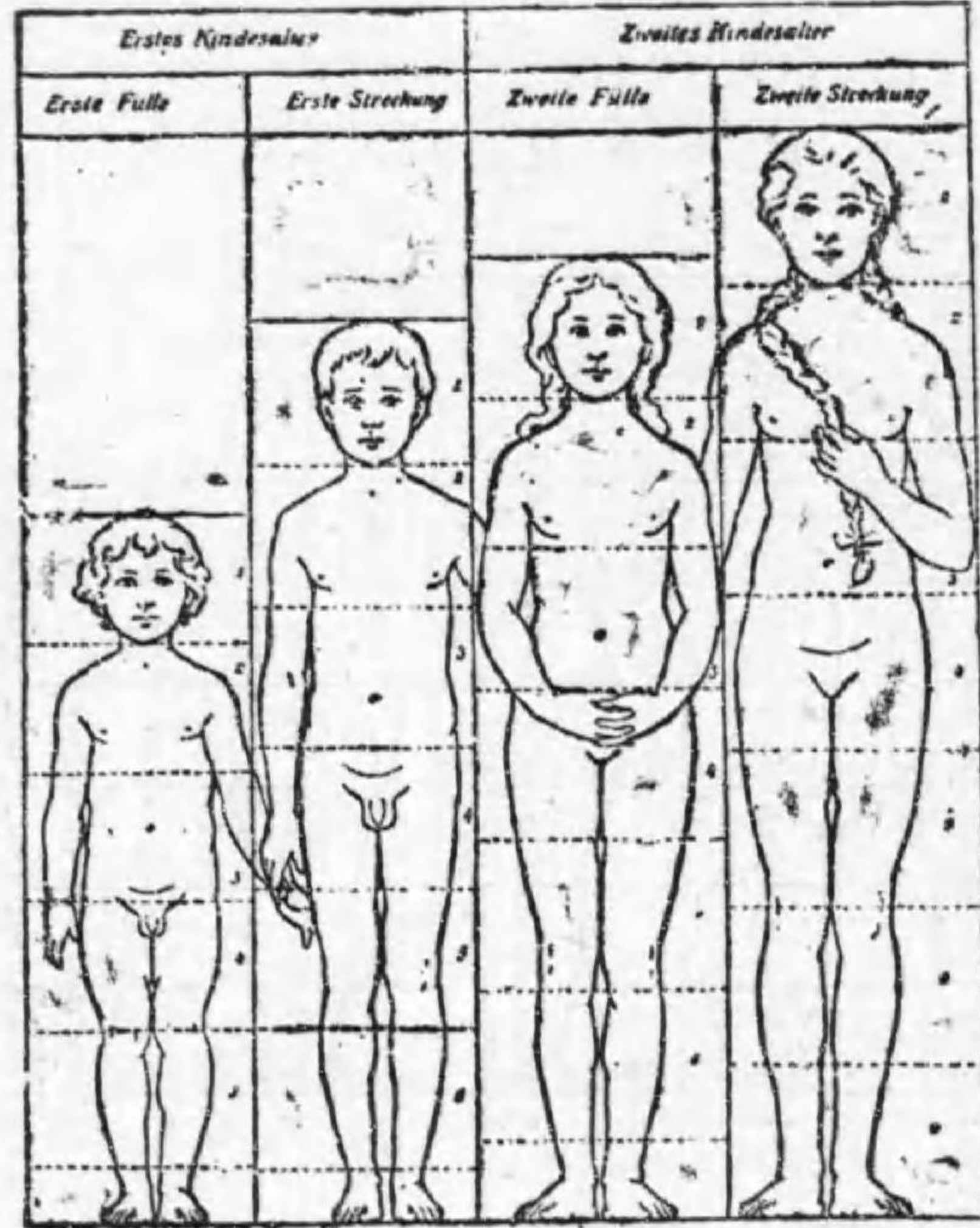
女子の内臓の比例重量(體重を1000として)を男子及び初生児と比較すると次の如くである。

臓器	初生児		女子		男子	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
脳髓	2.60	2.30	2.30	2.10	2.60	2.40
心臓	0.80	0.70	0.70	0.65	0.80	0.75
右肺	0.83	0.75	0.75	0.70	0.83	0.78
左肺	0.75	0.68	0.68	0.63	0.75	0.70
肝臓	1.51	1.35	1.35	1.25	1.51	1.41
腎臓	0.80	0.70	0.70	0.65	0.80	0.75
脾臓	0.36	0.32	0.32	0.30	0.36	0.34

(Virordt に據る)



第五圖 兒童期の分類及びその發育狀態 (ガイエル)

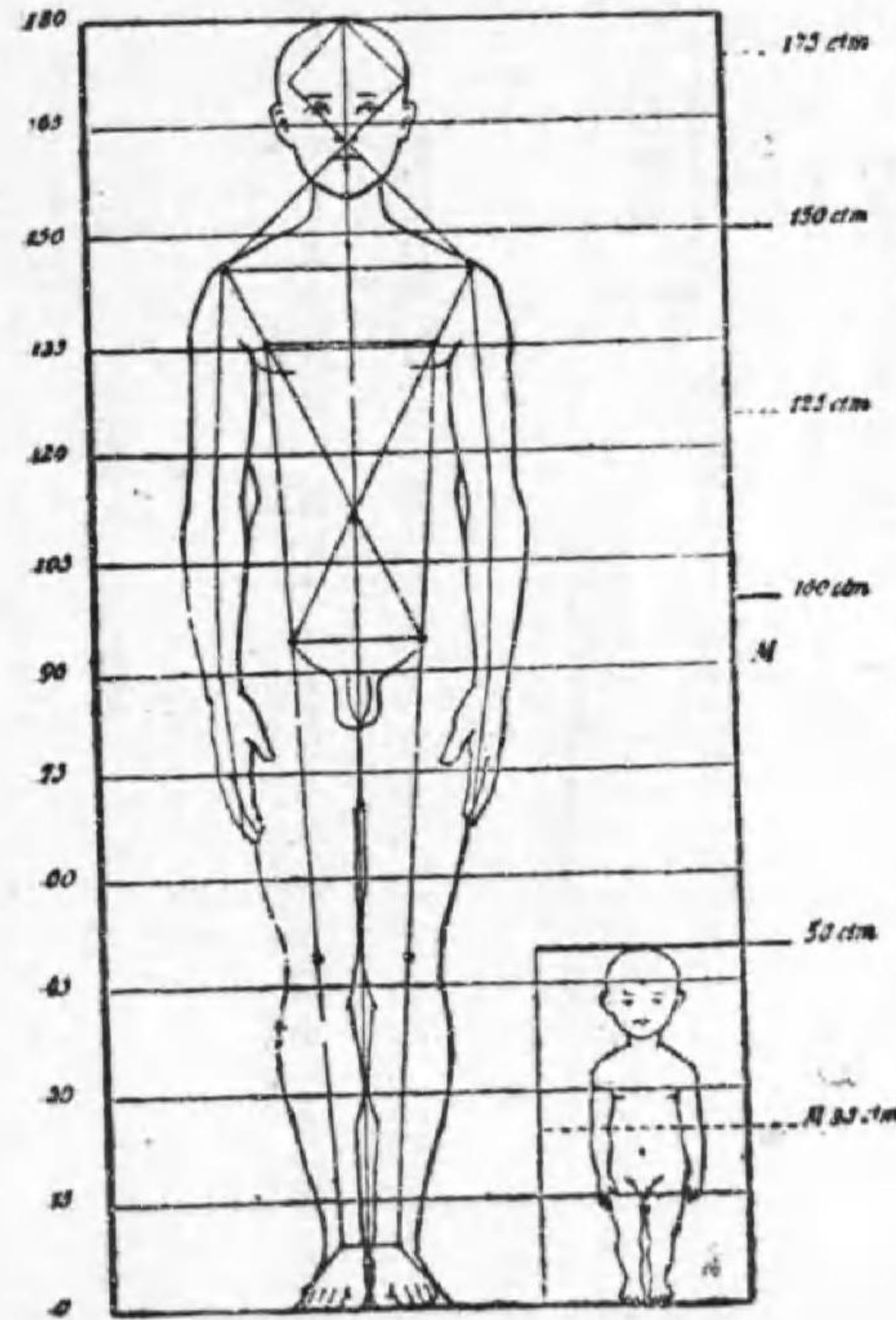


兒童期の發育狀態

兒童期を分類してガイエルは次の如くに階級をつけた。  
第一兒童期 (零歳乃至七歳)

- 一、乳兒期 (一歳まで) (無齒期)
- 二、中性兒童期 (一乃至七歳) (乳齒期)
- イ、第一充實期 (二乃至四歳)
- ロ、第一伸長期 (五乃至七歳)
- 第二兒童期 (八乃至二十歳)
- 三、兩性兒童期 (八乃至十五歳) (永久齒期)
- イ、第二充實期 (八乃至十歳)
- ロ、第二伸長期 (十一乃至十五歳)
- 四、成熟期 (十六乃至二十歳)

第四圖



と子男の迷仙〇八一長身  
例比のと兒生初の迷仙〇五長身

成人と初生兒

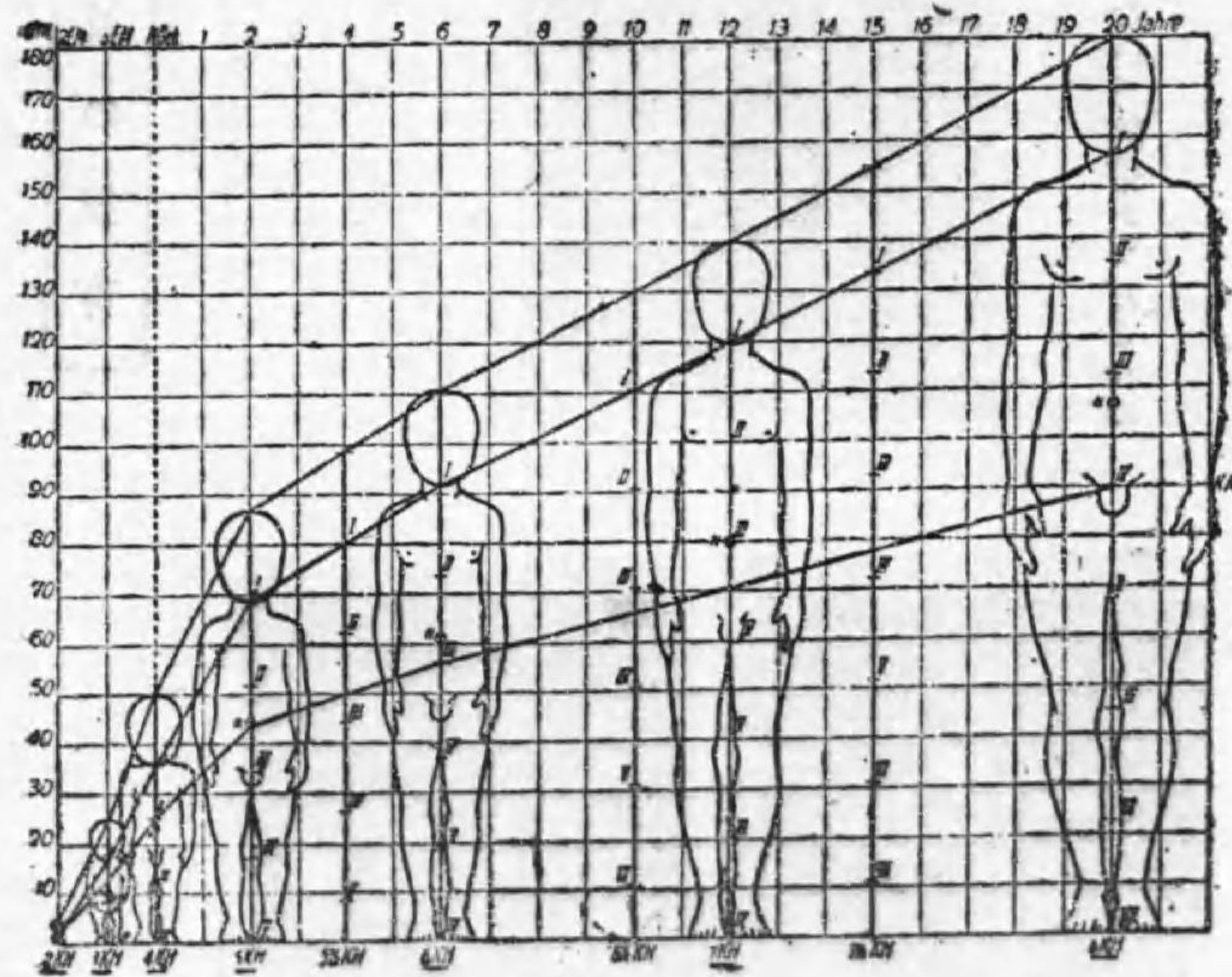
ある。これは頭、胸、四肢等の比例を見ると一目瞭然である。

成人と初生兒との比例を見るに兒童を其まゝ大きくしたものが成人ではない、換言すれば成人をそのまま小さくしたものが兒童でないことが明かである。

年齢期より觀たる女性

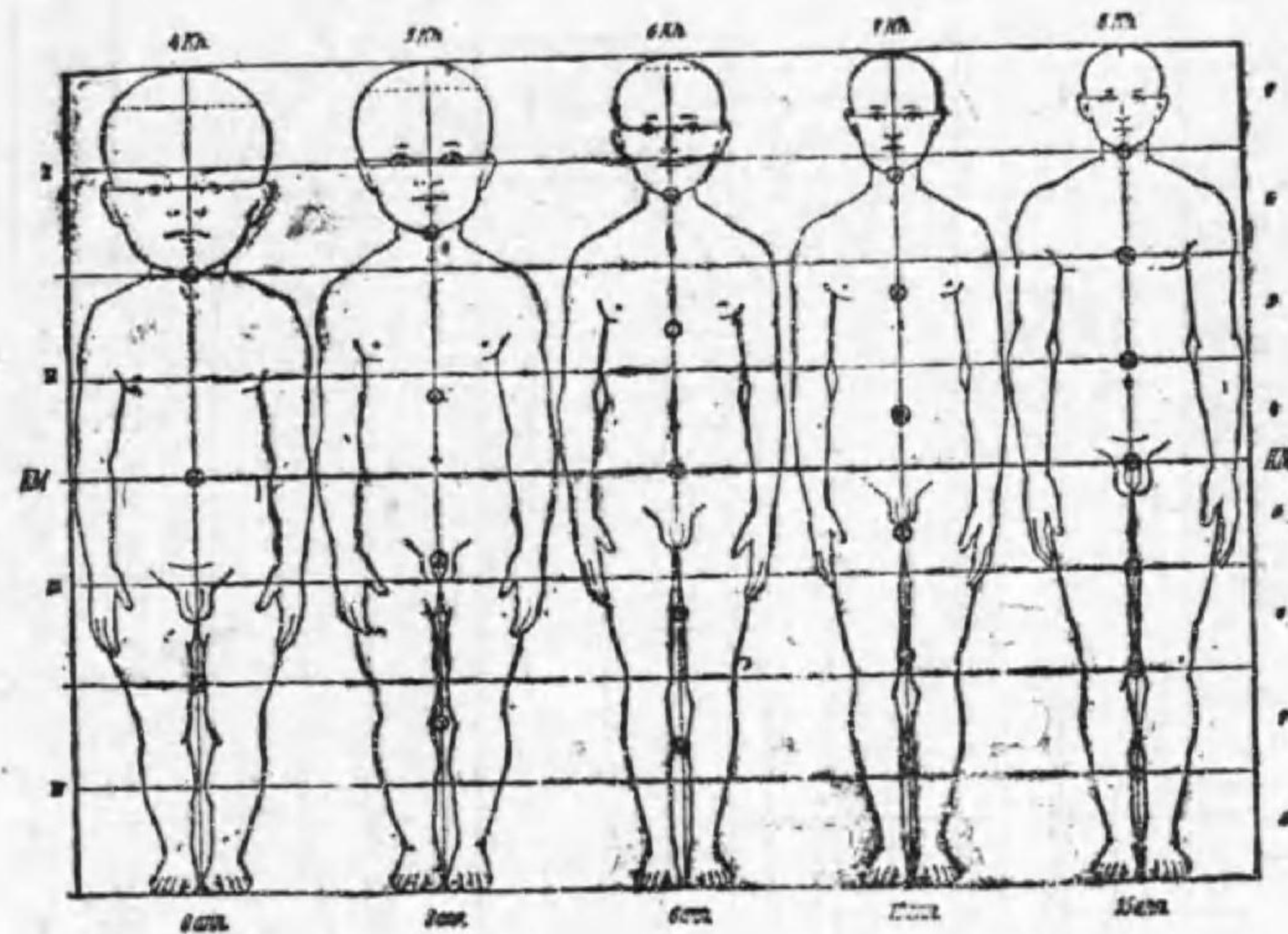


圖 七 第



例比のそび及加増長身

例 比 育 發 圖 六 第



出生當時より二十  
五歳に至るまでの  
身體發育比例を示  
したものである。  
即ち出生の當時の  
頭の高さは全身の  
四分の一であるが  
漸次この比例は變  
化して二十歳にな  
ると頭高は全身の  
八分の一となる

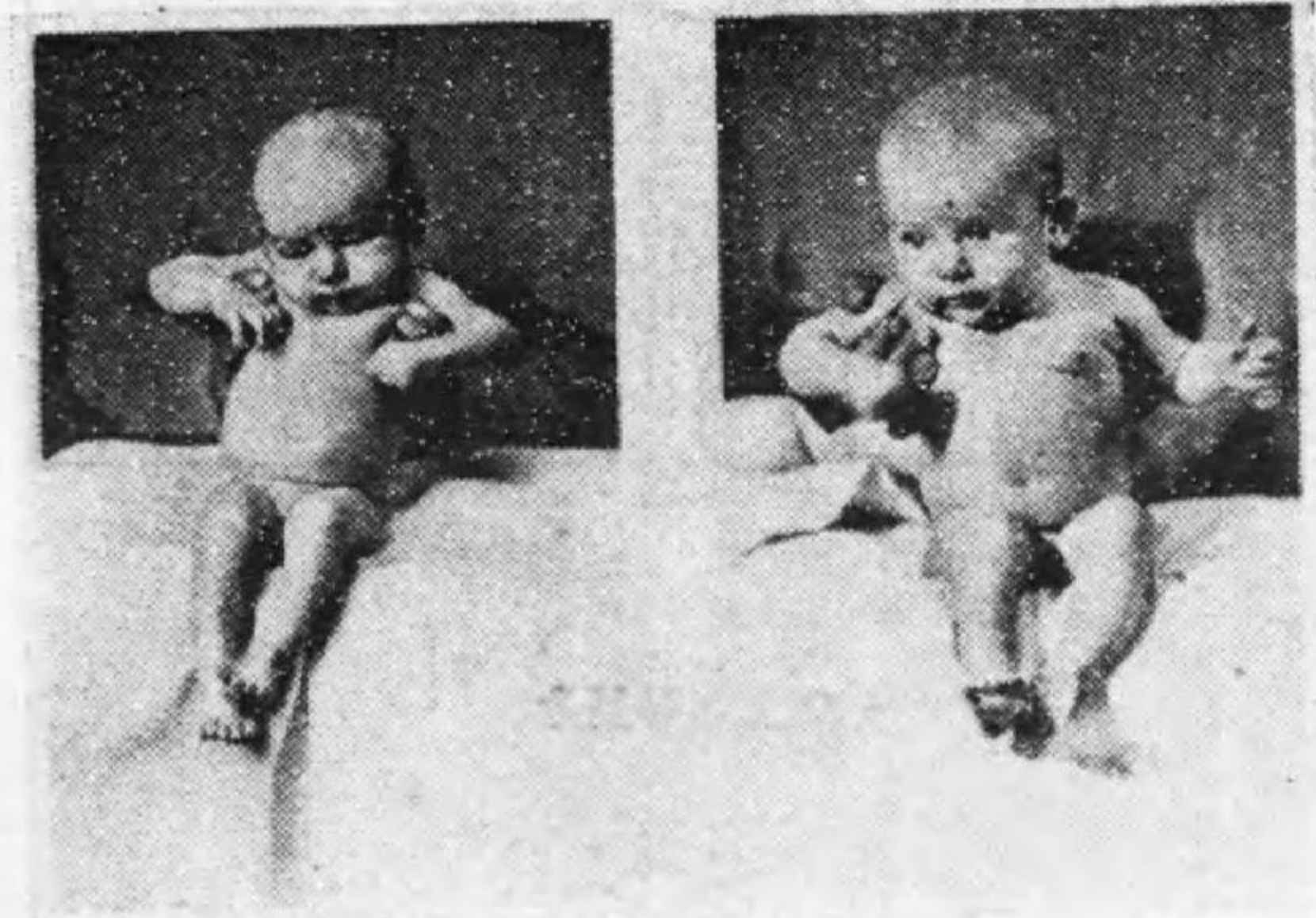


兒童の發育

第八圖 乳兒の發育



初生兒頭は固定しない。臍帶がまだとれぬ



二ヶ月兒  
筋肉はまだ弱い。  
頭は固定しかけた

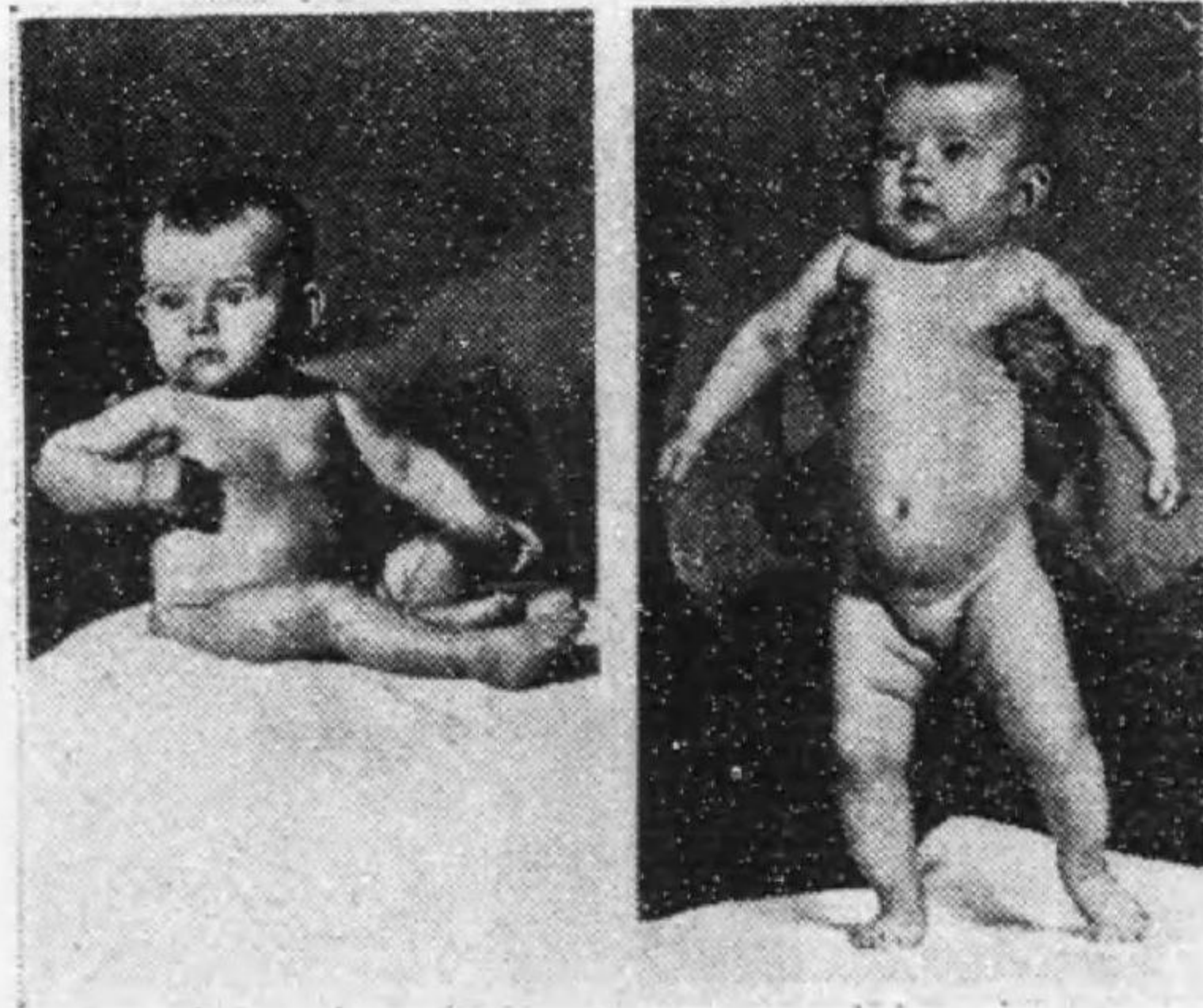
一ヶ月兒  
頭はまだ固定せぬ  
臍帶はとれた

第九圖



三ヶ月の乳兒  
支へると坐る。頭は固定した。  
眼は物を注視する。音のする方へ頭を向ける

第十圖



五ヶ月乳兒  
足で立つ  
試みをす  
る

四ヶ月乳兒  
ひとり  
で坐る。物  
をつかむ



第十一圖



六ヶ月乳兒  
體重は出生時の二倍となり支へてやると  
立つ

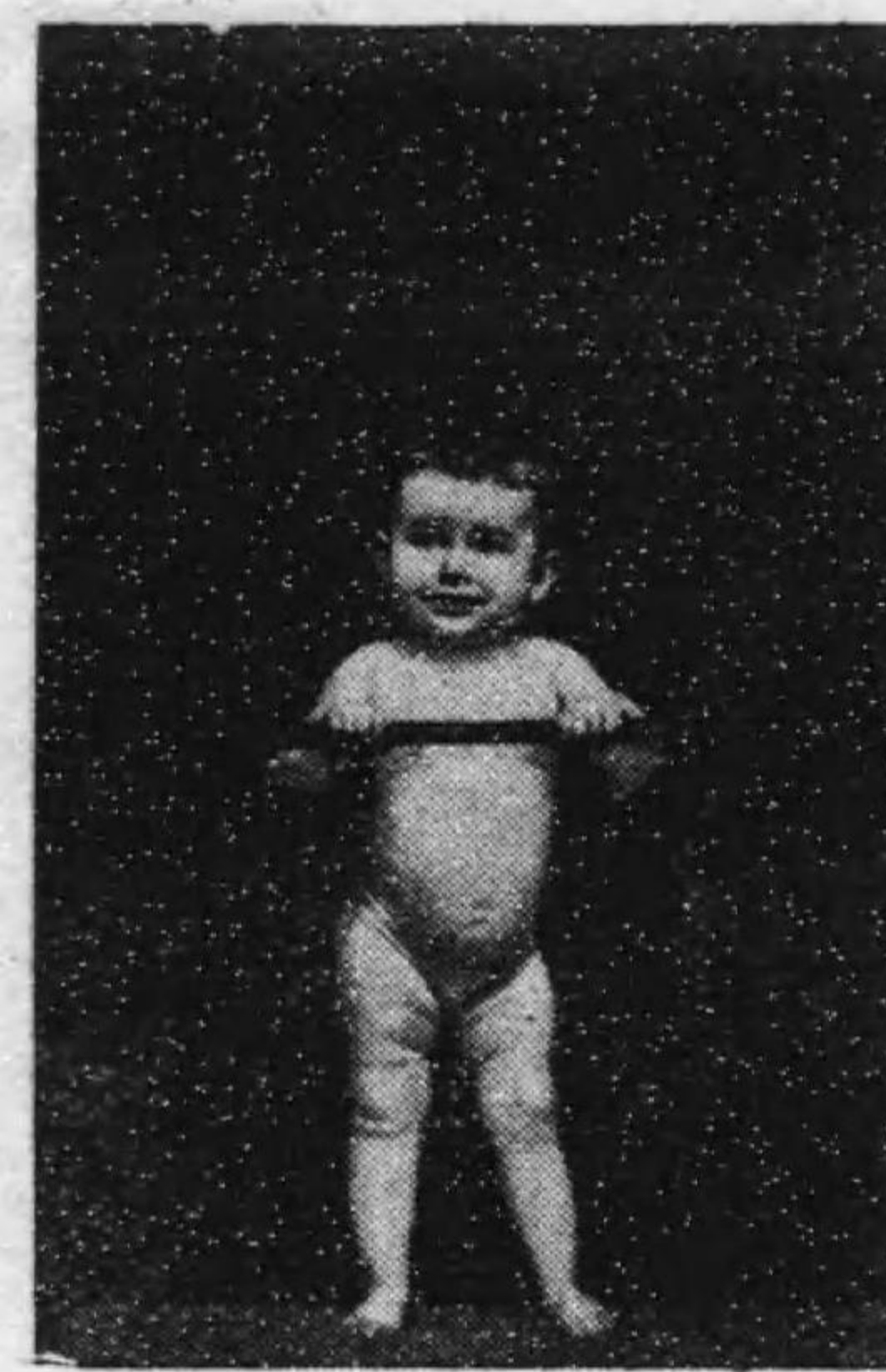
第十二圖



九ヶ月乳兒  
支へなしに暫時立つことができる

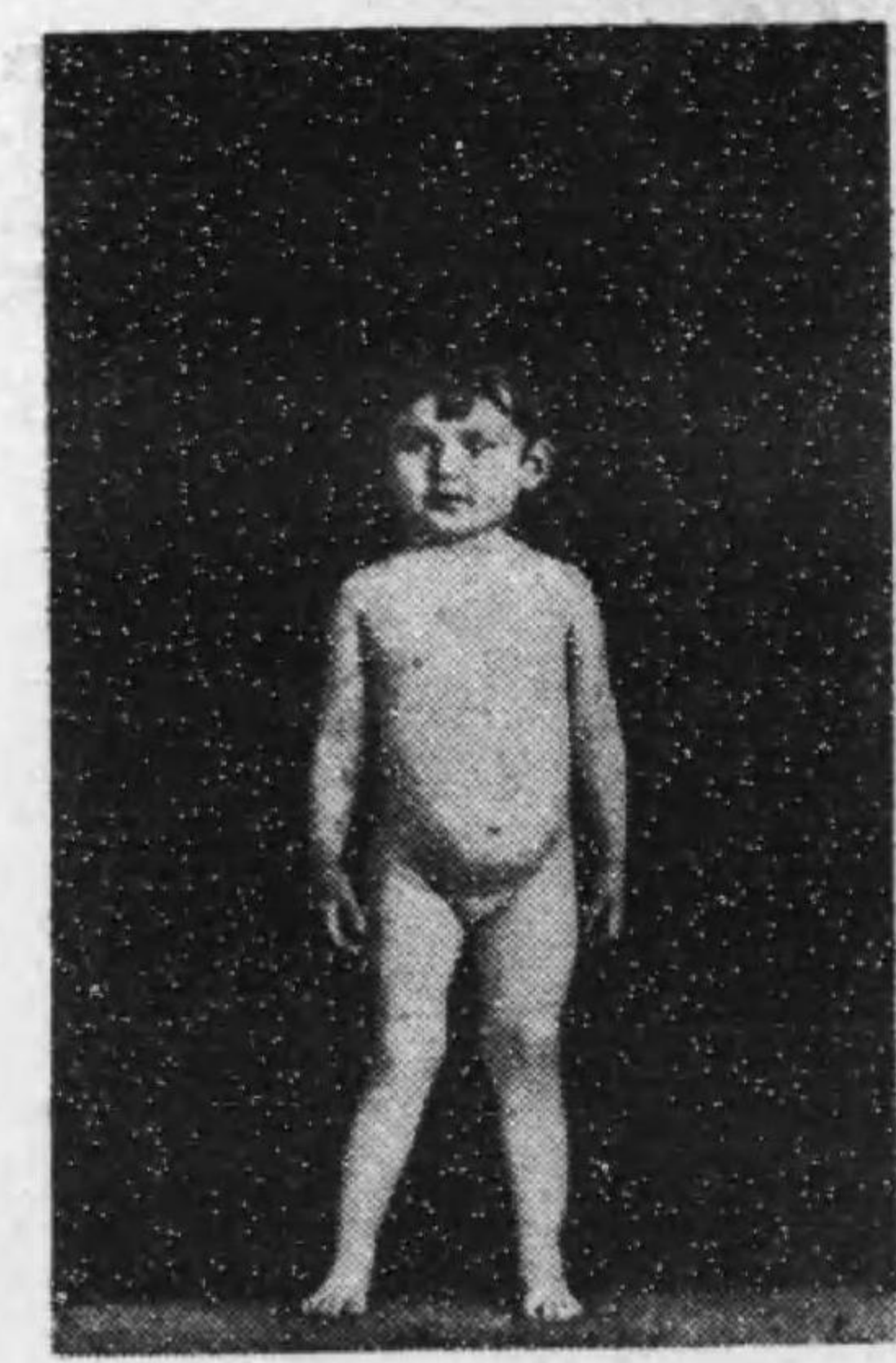
第十三圖

一歳兒、體重は出生時の三倍。  
歩く練習が初まる



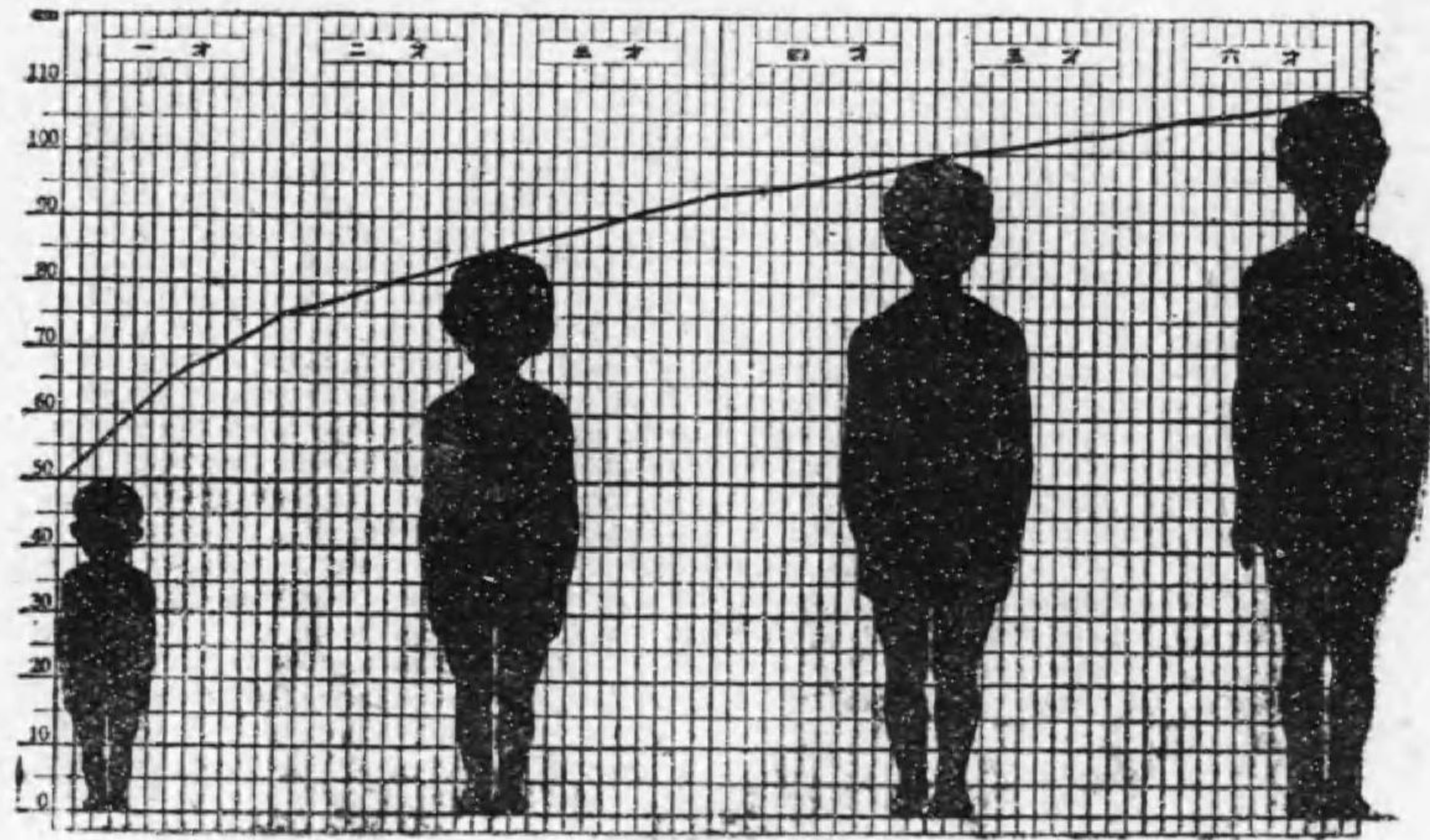
第十四圖

二歳兒、身長體重は僅かに増加するも精神  
發達は著しい。話ができた





育發長身のでま歳六 圖七十第



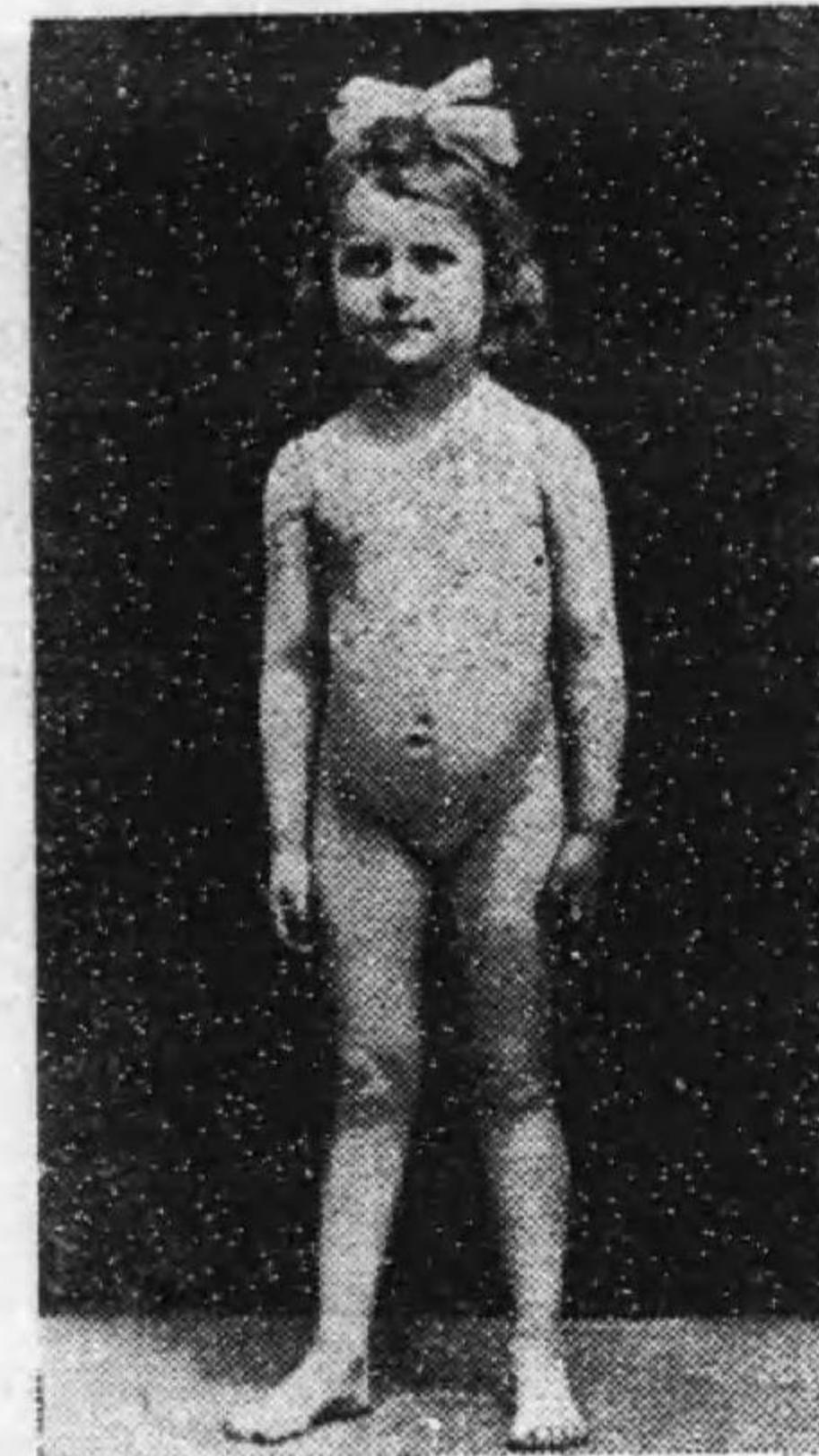
身長の發育は一歳に於て最も著しい。  
即ち左の如くである。

一歳には 二五仙  
二歳には 一〇仙  
三歳には 八仙  
四歳には 六仙  
五歳には 五仙  
六歳には 四仙

第十五圖

四歳兒

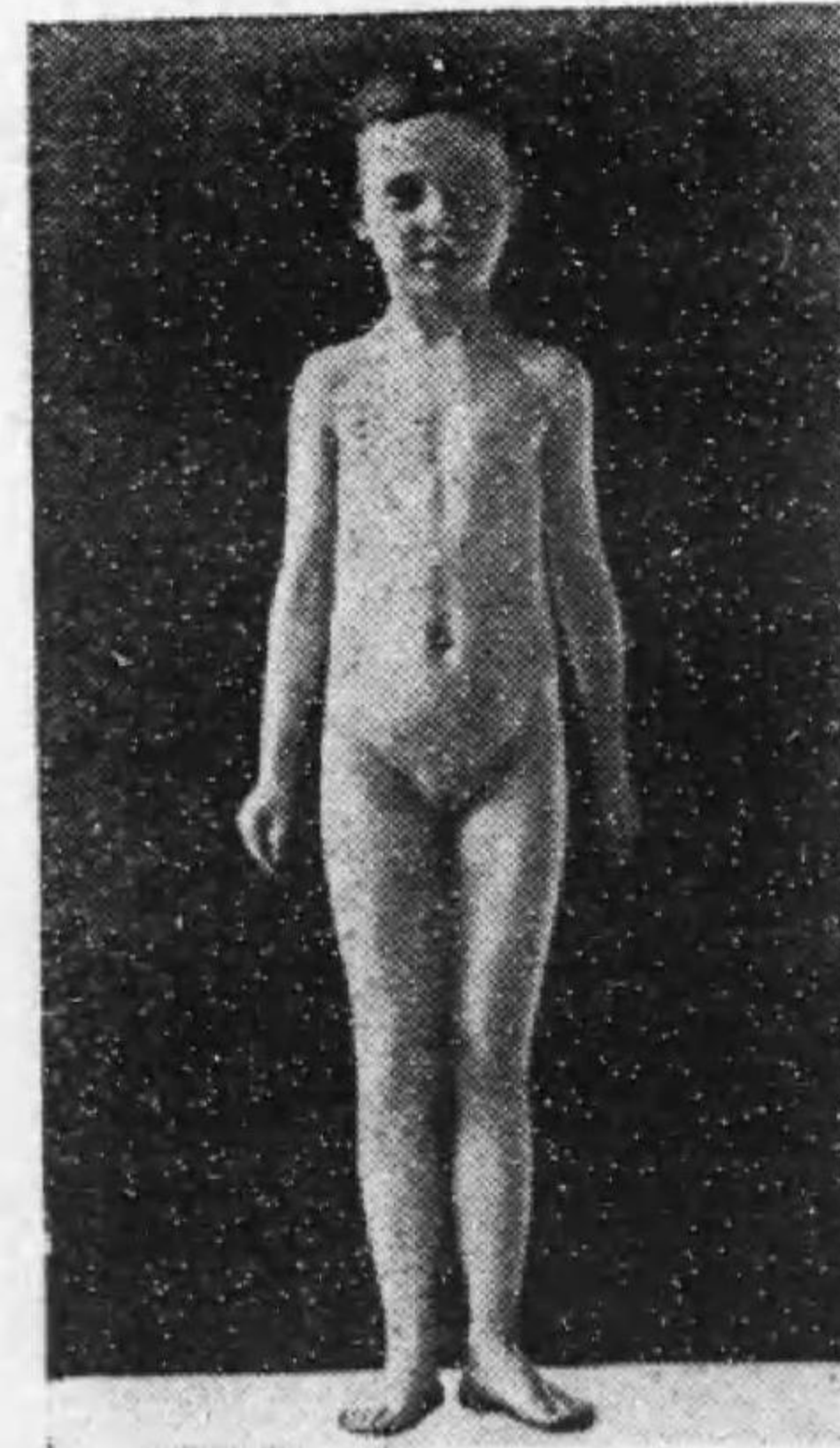
過重の負擔をせずに精神教育を行ふ必要がある。



第十六圖

六歳兒

筋肉はかたくなり、身體は少しやせて居るが異常ではない。學校入學の時期に達した。





圖九十第



二の美種人

け易くなる。  
思春期は、大望を懐き名譽を博せんとする傾向を生ずる。或は自由を望みてあらゆる束縛より離れん

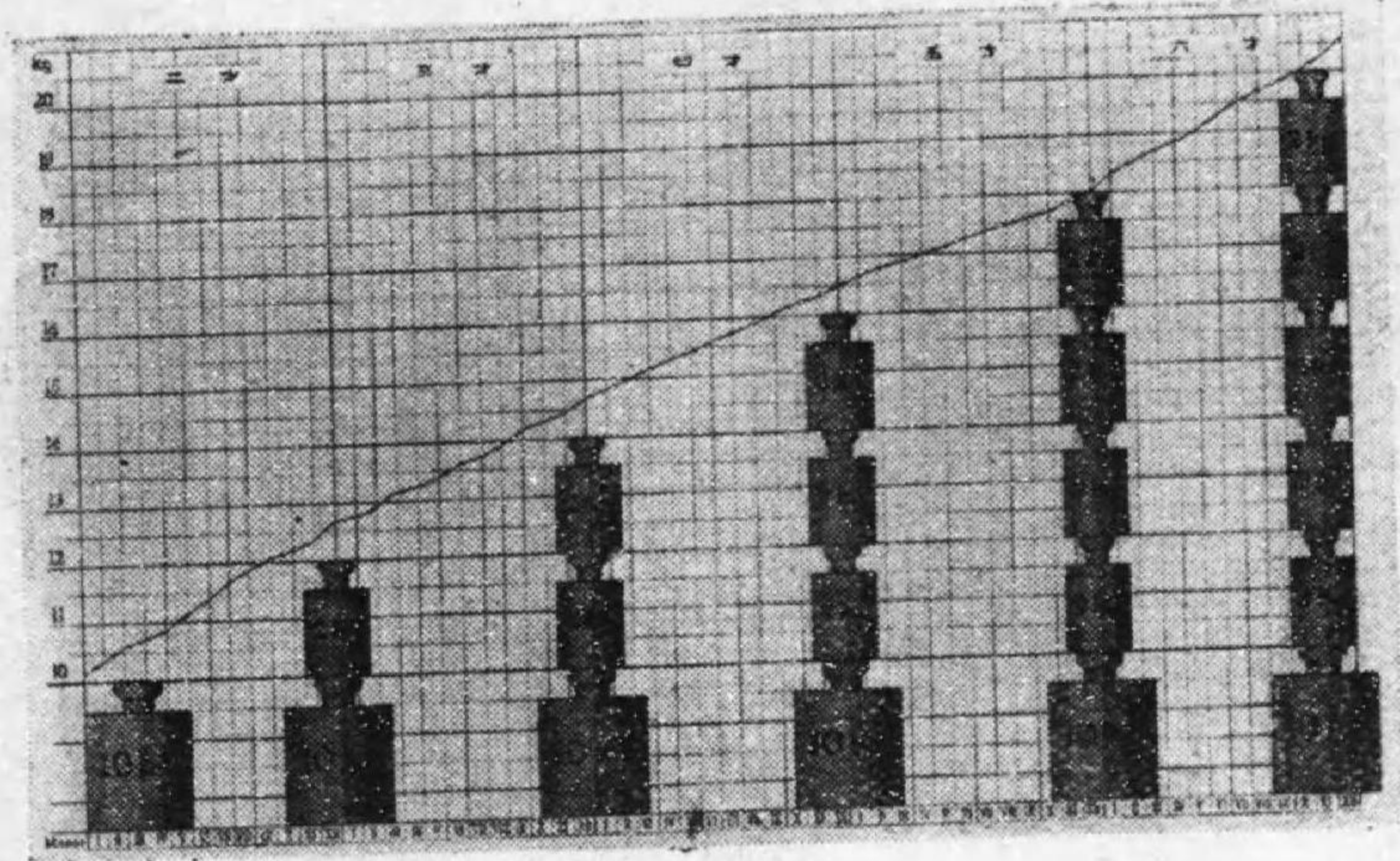
思 春 期

しいが生殖器の發達はもつとも著明である。これが第二次性徴である。  
維也納美人

女子の思春期成熟期は蕾が花になる時期である。これは女子の十三、四歳頃で、生殖腺が著しい發達をとげるのである。身體全部の發達も著

肉體の發達とともに精神上の變動が思春期に起る。即ち精神はこの期になると過敏となり、喜怒哀樂が劇しく起りそれが變化し易くなる。従來の無邪氣な性質がなくなつて虛榮心、名譽心、懷疑、誘惑等の危険が襲ひかかつて来る。異性に對する興味が起つてくる。従つてこの時期に異性から誘惑を受

加増の重體 圖八十第



一歳乃至六歳までの體重の増加は各年約二基瓦づつである

ソイタスグンラ圖八十第至乃圖八第)

(る據にトツロ



ことを企てる。又この時期に宗教的信念を得て信仰の生活に入らむことを望むこともある。要するに思春期は人生に於ける波瀾の時である。嵐が去ると光風霽月の天地がくるけれども不幸にしてそうでなければ人生の春の時期に忌むべき雨と風が加はることになる。斯くて洋々たる人生の前途を暗黒にしてしまふのである。

思春期は實に人生の危機である。誤つてこの峠から深い溪の底へ落ちぬ注意が要るのである。女子自らの修養はもちろんのこと女子を指導する任に在るものは嚴に流れず寛に失せぬ愛育を行ひ前途を誤らぬやうにしなければならぬ。

この時期にあつては滋養ある食物を與へ作業を營ませ運動をさせる必要がある。精神の修養はもとより規律正しき生活を營ませ、意志の練習を行ふやうにしなければならぬ。それと同時に適當の娛樂を與へることも素より肝要である。

### 更年期

咲いた花は又散りゆく時がくる。婦人の月經がなくなるのはこれと同じことである。更年期と稱せられるのはこの時期である。即ち月經閉止は四十五、六歳ごろに始まるもので、卵巢の作用が衰へて卵の成熟もせなくなる。子宮は小さくなり皮膚の光澤も少くなり脂肪も減つてくる。物質交換の作用も不活潑になり、性慾は、著しく減退

するのである。精神的にもいろいろの變調が起る、所謂婦人の初老の時期に入るのである。氣むづかしくなり、世を悲觀したり又ぐちを言つたり、嫉妬が起つたり、所謂姑氣質となり、怒り易くなり、又涙もろくなり周囲のものが取扱ふに困難となる。この時期に精神病を起すことも少くない。

### 月經

#### 月經

月經とは子宮腔より週期的に血液を排出する現象を言ふ。この現象は外因によらず、内部的原因により起るものである。月經は邦語にて月事、月水、經水、不淨、月信、月やぐ、月のさはりなどと呼ぶ。月經の初めて起るのは、人種、地方、生活、階級等により異なるが日本人では平均十四歳乃至十六歳に現れるが最も多い。私等(三田谷及比岩岡)の調査では初經年齢は平均十四歳十一月である。

#### 月經の初發

月經の起る時期の異常に早發と晚發との二種がある。早發では生後二週間、二ヶ月、三ヶ月頃現れる者がある。晚發では廿歳にて漸く初經を見る事がある。



月經の持續日数は二日乃至七日である私等（三田谷比岩岡）の調査では平均五日であつた。同一の人でも年によつて持續日數に差が起る。肥滿すると概して短くなる傾向がある。月經は何年ほど續くかといふに初發以來まづ三十年と言はれて居る。十五歳に初經があつたとすれば四十五歳頃まで續くのである。

代償月經

月經は子宮出血であるが時によると他の部位から月經の代りに出血を見ることがある、(例へば乳房、鼻、眼など)これを代償月經と言ふ。月經の



人美のカリメア 三の美種人

起らぬ場合は左の如くである。

- 一、子宮や卵巣が十分發育せぬ場合
- 二、腔口の閉鎖して居る場合
- 三、兩側の卵巣を切除した場合
- 四、妊娠中
- 五、病氣の時（結核、萎黃病、腎臟病、貧血、バセドウ氏病、糖尿病の如き）
- 六、榮養障礙の場合
- 七、分娩後一定時期の間
- 八、精神的異常の場合

月 經 過 多

月經の多過ぎる場合は次の如くである。

- 一、子宮内膜炎
- 二、子宮癌
- 三、子宮筋腫
- 四、子宮變位
- 五、卵巣病
- 六、喇叭管病
- 七、惡性貧血、萎黃病
- 八、肝臟病、腎臟病
- 九、出血性素質

月 經 時 の 狀 態

月經時の故障は凡そ次の如くである。身體的には頭重、頭痛、倦怠、腹痛、關節痛、皮膚浸潤、神經痛、嘔吐

又は下痢、齒痛等である。

精神的には記憶力減少、恐怖、憂鬱、暴言、失神、犯罪等である。

月經時に於ける身神の障礙は個人によつて輕重種々である。輕きときは殆ど日常の如く作業すれども重き場合は臥床を必要とすることがある。



### 月經の手當

月經時の手當として次の點に注意をする。

- 一、身體殊に外陰部を清潔にすること
- 二、食物は刺戟性のものを避け消化し易きものを攝取す
- 三、運動は劇烈に過ぎてはならぬ。長途の旅行、乗物、體操、舞蹈、乗馬等はよくない
- 四、新鮮なる空氣中で平安の生活を行ふこと
- 五、疼痛の場合は醫師の診査を受くる事
- 六、入浴の際腔内を洗ふ必要はない。疼痛、感冒等の際は入浴を見合わせる事
- 七、月經中は感冒に罹り易いから特に注意が要る
- 八、精神の安靜を保つこと

## 女性と結婚

### 戀愛

物には相結び、相離る性質がある。酸素と水素は結び合ふが、火と水とは結び合はぬ。人は同じ人でも相引き又相排する性をもつて居る。男の中にも女の中にもこの半面がある。しかし概して言ふと男女異性は互に引き合ふ性質がある。

淋しいと言ふ感は他人を慕ふと言ふ初めである。夜の山道は淋しい。花や月を見ても一人では淋しい。うまいものを食つてもつれがないと淋しい。これの反對は友があると淋しくない。連が居ると淋しくないと言ふことになる。男は男連、女は女連よりも異性があると更に特別のよしみがあるので。男同士の中に女が交ると特別美はしい情緒が加はる、男女相引く性質があるからである。その性質が個人化(對人化)したときに戀愛の心が起るのである。即ち特定の男と女との間に起つた相引く心理状態が戀愛と名づけられるものである。

圖一廿第



四の美種人

### 戀愛結婚と媒酌結婚

結婚には戀愛が先づ起りその結果結婚の成立するものと(戀愛結婚自由結婚)戀愛を省略していきなり結婚に飛び込む結婚(媒酌結婚)と



がある。

両者の形式については可否の議論が多い。

### 戀愛結婚主義者

百年の苦樂を共にする夫婦が相知り相許し相愛したものでなければならぬことは當然である。性質のわからない異性が突然結婚することは冒

険だと言ふのである。

### 媒酌結婚主義者

異性は相引く性質がある。媒酌結婚は日本で長い間實行して來たが大きな間違なくすんで居る。結婚すれば男と女は互に相愛する精神が養はれる。たとひ相愛し合ふなどと言つて自由結婚をしても後には離れてゆくことがあるから戀愛結婚もあてにならぬと言ふのである。

右の二説は兩方とも理由があります。議論すればつきぬことである。自由結婚は理窟から言ふと離婚のあるべき筈がないのにそれがある。自由結婚論者から言へば媒酌結婚は殆ど離婚すべき筈だが實際はそうでもない。自由結婚は理論としては筋道が通つて居る。しかし日本のやうに年頃の男女が互に知り合ふことの機會の少い社會にあつてただちに自由結婚主義を採用すると、思はぬ危険が伴ふのである。

しからは媒酌結婚として在來の形式を守るのがよいか、戀愛と言ふ苦しい山道を経ないで一足飛びに結婚してもともと相引き合ふ性質があるから男女が一緒になると喜びが兩方から湧きでて相愛せずには居られなくなるとの觀察もある。實際さういふこともあるだらう。しかし人生の最も意義の深い結婚を他人に任して置いて平氣で相知らぬ同士がいきなり結婚することも一面から見ると妙なことに聞こえる。女子でも男子でも教育程度が進むと自然別のやうな考へが起つて周圍のもの考へといくらか違つてくるのは無理もない。然らば最後に自由結婚と媒酌結婚とをどう言ふやうに判断すればよいのか。

日本の現在の状態から言ふと自由結婚も媒酌結婚も兩つながら採用する方針をとるのがよからう。男女が互に理解し合ひ周圍の目から見て「ふさはしい縁」だと思ひが一致すればそれでよい。汽車の中で話し合つたとか、一晚ダンスホールで踊る相手をしたとか、別府行きの船でしばらくの間互にはなしをする機會があつたとか言ふだけで、猛烈なる戀愛意識が急に發生したなどと言ふのは多くの危険性が伴はれる。

媒酌結婚で雙方はほんの一度か二度、それもちよつと逢つたに過ぎぬが身體も丈夫だと言ふ醫師の證明書があるし、學業成績もよし、性格も上品だし、趣味も互に似て居るし、雙方の家柄などから



言つてもふさはしい縁だと言ふことならば戀愛を抜きにした結婚もよからう。只時とすると男と女の保護者に結婚の重大なる意義を忘却するものがあつて、やゝもすると財産とか、地位とか、名望などのために男子と女子とに犠牲を強ゆるやうなことがあるから、とくにこの點を注意すればよい。

**婚 姻**

婚姻（結婚）は男女が共同一致して生活する結合關係の形式を言ふ。即ち婚姻は男女が苦樂を共にし、内的共同生活を行ふための結合である。法律で認むる範圍で結婚し得る能力あるものを婚姻能力者と言ふ。我國の民法では男子は満十七歳女子は満十五歳に至らざれば婚姻をなすことを得ずと制定されて居る。尙特殊の場合には婚姻を禁する制定がある。例へば配偶者は重婚をなし得ぬ。又女子は前婚の解除又は取消の日より六ヶ月を経なければ再婚が出来ない。又姦通によつて離婚又は刑の宣告を受けたものは相姦者と結婚することが出来ぬ。直系血族又は三等親内の傍系血族の間に於ても結婚することは出来ぬ等の類である。結婚は共同生活を原則とするから、妻は夫の家に入りて夫婦同棲し、相互に扶養の義務を負ふべきものである。

婚姻は男女の共同生活を目的として行はるゝもので、家庭を作り、次いで子女を生ずるに至るものである。若し男女に遺傳性缺陷ある場合には、その子孫に、悪影響が及ぶから配偶者の選定に際しては注意を要する。例へば本人又はその祖先に精神病、神經病、癲癇、結核、卒中、糖尿病、酒客等のものある場合は特別の顧慮を要する。同時に進んで配偶者の智能及び性格の優秀、身體の強健等を必須條件としなければならぬ。なほ配偶者の専門的智識、社會的關係、經濟的關係等に對しても調査を要する。身體の健康、智能及び性格、家庭の地位等に多大の懸隔ある場合には特別の注意を拂はなければならぬ。近時稱へらるゝ優生學は遺傳の現象を根本的に研究し、之を人類に應用せんとするものであつて、これには配偶者の選擇を主としなければならぬ。

**各國に於ける結婚年齢**

結婚年齢は各國に於て法律で最低年齢が定めてある。

國 名	男 子	女 子
英 國	十 四 歲	十 二 歲
ス ペ イ ン	十 四 歲	十 二 歲
日 本	十 七 歲	十 五 歲
佛 國	十 八 歲	十 五 歲
露 國	十 八 歲	十 六 歲



伊國	十八歳	十五歳
和蘭	十八歳	十六歳
埃國	十九歳	十五歳
白耳義	二十一歳	二十一歳

これは結婚の年齢の最低を示したものであるから、これを直に結婚に最適の年齢と見做してはならぬ。

**血族結婚**

血族結婚による弊害の有無については、古より種々の説が行はれてゐる植物及び動物について行はれた試験に徴しても、その種類によりて、その成績は軌を一にして居らぬやうである。人間については観察するに血族結婚によつて新たに身神に缺陷を生ずるものとは認め難い。しかし男子又は女子に缺陷を有する場合は、血族結婚にあつては、子孫にその缺陷が遺傳することがある。殊に遺傳性缺陷の同一種類が男子と女子とに認められる場合、又は夫婦の缺陷が互に近似せる場合、その子孫に及ぶ影響の少からぬ事實は明かに認められる。概して云へば血族結婚は避くるを可とするも雙方に缺陷なき場合には結婚を禁止するには及ばない。

**結婚を禁止すべき疾病及び異常**

- 一、精神病者
- 二、肺結核
- 三、癲癩
- 四、精神薄弱者
- 五、性格異常者
- 六、性慾倒錯者
- 七、聾啞
- 八、常習性飲酒家
- 九、梅毒及び淋疾
- 一〇、癩病
- 一一、糖尿病
- 一二、畸形
- 一三、血友病
- 一四、色盲

**重婚**

配偶者ある男子又は女子が重ねて他のものと結婚するときは重婚と稱し刑法第百八十四條に之を禁止してある。これは家族を尊重し、一夫一婦制を完全に遂行し、社會的秩序と安寧とを保持せる目的に外ならぬのである。現今文明國に於ては悉くこの方針をとり、重婚のものには刑法の命するところにより處罰されることになつて居る。我國では詐欺又は脅迫によつて婚姻をなしたるものはその婚姻取消を裁判所に請求し得る民法令が設けてある。

**結婚に適する年齢**

結婚に適する年齢は男女ともに身神が十分成熟した時期だと言ふべきである。男子は二十五歳から三十歳、女子は二十歳から二十五歳位が結婚



に適した年齢と見ることが出来る。男女の年齢の差が著しいと結婚に適しない。男女の年齢の差はまづ五、六歳から十歳位の程度がよいであらう。老人が娘か孫のやうな妙齡の女と結婚したり、又老婦が若い男と結婚した例もあるが、生理上から考へても不合理であるから永く夫婦生活を愉快に續けてゆくことは困難である。その結果老いたるものの方に老衰の徴候が起り易い。そして短命に終るやうな不幸を見るのである。

### 輕卒なる結婚

結婚は人生の第二の誕生である。これに失敗したら人生の失敗者とならなければならぬ。男も女もこれは同じである。

この重大な結婚を犬か猫かの結婚するやうに輕卒にきめてしまふことは天下の冒險事業である。友愛結婚などはその一つの變態であるがこれは意識して試むべき性質のものではなからう。婦人はやゝもすると、夫を選ぶ場合、本人の地位と資産などに最大の重點を置く。しかし健康を最も注意しなければならぬ。どの位敏腕家で資産家であつても學生時代に放蕩した經驗などがあると餘程注意しなければならぬ。たとひ放蕩はしないまでも身體が病身であつては非常に危険である。故にレントゲン像、血液試験などを参考にする必要がある。少くとも醫師の診斷を配偶選定の一條件にする位のこと考へて居なければならぬ。只一回の見合位で容貌がよいとか、色が白いとか、

目つきが氣にいつたなどと言ふ位で輕卒に婚約をすると言ふやうなことは慎まねばならぬ。

### 早婚すべきか

早婚の年齢に嚴格の制限はないが男子二十五歳女子二十歳以下はまづ早婚とみてよいであらう。昔は十五歳や十六歳で父となり母となつたものがあるやうであるが、これは例外もあらうが概して言ふとよくない。今日では各國で結婚の最低年齢を制定して居る。しかしそれは結婚を許す年齢の範圍を示したものであるから獎勵すべきものではない。早婚の弊は男女の身體の發育がまだ不十分であるとその影響が子孫に現れて身神によくない性質を得ることが少くないからである。日本では「總領の甚六」と言ふ諺もある位で、もしその總領が父母の弱年に生れた場合甚六は一層程度の強い甚六になるわけである。除外例はもとよりある。古來有名な人物は父母が大抵相當年をとつてから生れたものに多い。長男で偉くなつたものも勿論あるが弱年の父母から生れたものに偉人は割合に少いのである。

### 早婚と晩婚

女子が早婚すると性交に神經を痛め、一面には妊娠、分娩、産褥、哺乳等のため身體の疲勞を招き精神上の故障を起しやすい。

晩婚即ち三十歳又はそれ以上の年齢になると女子の身體就中生殖器の組織が硬くなり、出産の時に重い傾向が生ずる。のみならず婦人は割に早く老いるのである。



### 友誼結婚

米國のカンサス州ギラード市で成立した友誼結婚は女性解放の一方面である。この結婚には次の如き條件がある。

- 一、結婚は両親の承諾によつて行はれ新夫婦の生活には両親が責任をもつ
- 二、新夫婦には産兒制限の知識を與へ友誼結婚中は妊娠せしめぬこと
- 三、兩人が經濟的の獨立をなし、兩人の愛が保続し家庭を持つ熱情がある場合にのみ正式に結婚を行ひ、その後は子を持つと否とは本人同志の自由に任せる。

この友誼結婚はもつと早くから米國で行はれ居るところの試験結婚とよく似たものである。

### 新婚旅行

新婚旅行は日本でもだんだん流行するやうである。結婚によつて性交の初まつたものが二人で旅行することは楽しいことに相違はないが、身神

の衛生から言ふと注意しなければならぬ點が多くある。

その一つは頻繁なる性交による生殖器の充血状態である。そのため子宮内膜炎、子宮周囲炎などが起ると言ふのである。これは實際起ることもあるし又夫に性病があつてそのために愛溺の生活が妻に感染を早からしむることもある。その次は旅行による疲労である。

結婚準備、結婚式などのため身神が相當疲れて居るのに、その快復をまたずして新婚旅行にでると

一層疲労が増すのである。冬期の新婚旅行中に感冒にかかりそれが肺炎に進んで新婚旅行の途上花嫁はホテルで重症患者となつて横臥したと言ふやうな例もある。

### 丙午と結婚

サクセンの美人（貴婦人型）



丙午の歳に生れた女子は、その夫を喰ひ殺すなどと言ふ迷信がある。これはいつから始まつたか、明かに解らぬけれども、享保年間の丙午の歳より以前にも丙午を忌むことは、世間に宣傳されて居たやうである。

### 五の美種人

このことは何等科學的根據の無いものであるが、その迷信の弊害の多大なるに驚き、この考へを打破することの必要が起つたので、諸家の書物の中にそのことが記載してある。然るに昭和の今日に於ても、なほ民心に固着して、そのために縁談が遠ざ

かつたり、それを苦に病んで、自殺するものなどのあるに至つては、戦慄せざるを得ない。迷信の

圖 二 廿 第



弊も亦大なりと云ふべきである。

## 妊 娠

### 妊 娠

妊娠は男女の生殖細胞が合体（受精）して發生するもので次の條件を具備して居なければならぬ。

- 一、男子精蟲の存在及びこれを射出する輸精管、尿道、攝護腺、コーベル氏腺等の健全なること。
- 二、女子の卵子の健全なること。
- 三、精蟲及び卵子の結合するに故障なきこと。
- 四、精蟲と卵子と結合したる後は子宮に來る。故に子宮の形狀、位置及び機能に異常なきこと。

### 不妊はどうして起るか

不妊の原因は男子側にある場合と女子の側にある場合との二種がある。

- 一、睪丸缺如 睪丸のない場合、これは先天性の場合と生後手術して摘出した場合との別がある。
- 二、睪丸潜伏症 睪丸が腹腔から陰嚢内に下降せぬもの。
- 三、睪丸細小 睪丸發育の不充分。
- 四、精蟲缺乏症 精蟲の存在せぬ場合。

五、淋毒、梅毒の如き疾病。

六、卵巢の諸疾患 卵巢缺如、卵巢發育不全、卵巢萎縮、卵巢炎、卵巢腫瘍。

七、輸卵管（喇叭管）の諸症

八、子宮全缺、子宮發育不全、子宮位置異常、子宮炎症

### 人工妊娠法

不妊の原因がよくわからなくて、人工的に妊娠を企つる場合は夫婦の両方を診査し、男子の精液を注射器に採取し、これを婦人の子宮頸部内に徐々に注入する。然る後清潔なる棉花に残りの精液を潤し子宮外口部にあて置き婦人をして數時間臥床せしむ。かくて數週間婦人に安静をとらせ、劇度の運動を避けるやうにする。

人工妊娠法の成績は素より百發百中とはゆかぬ。従來の實驗報告を見ると約三分の一は成功してゐるやうである。子を熱望して得ず寂寞の日を送つてゐるものにとつて人工妊娠法は一大福音と云ふべきである。



胎兒の成長

胎生二箇月後は胎兒の身長は著しく延びてゆく。ここに示す。第廿三圖はその状態を現したものである。

圖 三 廿 第



第一の分二の天然自終の月々二生胎 圖イ第  
 一の分二の天然自終の月々三生胎 圖ロ第  
 一の分二の天然自終の月々四生胎 圖ハ第  
 (ツツラトス)

左に示すは胎生二箇月のものにして既に人間の胎兒なることを認め得られる。第二十四圖のは三乃至五週の胎兒、十五ミリメートルの長さ、頭の高さは全身の二分の一、鼻と口とは明かにわかる。

第2第3第4圖は人間の胎兒であることが一層明瞭となる。

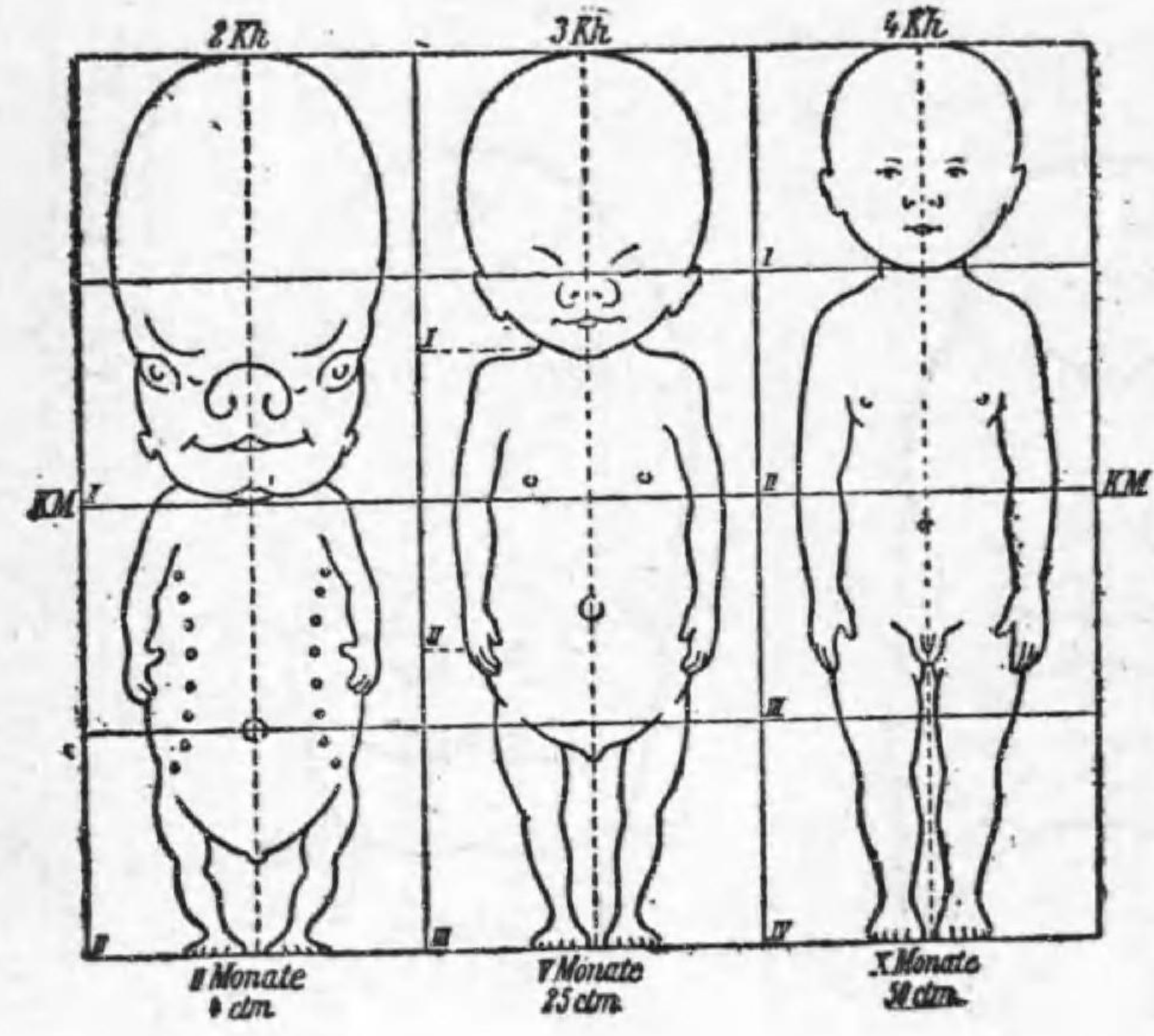
第5圖を見ると最早人の子であることに疑ふ餘地はない。

胎生二箇月の終りには胎兒全身身長四センチメートルに達する。



圖 五 十 二 第

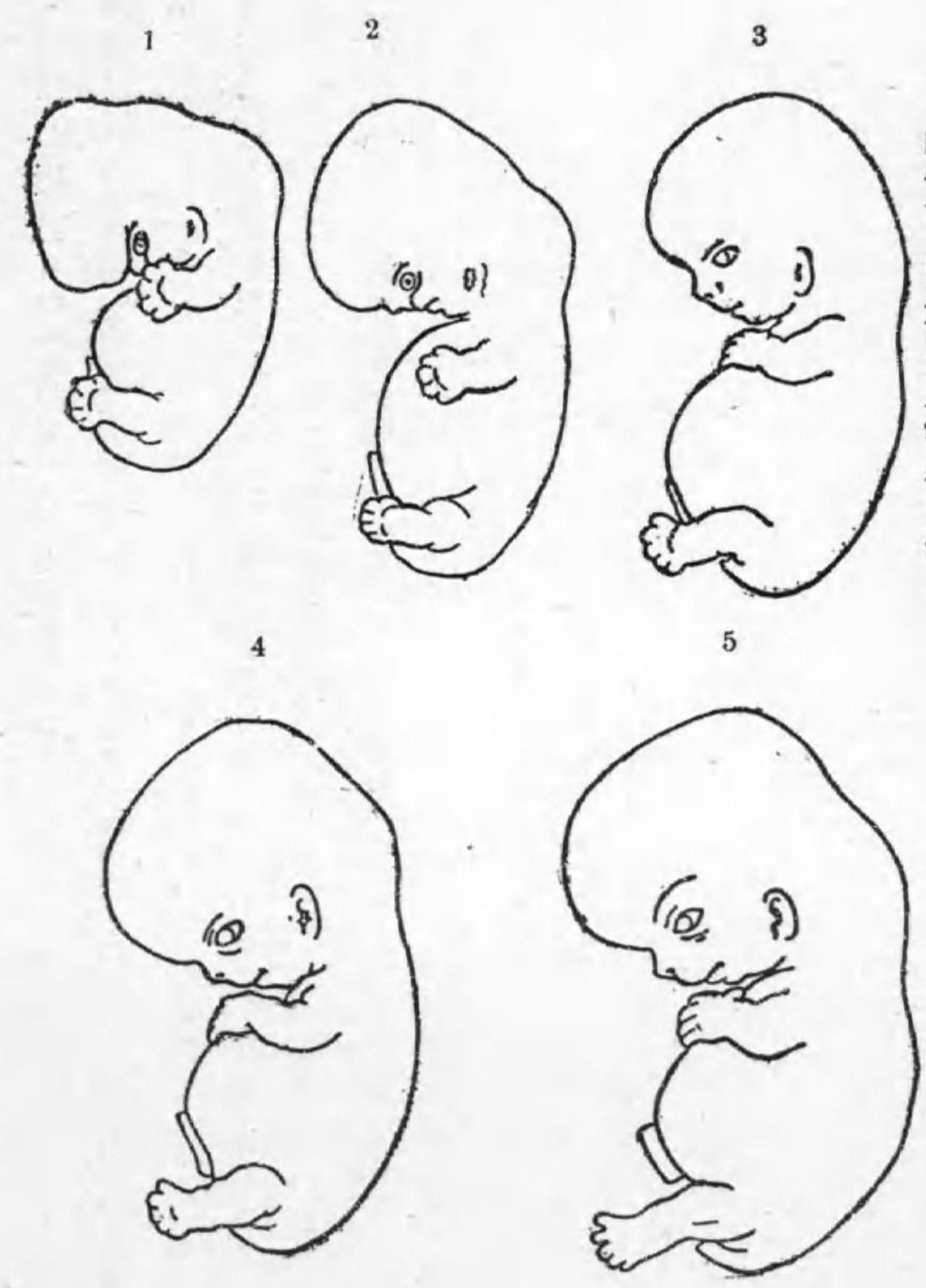
(ツツラトス) 例比び及長身の兒胎



胎兒の身長

胎生第二箇月に於ては胎兒は僅に二センチメートルの身長である。そしてこの時には頭と顔との長さは全身の半分もある。五箇月になると身長二五センチメートルに達し頭と顔の長さは全身長の三分の一、成熟するとその関係が四分の一になるのである。(第二五圖)

圖 四 十 二 第



胎生二ヶ月に於ける人體 (ヒス)



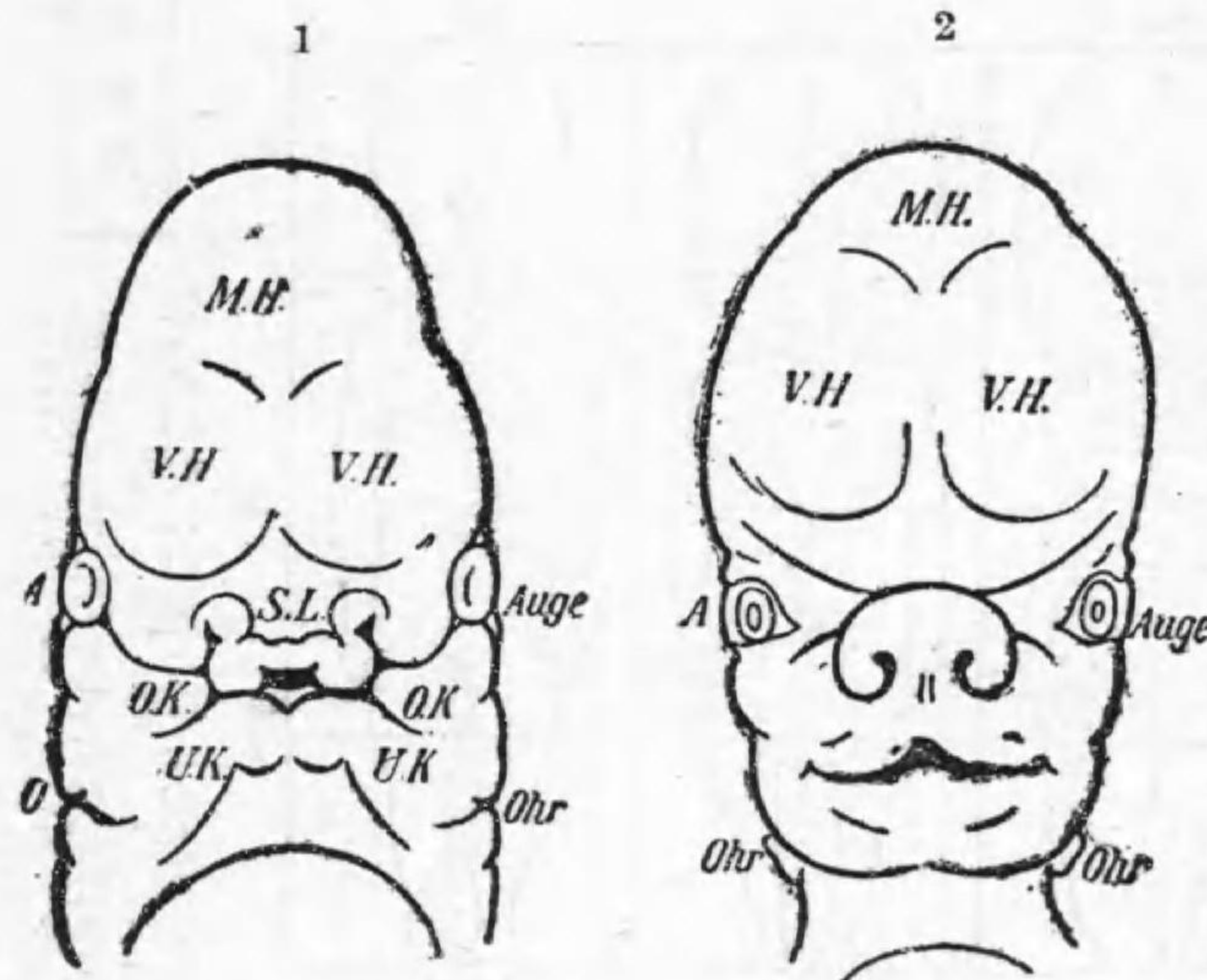
顔の成長

人體に於ける顔の發生は胎生の六週に於て口と鼻を明瞭に認めることができる。これ等の外口はまだ閉じて居ない。開いたまゝの口の奥の方に小さな形をしたものが後に舌になるのである。

(第二六圖第一)

第二六圖第二は胎生七週のもので鼻と口との界が既にできて居る。口と眼との裂隙ができ、顔の中にあるいろ／＼の開口部が獨立するやうになるのである。

圖六十二第



(ルブラビ及スヒ) 態狀の達發面顔の間人

妊娠時に起る全身的の變化

一、消化器に起る變化 悪心と嘔吐。これは普通「ツワリ」と稱せられ學術語では悪阻と名づけられるものである。大抵は妊娠第二ヶ月頃より始まり第四ヶ月ごろまで持續する。この嘔吐の特徴は毎朝空腹時に起ることである。その他嗜好物に變化を起し、酸性のものを好み、又平常好まなかつたものを好んで飲食するやうになる。土、炭、白墨などを食ふこともある。又唾液の分泌が盛になつて困ることがある。

二、循環器に於ける變化 心臓部に動悸が盛になり胸内が苦しくなる。又鼻出血やめまひを起す事がある。

三、神経系統に起る變化 諸所に疼痛が起り易い、例へば頭痛、齒痛、腰痛、四肢痛等である。

四、皮膚に起る變化 乳房、大陰唇、會陰、上腿内面、腹壁の中央等は色が黒くなる。顔面に雀斑の出来ることもある。妊娠線は下腹部に起る皮膚深部の龜裂である。

五、泌尿器に於ける變化 膀胱は膨大せる子宮により壓せられ尿を永く貯めて置くことが出来ぬから度々排尿(尿意頻數)するやうになる。妊娠末期になると兒頭が骨盤の中に這入るから膀胱を壓してますます尿意頻數が起る。

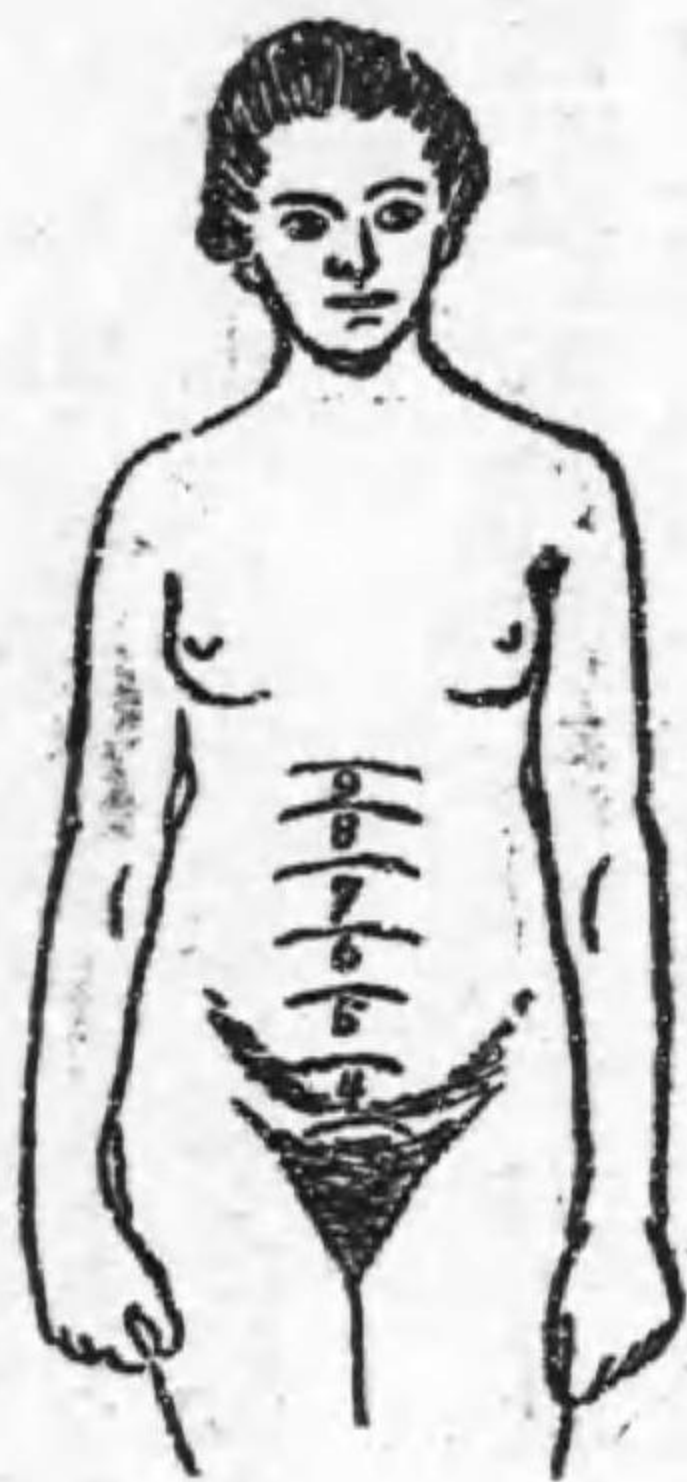


### 妊娠時に起る生殖器の變化

一、外陰部及び陰部の變化 陰唇は腫れ、汗腺、皮脂腺の分泌を増す。腔粘膜の分泌多くなり、藍赤色を呈するに至る。

二、子宮の變化 子宮壁は肥厚し、血液に富み柔かくなる。初は長い茄子形であるが後に圓くなり更に卵圓形になる。妊娠の月によつて變化を來しその位置が違つてくる。その状態は左圖の如くである。

圖七十二第



妊娠各月の子宮底の高さ (數字は妊娠月數)

### 子宮外妊娠

受精せる卵は子宮腔内に附着しそこで成育するのであるが、異常として子宮外の部位で妊娠することがある。その部位によつて種別がある。

- 一、原發性腹腔妊娠
- 二、續發性腹腔妊娠
- 三、卵巢妊娠
- 四、喇叭管卵巢妊娠
- 五、喇叭管妊娠

### 妊娠中の養生

妊娠中は身體や精神の抵抗力がよくなるから、日常の生活に注意が要る。

食べものは滋養に富み消化しやすいものをとるのがよい。刺戟性の強いものは避けるがよい。アルコール性飲料はもとよりよくない。カルシウムやビタミンの缺けないやうに注意する。

運動は無理をしてはならない。過劇の勞働はもとよりいけない。又手を高いところへ伸ばす運動や跳いて洗濯することや、箒等の引出を力入れて引くことや、漬物の石をあげることなどはよくない。また階段の上り下り、重いものをさげて歩くことなども避けるがよい。

新鮮な空氣の中を軽い散歩するやうなことはつとめて行ふのがよい。穿きものに注意して高下駄などは用ひぬが安全である。

旅行は電車、汽車、乗船、自動車何れもよくない。殊に妊娠が五ヶ月以上になつたら長途の旅行はよくない。

精神の状態は妊娠中大層過敏になる。故に妊娠自らは平素の修養を基とし、なるべく平靜を守る工夫をするのである。又周囲の人々が妊娠の精神に不安を與へることのないやうに注意しなければならぬ。妊娠の精神が不安になつて感動がひどくなるとそのため胎兒によく影響の及ぶことがある。



ある。それだから感情を高める小説を読んだり、又悲劇を見たり、活動を見たりすることはよくない。むしろ修養に關する書物などを細くやうにするがよい。

### 妊娠の時に起り易い病氣

妊娠のときに起りやすい病氣はつぎの如くである。

#### 妊娠腎臓炎

妊娠の後期に起りやすい病氣である。顔、四肢

全身に浮腫がくる。尿が少くなり尿中に蛋白が出る。

腎盂炎 高い熱が出て、腎のある部位に緊張不快の感又は痛みがあり、尿は減じて濁ってくる。

妊娠脚氣 下肢に疲勞倦怠や知覺異常が起る、浮腫も起る。歩くことが不得手である。重いときは心臟麻痺を起して倒れるのである。

心臟病 心臟の悪い婦人が妊娠すると症状が増悪するのである。脈が不整になり呼吸がくるしく

口唇が紫藍色になり、浮腫が現れ心悸亢進が起る。

肺結核 軽い場合は妊娠中あまり進まないが、相當進行して居る場合は妊娠中發熱したり咳嗽

が出たり、貧血したりして衰弱することがある。

感冒 妊娠中は感冒にかかりやすい。従つて流行性感冒にも罹り易い。そこで流産や早産が起り

やすい。時によると妊婦は重態に陥ることがある。

急性傳染病 妊娠中は抵抗力が弱くなつて居るから諸種の急性傳染病にかかりやすい。そのために流産、早産を起し、時には重症に陥ることがある。

### 流産の豫防

流産は妊娠七箇月以内に胎兒が子宮外に排出されるものを言ふのである。流産の原因はいろいろある。

精神の興奮は流産の原因となりやすい。過劇の運動、衝突、外傷、榮養障礙、種々の子宮病、急性傳染病、肺炎、腎臓炎、腎盂炎、心臟病、糖尿病、肺結核、脚氣、中毒症等も流産の原因或は誘因となる。

流産の豫防をするには原病に對して適當の治療を施すのである。梅毒のある場合は驅梅毒療法を行ふ

精神の不安をさげ過劇の運動を禁じ、むしろ安靜をとらせるがよい。

もし局所に徴候が現れたら絶對安靜をとらせると共に醫師の處置を受け早く適當な治療によりこれを完全に豫防するのである。

### 胎内教育

普通には、コドモの顔を見てから教育が始まるものと思つて居る。これは晚い。實を言ふと男女の結婚から兒童教育が始められる筈である。しかしそれはそうとしてここでは妊娠中母體內にある胎兒の教育を説く。



第一身體と精神との働きは非常に密であつてそれは一如の關係にある。又母體から胎兒は榮養を受けて居る關係上母體の變化が直接胎兒に及ぶことも明かである。母體の精神がそのまま胎兒の精神にどれほどの影響を及ぼすかは詳細には分らない。しかし母體に精神の變調が起ると自然肉體にも變調が起る。其結果胎兒に血液を通じて變調が傳はる。その胎兒の身體の變調が精神に影響するのである。ことに妊娠中は妊婦の精神が刺戟性になつて居るから肉體の變調を起し易いのである。

以上の理由で胎兒の教育と言ふ點から見ると母體に注意をしなければならぬことが少くない。第一母が精神を安靜に保つことである。波瀾の起らぬ生活である。煩悶、憂慮、苦痛、憤怒、失望、落膽、嫉妬、恐怖、不満のない生活に入る修養が要る。

周囲の人々も妊婦に精神感動を與へない覺悟が要る。妊婦自らは新鮮な空氣日光に親み、更に天地の美はしい大自然にふれ、修養、趣味などの書籍を細くとか、畫とか、彫刻とか、書などをながめるのもよい。

胎兒の體育法としては妊婦は飲食物の注意をしなければならぬ。衣服は温かに、清潔に裕にする必要がある。皮膚は入浴して清潔に保つがよい。便通は滯らぬやうに整へる。運動は危険を伴はぬ

こと、長途の旅は避け、乗物にも注意が要る。強力を要する動作を避ける。新鮮な空氣の所を散歩する位がよい。よく眠ることも必要である。怪我を防ぐことも大切である。病氣は勿論早く治療して置かねばならぬ。病氣の豫防も精々行ふのがよい。

## 出 産

### 出産の種類

出産には時期の遅速によつて左の種類がある。

一、流産 妊娠七箇月前に出産の場合。  
二、早産 妊娠七箇月後正規間前に生れた場合。  
三、正規産 妊娠十箇月で生れるもの。  
四、晩産 妊娠十箇月以上を経過して生れるもの。

胎兒數より分類すると次の如くである。

一、單胎分娩 一人の胎兒が生れる場合。  
二、複胎分娩 二人以上の出産。これを次の如く分つ。  
(イ) 双胎 (双兒) 二人の場合 (ロ) 三胎 (品兒) 三人子 (ハ) 四胎 (要胎) 四兒  
(ニ) 五胎 五兒 (ホ) 六胎 六兒

出産の輕重から次の如くわけける。



一、自然産（普通産）

二、人工産

出産の有無によつて次の如くに分ける。

一、初産 初めて出産をする場合。

二、経産 出産の経験ある場合。

出産の時間

出産に要する時間は人によつて一定しないが初産は約十五時間、経産は約七時間である。木下正中博士によると出産各期の時間は左の如くである。

	第一期	第二期	第三期	計
初産	十二時間	二時半	三十分	約十五時間
経産	五時四十分	一時間	二十八分	約七時間

右は平均の時間であるから骨盤異常、胎児位置異常、陣痛異常、産婦高年の場合にはなほ多くの時間を要するのである。

出産の初まる時間で最も多いのは午前二時から午前三時までの間、最も少いのは午前十一時から十二時までの間である。

出産の終る時間の最も多いのは午前八時から午前九時までの間で、少いのは午前四時から午前五時までの間である。

子どもの生るる日を知る法

最終月経の月より三を引き最終月経の最初の日に七を加へると分娩の豫定日が出る。例へば最終月経が五月二十日にあつたとすれば五より三を引き二月となる二十日に七を加へて二十七日、即ち翌年二月二十七日が分娩の豫

定日である。

最後の月経が一月十日の場合は月の方に九を加へる。

20日	+ 7	27日
5月	- 3	2月
1月 10日	+ 9	+ 7
		10月 17日

東京医科大学で六千六百九十六人の産についてしらべた結果によると豫定日に一致した産が百人の中に八人ある。豫定の前後一週間の間に生れたものは百人中五十三人ある。これに豫定日に生れたものとを合せると百人中六十一人となる。

人工流産

妊娠後二十八週以内に母體に危険が起ると母體を救ふ目的で妊娠中絶を謀る。これを人工流産術と稱するのである。この場合は胎児は生活能力がない。その適應症は次の如くである。

(一) 直接妊娠による危険(例、悪阻、妊娠の異常、子宮位置異常等)



(二) 妊娠に直接關係なき疾患にして母體に危険ある場合 (例、心臟瓣膜病、肺結核、糖尿病、腎臟病、子宮痛、白血病等)

(三) 産道狭窄  
(四) 胎兒死亡

### 分娩時出血

分娩中外陰部及び膣の靜脈瘤が破裂する時、子宮頸部腫を伴ふとき、又は胎盤が早期に剝離した場合に出血を見るのである。分娩後の出血は胎盤稽留、子宮破裂、子宮頸部壁會陰等の裂傷、子宮内臓等の場合に起る。子宮出血の際は患者はなるべく頭部を低くし、保温に力め、醫者或は産婆の適當なる處置を待たねばならぬ。

### 助産婦の選び方

を感じるものでなければならぬ。助産婦は妊婦の住所より遠からぬものがよい。分娩に際しては消毒を厳にする必要がある。これを忽にするやうな助産婦であつてはならない。家庭では消毒を嚴にする助産婦を厭ふやうなことがあつてはならぬ。また助産婦の言ふ事に對しては家庭でもこれに従ふことが必要である。

## 産褥

### 産褥

婦人出産し、後産の娩出が終ると産褥に移るのである。この期に於けるものを産褥婦と稱するのである。産褥の期間は約六週乃至八週とするが

授乳婦と否とによつて長短がある。

産褥期の最も著明なる徴候は乳汁を分泌することである。乳汁の分泌は個人により異なるが十ヶ月位持續するのである。

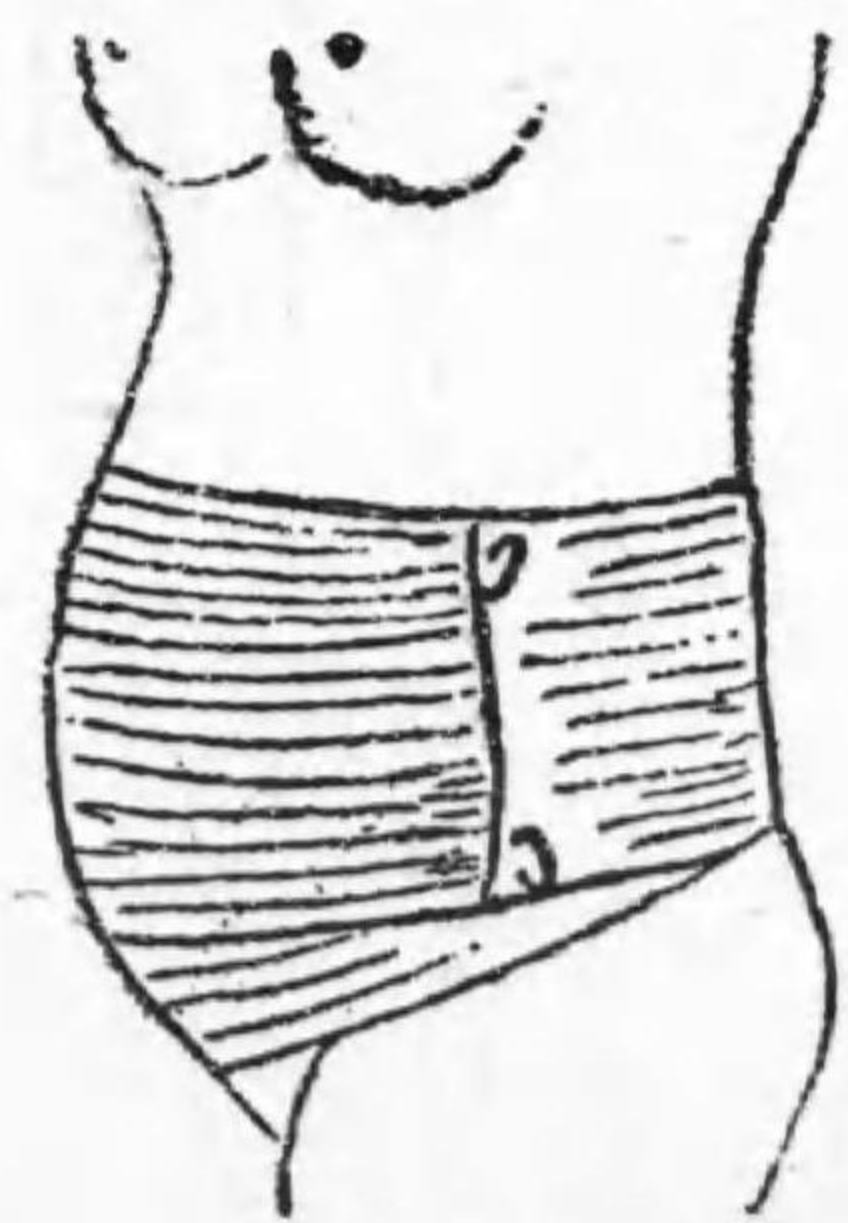
産褥中最も危険なる偶發症は産褥熱である。これは分娩による創傷部より病原菌の侵入するにより起るものである。

### 第二十八圖

### 産褥時の腹帯

産褥時には  
きゴムの帯

迷のものが適當である。之を用ひるに  
ろから胸の下部まで幾重にもまき腹部  
護するのである。



腹帯を用ひる。軟  
で巾六仙迷、長さ六  
は圖の如く腰のここ  
を弛緩せぬやうに保



# 性教育

## 受胎と出生と成長

も必要である。左に示すはその圖解である。

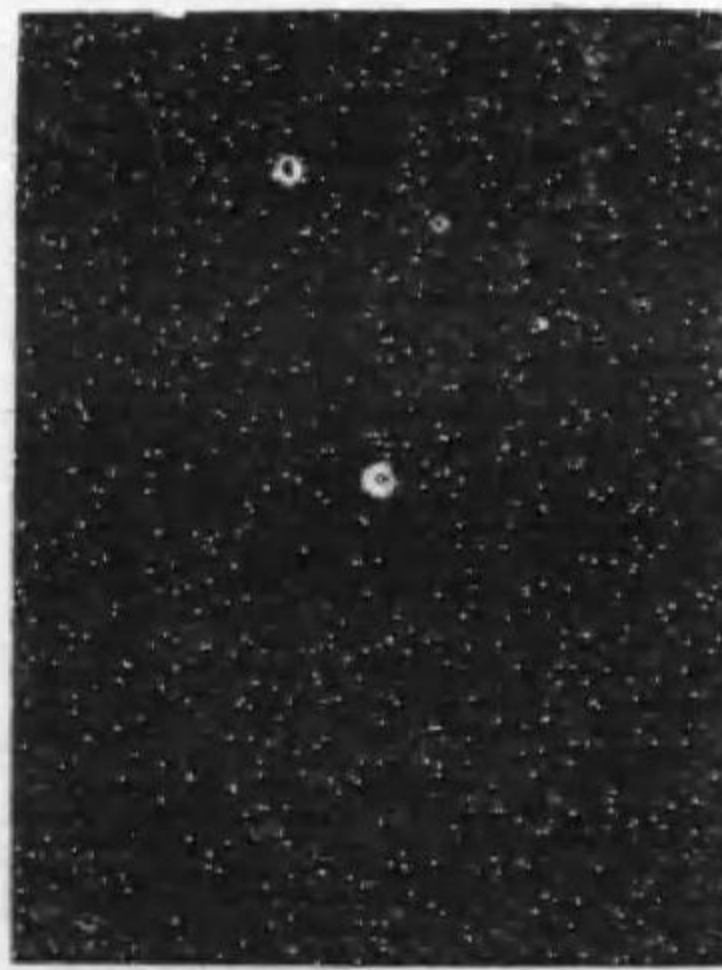
(Karl de Schweinitz に據る)

第二十九圖



よ兒るな隣可  
かのた來らか處何は汝

第三十圖



赤ン坊もその初めはこんな小さい  
簡單なものである

第三十一圖



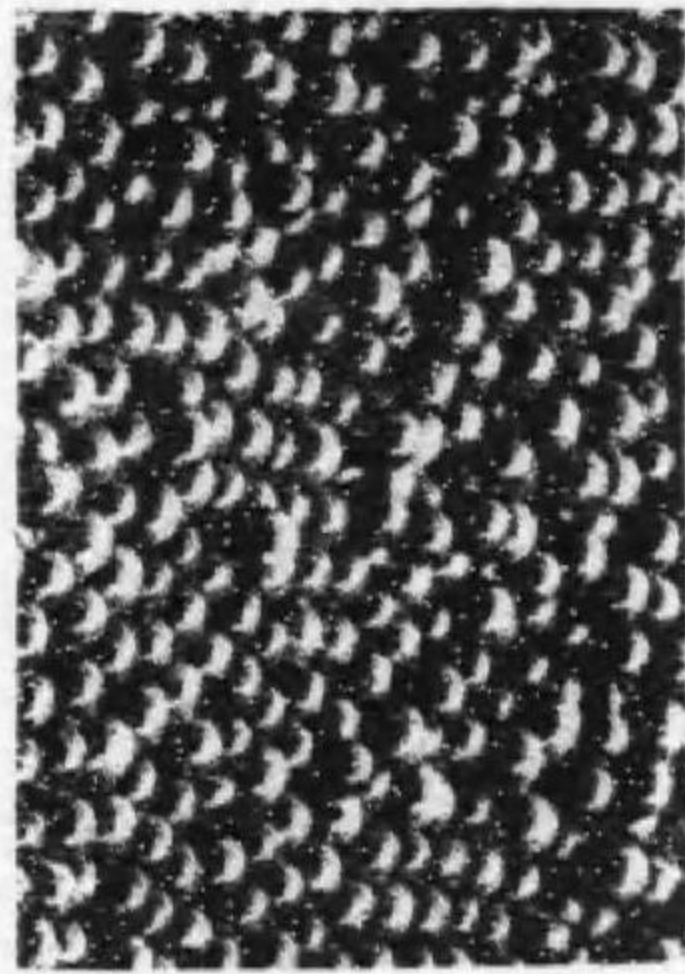
ジャツクの花、花の中に卵圓形のものがある。  
これが植物の種になる

第三十二圖



林檎の花、これが後には  
林檎の實となる

圖三十三第



卵の鮭



巢の中に在る鳥の卵



第三十七圖

百合



第三十八圖

圖四十三第



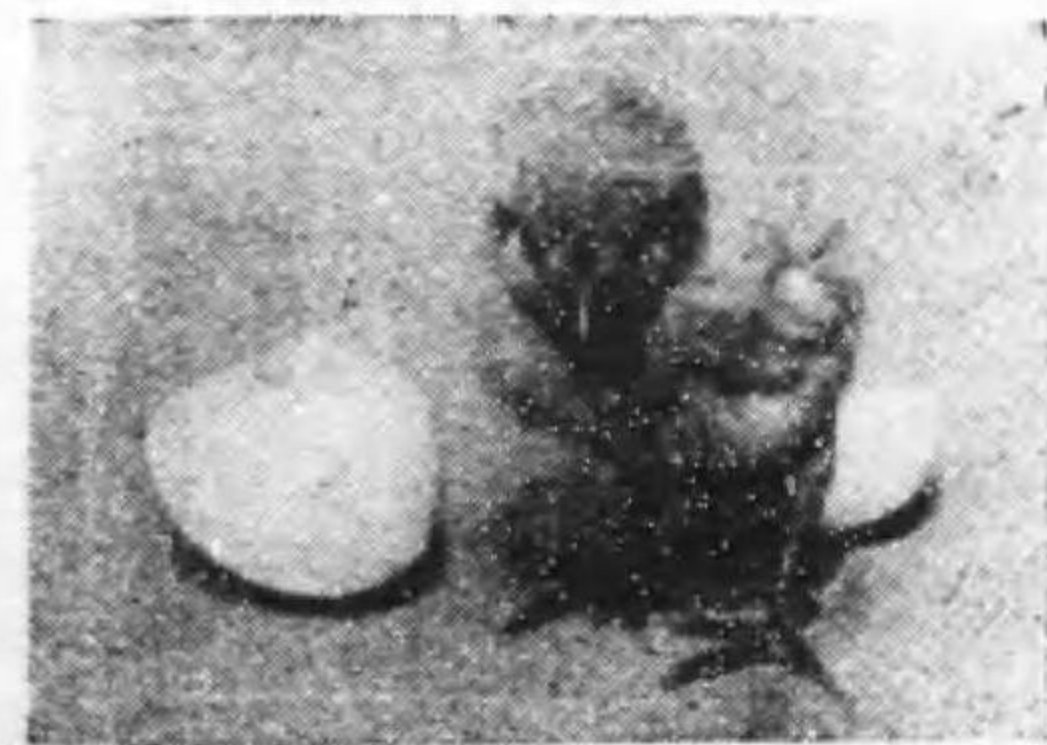
子の牛る在に中の宮子

圖六十三第



兒胎の内宮子

圖五十三第



雛のりかばたでてつ破を殻

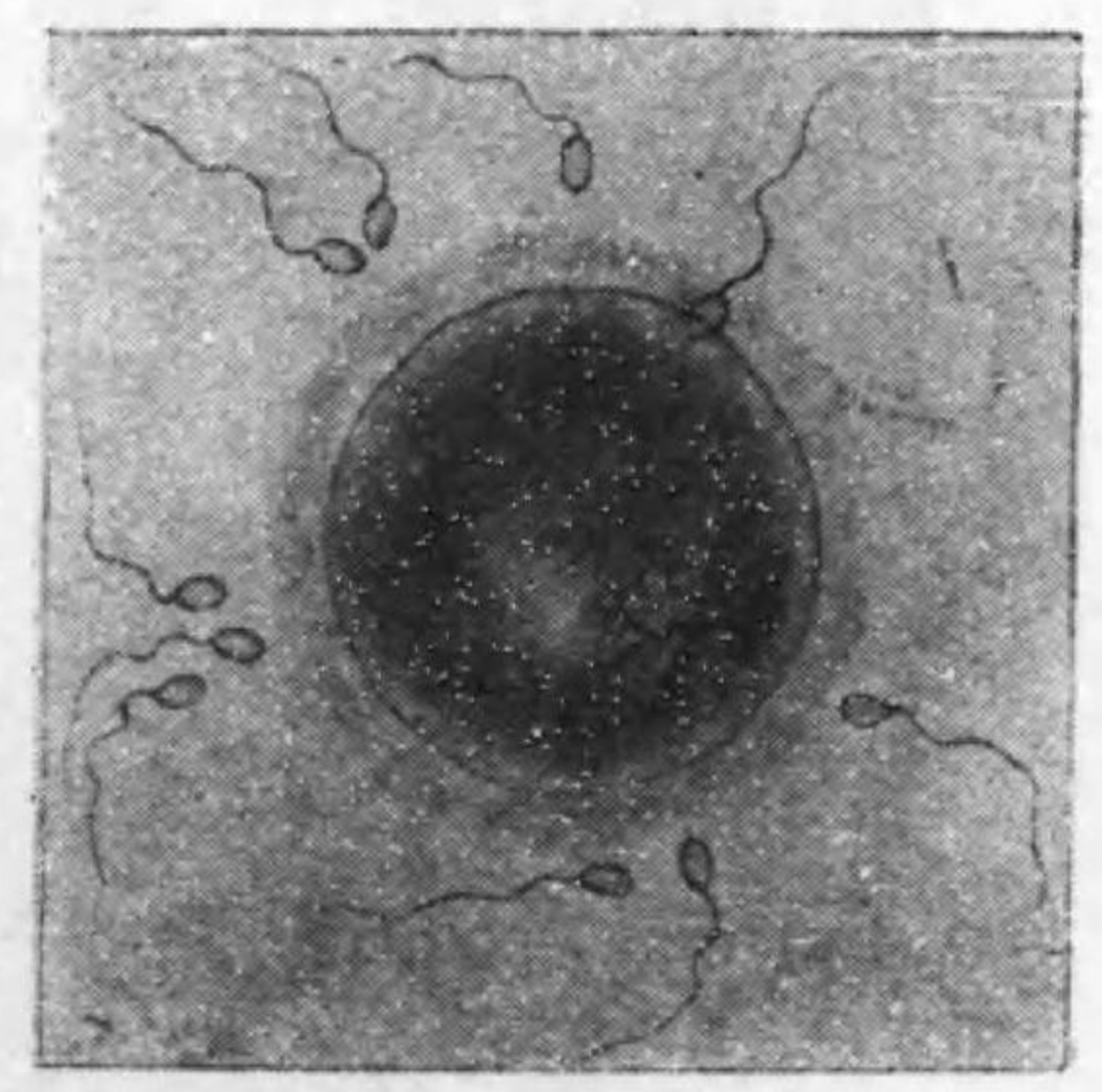


第三十九圖



爽竹桃の花に蝶が来て花粉を取り、これを他の花にはこぶ

第四十圖



やなぎばえ(魚)の精虫が中央の圓い卵に向つて進みゆく状態、この精虫が卵に進入すると受胎が起る

第四十一圖



上に在るは豚のお母さん

第四十二圖



犬の直立



第四十五圖



受胎後二箇月の頃はこの大き  
で母體中に居た

第四十六圖



子宮内のコドモ

圖三十四第



虫精の間人

(いさ小とつもとつもは際實)

圖四十四第



目月ヶ六てれ生





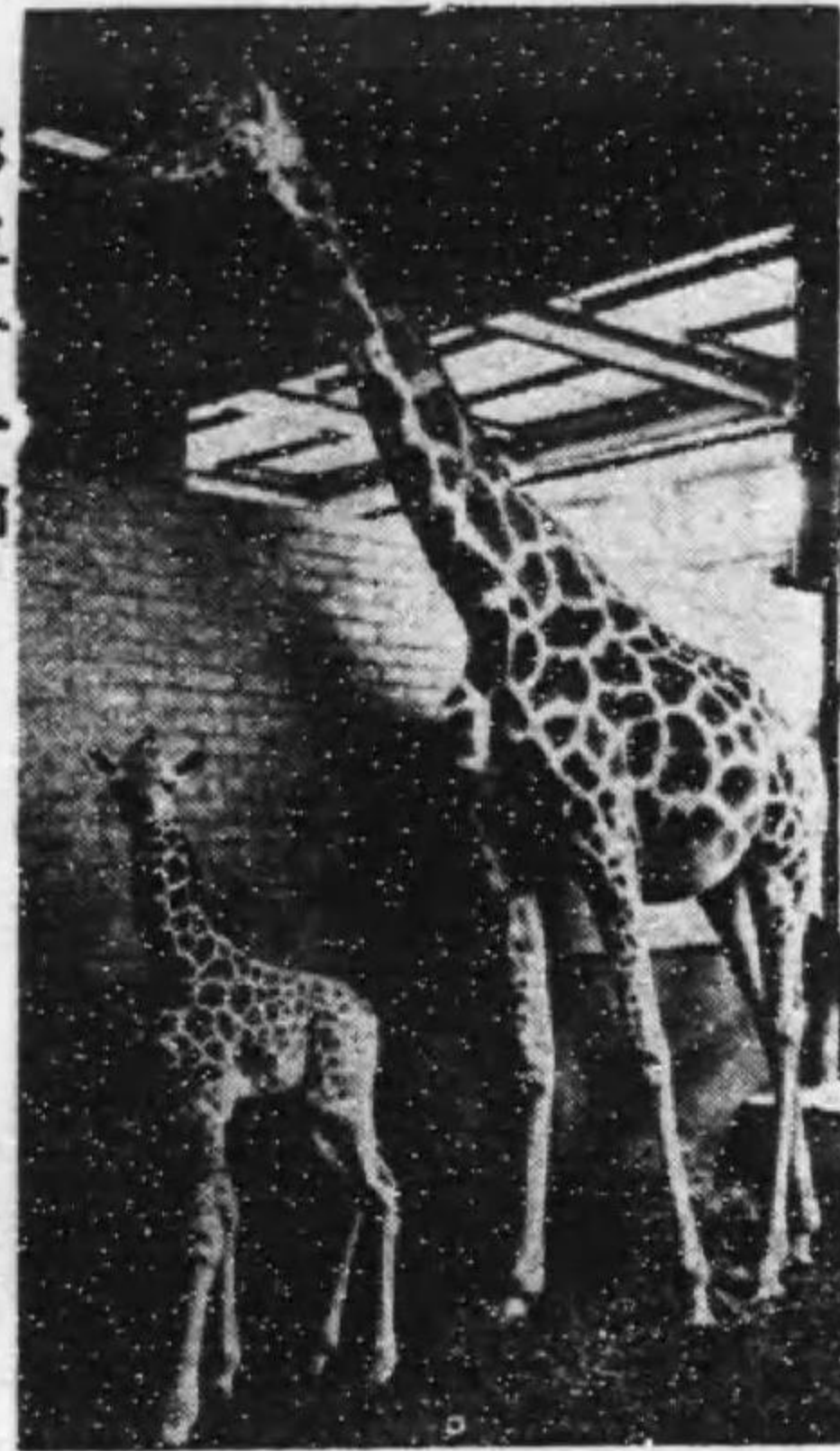
子獅の半月箇三てれ生

圖二十五第



モドコノ物繪

第五十一圖



第四十九圖

前。麒麟の親はのい高の脊のろ後  
目日二てれ生はのいさ小る在に



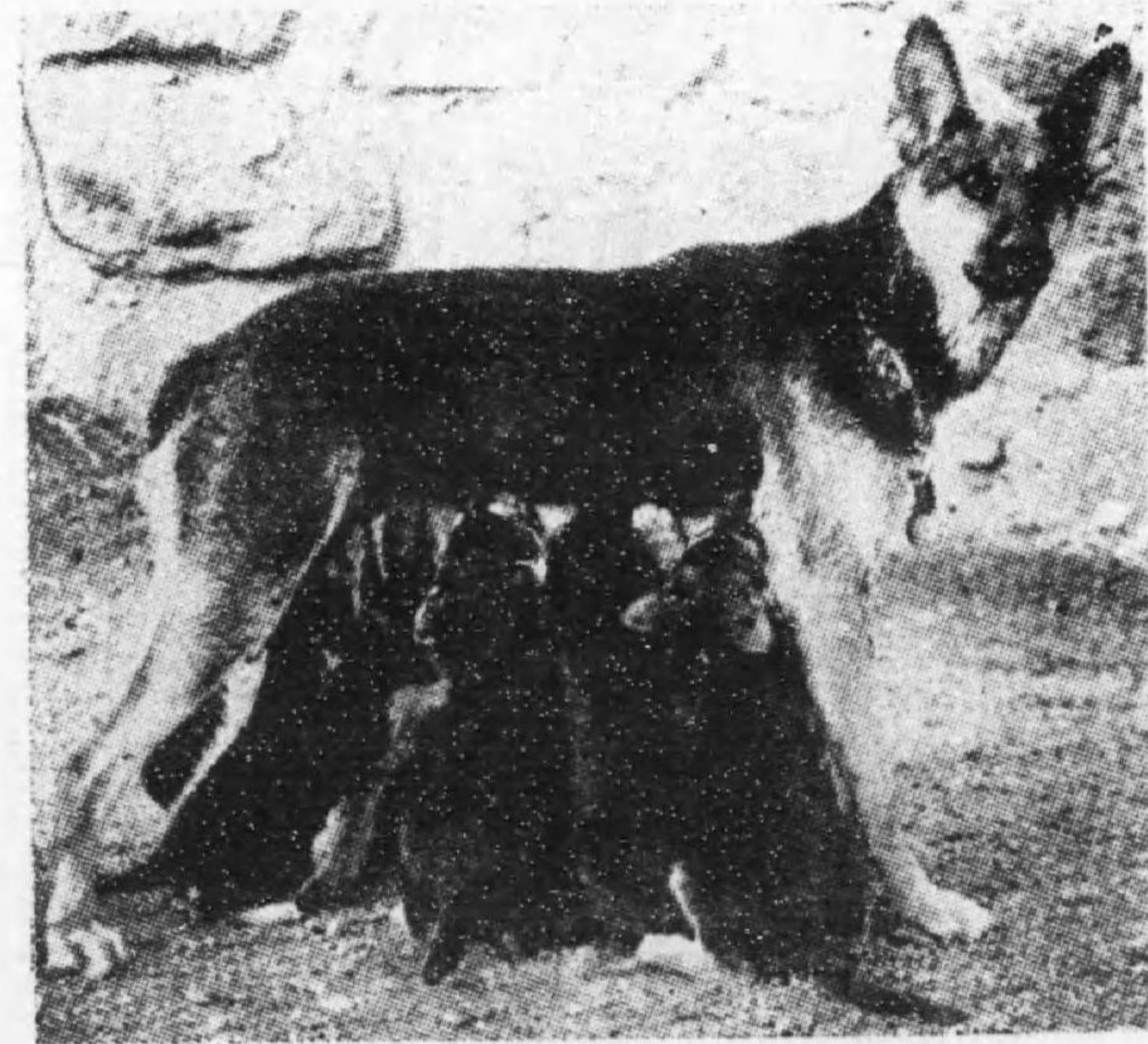
第五十圖

る居てせま吞を乳に子我が牛水

第四十七圖



母が赤ン坊に乳を與へる

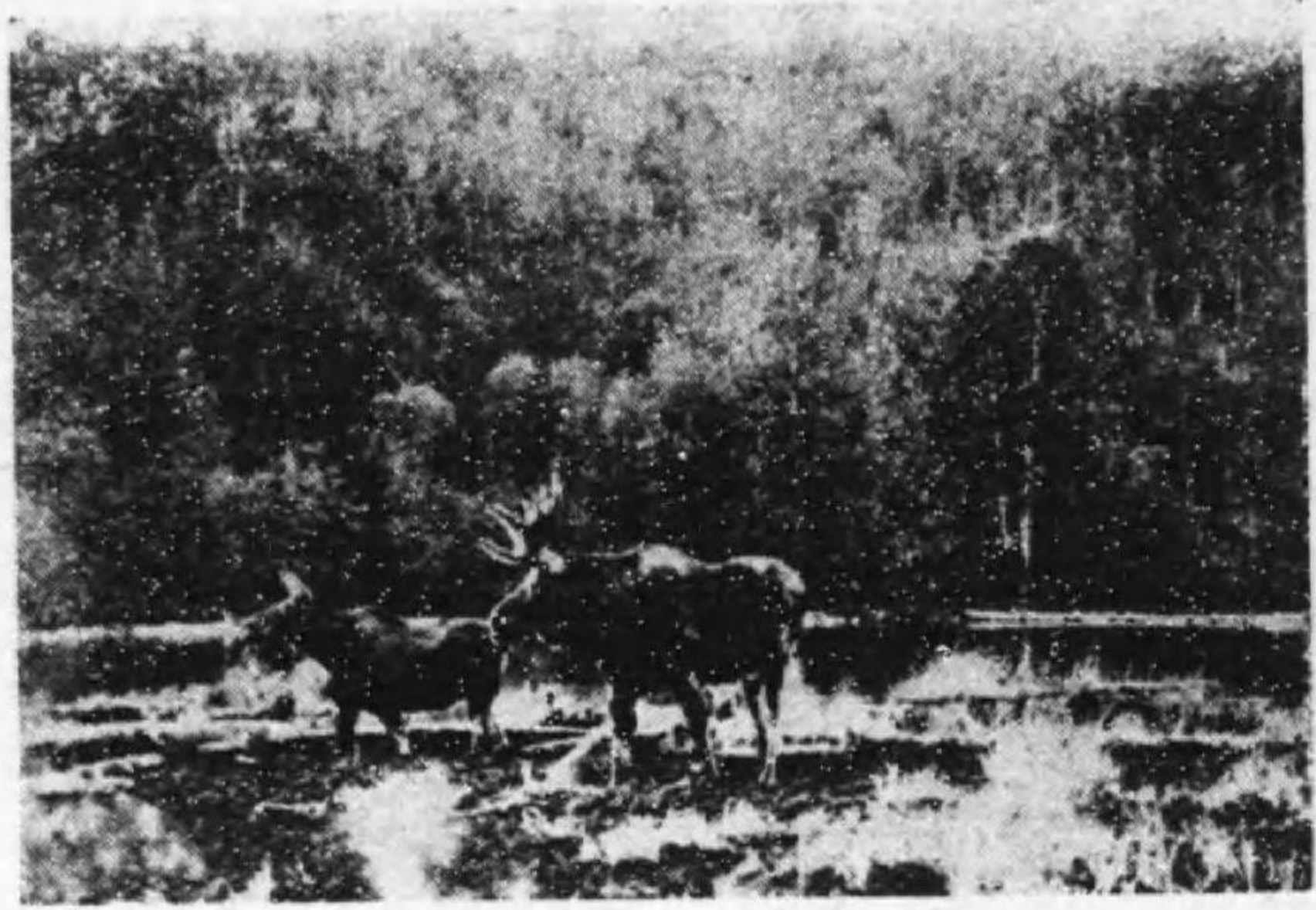


第四十八圖

犬る居てせま吞を乳に子我の山澤



牡鹿と牝鹿



第五十五圖

圖六十五第

麗はしき少女



第五十七圖



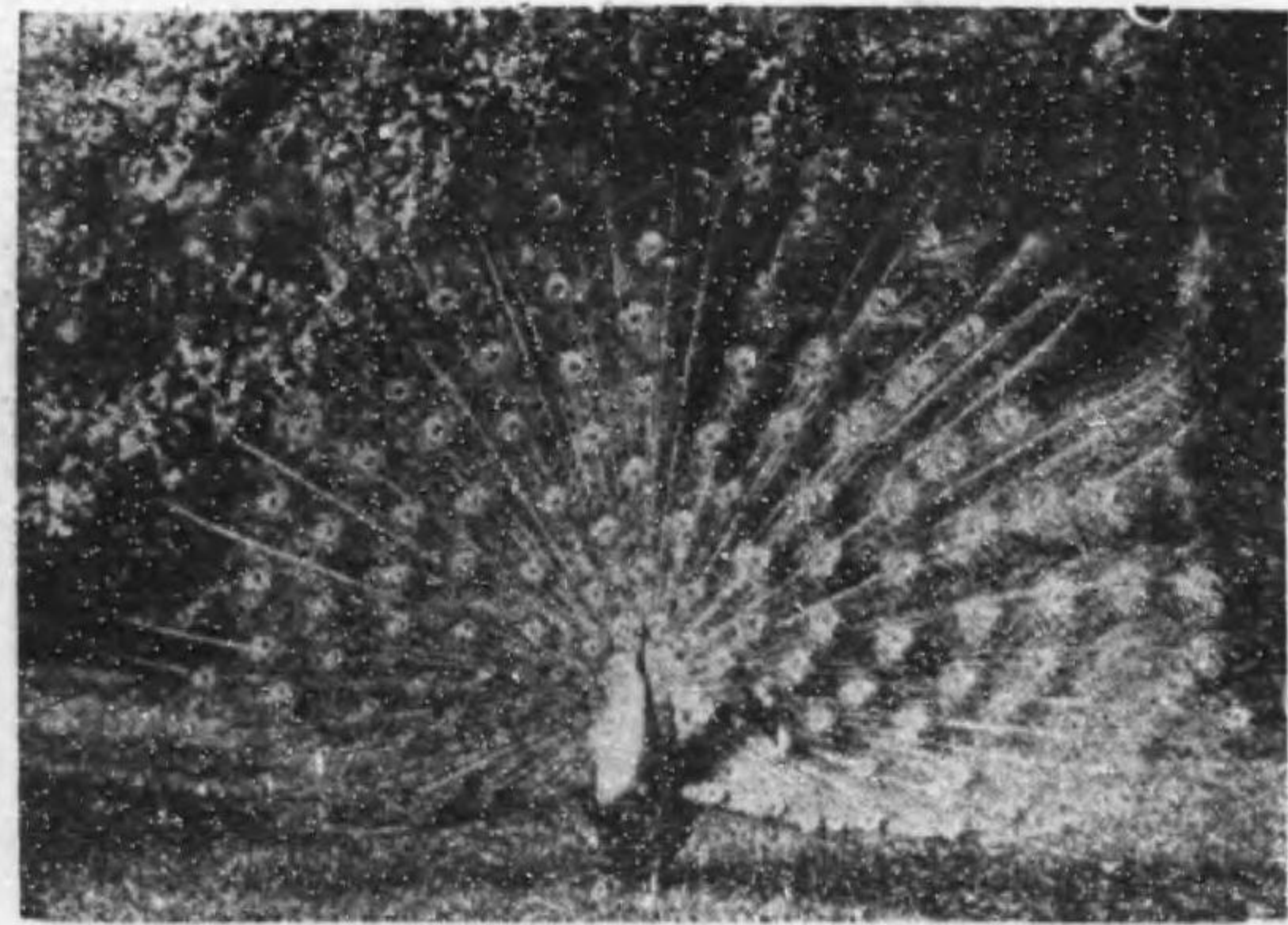
兒るれ眠

圖三十五第



に鶏牝は鶏牡く鳴で聲いしま勇  
うらあでるえ見くし美

孔雀が相手を探し求めるときに色  
彩に満ちた麗はしい毛を擧げて女  
性の喜びを買ふやうにする



第五十四圖



## 女性の心理

### 女性の感覚

ある。これを宰る器官が五官である。

外の刺戟が内に達してこれを感じる作用が感覚である。音がきこえるのも、眼にもが見えるのも觸れて形を知るのも、香をかぐのも皆感覚である。

視覚 視力の故障は男子よりも女子の方が多いと言はれて居る。色盲は男よりも女の方に少い。

聴覚 聲は男よりも女に少い。

觸覚 男より女の方が鋭いやうである。しかし部位にもよる。手は女は男ほどに荒仕事をせぬので感じ易いものと見える。皮膚が厚くなると感じが鈍くなる。又練習をするといくらか鋭敏になる。又都會の女子は田舎の女子よりも鋭いと謂はれて居る。盲人は普通のものに比べると一層指先の觸覚が鋭い。これは練習の結果である。

痛覚 痛覚は女子の方が男子よりも鈍いと謂はれて居る。入墨する際男子よりも女子の方が痛苦を感じる事が少い。外科醫の経験によつても女子は男子より苦痛を訴へることが少いと言ふ。齒

科治療もこれと同じ關係だと言ふ。今日のところでは女子は神經の刺戟性が強いかかはらず苦痛に堪へることは男子よりも大なるものと見られて居る。

嗅覚 男子より女子の方が嗅覚は鋭いやうである。

味覚 ものによつて男女の反應性が違ふやうである。

以上の總括をすると感覚は男女何れが勝つて居るか容易に判斷はできぬ。男子より女子の劣つて居る感覚は先天性か後天性かわからぬこともある。練習によつて鋭敏の度をますことがあるからである。

感覺性と感動性とは混同さるべきものでない。感覺性は感覺の程度であり、感動性は刺戟に對する心身の反動の容易さである。この兩者は常に相一致するとは限らない。

### 女性の觀念

觀念の進み方は男より女の方が速い。言語は觀念が運動神經に刺戟を與へ聲音器を働かせるために起る者である。觀念の進み方が早いと言語も

亦早い。概して言ふと女の言葉は男のそれより早い。

吃音は男より女の方が少い。言葉は男より女の方が早いけれども内容は必ずしも女の方が多いとは言へない。女の言葉には割合



餘計なことが含まれて居ると見なされて居る。

### 女性の記憶

嘗て米國で男女の記憶と觀念進行の調査が行はれたことがあつた。それによると女は男より身邊にあるものの名稱が多く用ひられ、しかも個體的、具體的であつた。男子は遠方のもの、構成的のもの、役立つもの、一般的なもの、抽象的のものが多かつた。

記憶は性質やら境遇に支配されることが多い。女は感情の伴ふ感覺的のことをよく覺える、衣服や裝飾に關することである。これが更に境遇が變つて夫を持ち子を持つとまたそれに關係することをよく記憶する。要するに女子の記憶は具體的のものが多く抽象的のものは不得手である。

女性は機械的の記憶が強い。それ故外國語などは早く覺えて實用化することは男より得意である。しかし言語とか、比較言語學などになると女は男の敵ではない。

### 女性の想像

女子は男子より想像の世界が狭い。これはその境遇より起るのである。又女子の想像は妻として母としての職分に關するものもある。女子は主に想像の材料として具體的で近くに在り、感覺的で且感情的のものを取るのである。男子は獨創的のものが多し。しかし教育の程度にもよるから高い教育を受けた女子は之に反するものにくらべる

と想像の種類も自ら異なる。

女子の想像はむしろ再生的だと言はれて居る。即ち幾分か摸倣的である。男子はむしろ破天荒の想像をする。

想像と實際とを混合することは幼少の頃によくある。女子は割に長じて後にもそう言ふことがある。小説をよみながら自分と小説の主人公と同じやうに考へ遂には前途を誤るやうなことになる場合もある。

### 女性と判断

判断は物又は事柄を評價する作用である。例へばこれはよいとか悪いとか、するとかせぬとか、つまり可否を決定する作用である。これには思

考し、比較し、選擇するやうな準備作用が要る。女子は觀念の進行は早いから判断も早い。時によると理由を言ふことができぬほど判断の早いことがある。精神界が狭いことも判断の早い理由になる。そこで判断が當を得ないやうなこともある。例へば何々がすぎだと判断してもそれが恰度熱慮の暇なしに機械的に又は無意識的にて來た場合は、すぎだと判断した理由が自分ではわからないことがある。そこで他人が下した判断に對してその正否を更に判断せずして盲従することがある。確信がなくても、他人に動かされ易いのである。



### 女性と慾望

教育を受くることの少い女子であると其上に境遇の狭いことやら、経験の多くないことなどから慾望は寧ろ男子より單純である。慾望は興味と結びついて居る。衣服に興味があればそれに慾望が加はる。指輪に興味があればそれが慾望の根本となる。その上に女子は感覺的、感情的であるから、衣服とか裝飾とか言ふものに興味と慾望をもつやうになる。男子は抽象的であり、理性的であるから大發明をしようとか、大哲理を發見しようとか、又は大文學者になりたいなどと言ふ慾望が起きやすいのである。

慾望の大小によつてその結果の態度が違ふ。慾望が大であればこれが達せられた時のよろこびはもとより大である。そして一つの慾望が達せられると一時それで満足するが更に他の慾望が起るのである。男子の慾望は普通女子のものより複雑であるから達成せられることが幾らか困難である。

### 女性と選擇力

選擇とは二つ以上のものから目的に適ふものをよりだす作用である。例へばここに時計がほしい慾望がある。そこへ二つ以上の時計がある。その中から選擇してもつとも自分の慾望に適ふものをつだけ取る場合、慾望と慾望とが相互に衝突する。そこに熟慮の作用が起る。即ち利害得失をいろいろの方面から比較するのである。そして慾望の争ひが止んだら選擇の實行ができる。

第五十八圖



アイランドの美人

女子は判斷が早い。これは熟慮が少いか早すぎるかのために起る。従つて選擇に杜撰が生じ易い。そこで結論に動搖が起る。そこで

「今買った半襟、これを戻しますから他ののを貰ひます」

### 六の美種人

などと店頭で言ひだしたりするのである。選擇は興味の程度によつて判斷する經過に差がある。妻が夫に向つて自分の半襟を買ふときにどちらを選ぶべきかの相談をしても夫は興味が少いから、

「それにするがよい」とか

「これにするがよい」

とすぐきめてしまう。これは直接男には興味がないからである。



### 女性と実行力

意志は目的を達するために行はるる自我運動である。動機と実行の間に手段（方法）が要る。展覧會を見やうと言ふ動機があると展覧會場まで赴くと云ふ手段が要る。歩いても、車に乗つても、みなそれは手段である。この手段は事柄によつて難易はいろいろである。

女子は男子にくらべると比較的體力も弱く意志が強くないから疲勞が早く現れ、根氣が續かず途中で意志をくつがへすことが多い。女子は実行よりも念願する力が強い。女の一念岩をも通すと言ふことがある。これは戀愛の競争とか、子女の教育とか言ふことになる。仲々強い実行力の生ずることがある。故にこれを善導すればよし、悪くゆくと復讐心となり、嫉妬心となつて驚くべきことをしでかすに至るものである。

### 女性と感情

感情とは快不快の伴ふ意識状態である。女子は男子よりも感情の成立が早い、そして強い。なほ女子の感情はこれを男子のそれにくらべると動きやすい。女子は思考も推論も判断も割に早いから感情の起る基礎がぐらつくことがある。

そこで女子は感情のために理性を忘却するやうなことがある。坊主憎けりや袈裟まで憎いと言つたやうな傾向がある。そこでいろいろの感情が起つてもまづ冷静に思考し、推理し、判断した後

情を正しく導くことは勿論女子自らも、また女子を指導する人も考へなければならぬ。

### 女性と品性

品性は「我」なるものが道德の世界で善い方向へ進んでゆく永續性の傾向を謂ふのである。これによつて人の價値も定まり人の完成に近づくことができる。品性の本となるものは天性、教育、環境等である。つまり精神生活の全體がもとにな

つて品性が形づくられるのである。品性の整ふた人は実行の前に必ず熟慮して善は之を

断行し、悪は之を排除する力をもつて居る。品性の整ふた人は実行の前に必ず熟慮して善は之を

女子は觀念が動搖し、慾望が動搖しやすい傾向をもつて居るから判断に誤りが起り易い。そこで品性を陶冶するに邪魔をする傾向があるから日常この點に練習努力を要するのである。女子の教育が進歩して徳性の涵養に留意するならば高德の人材がでてくるであらう。

### 女性と迷信

人は經驗と智識とによつて知ることのできないものを信ずる。智識の發達が不十分であると、信すべからざる事でも信するやうになる。人の智

識は日進月歩のものであるから今日正しいと思ふものでも明日になると正しくなくなる事もある。日本



諺に「餅の頭も信心から」と言つてたとひ石の塊であらうと土の片くれであらうとそのため人間が安心できたらいではないかと言ふものもあるが、斯かる幼稚の信仰では時として人命に危害を及ぼすやうなことがある。それは迷信の強いために正しい處置ができないからである。迷信のため病氣を起し、その病氣を治すことのできぬことがどれほどあるかしれない。家庭に迷信があつてはならぬ。迷信は智識の幼稚なるため、錯覺や幻覺のため、批判力の乏しいのと、軽々しくものを信することから起る。迷信の支配して居る世界に生くることは仲々に苦しいことである。家庭にあつては主婦がまづ迷信を打破することを考へなければならぬ。子女を教へるに方つても迷信を傳へてはならない。

縁起の玩具が諸所にある。これは大抵安産、治病などに關係して居る。例へば犬の張子を産婦の枕下に置くと安産ができる。鶏の玩具をコドモの膳の上に置くと食慾が進むなどと言ふ。これ等はまことに愚にもつかぬ迷信である。また言葉や數によつてつまらぬことを信じて居ることがある。三切は身切れに通じ、二つはまつ二つに切られるからいけない。四二は「死に」に通じ四十九は「始終苦」に通ふからいけないと言ふのである。

日の吉凶や方位の吉凶を云々するものが多い。時と場所とは我々の生活を離れないものであるから迷信のために日常生活が餘ほど混亂されるのである。方向の迷信のうちで最も強くひろく行はれて居るものは鬼門であらう。鬼門は丑寅（東北）の方角を言ひ、裏鬼門は未申（西南）の方角を言ふのである。鬼門でも裏鬼門でも忌むべき何等の理由はない。日に吉凶を結び付けるのも理由はない。或人には悪い日となつても或人にはよい日となることがある。同じ日に生れもする、死にもする、結婚もある、離婚もある。これを一樣に吉や凶の日と定めることは何等の根據は無い。

迷信の種類は非常に多い。つまらないことを信じ切つて迷信を造るのであるが、その弊害は可なり著しい。そこで婦人の力によつて迷信の打破を心がけなければならぬ。それと同時に新しい迷信をつくらぬことが肝要である。家庭教育にはこの點が大いに注意される要がある。それには智育と感情の教育を進めてゆかなければならぬ。

### 虚榮心と女性

虚榮心ほど女のためにならぬものはなく、虚榮心ほど女につきまとふものはない。まるで影の形に伴ふほどに女に虚榮心が附添ふて居る。女が虚榮心につかまつたらつよい全身中毒に罹つたやうなものである。多くは助からぬ。虚榮心は自分を傷つけると同時に他人を害ふことになる。



虚榮心を矯正しやうとすれば教育するより仕方がない。教育を受けた人にも虚榮心がないではないがいくらか少い。精神教育を徹底すればよほど矯正ができる。女でも男でも人は外部よりも内部を貴ぶべきである。内部の修養を第一に心がけるはづである。今日の如く虚榮心が盛に起るのは教育の力が足りない結果であらう。家庭教育も、学校教育も、社會教育もその責任の一半を負ふべきである。

### 男と女との特色

男の仕事は外に現れる。女のは内にかくれる。男は積極的である、筋骨も發育がたくましい、女は筋骨は弱い、男は多く食ふ、女は少い。男は肉を好む、女は植物性のものを嗜む。男は多く眠り、女は少く眠る。

男よりも女の方がよくしゃべる。女は男より會話が上手である。お世辭も女の方が優つて居る。女子は感情に動かされ理性を誤ることが男より多い。女は保守的であるが、苦痛に堪へ不自由を男よりよく忍ぶ。

男は抽象的で遠心性の記憶に富むが女は具體的で手近のものをよく記憶する。判断は男子より女子の方が早い代りに間違ひも亦女子に多い。

男は大に優れ又大に劣つて居るものがあるが女子は割に中庸が多い。それだから大發明とか大發見

などは女よりも男に多い。

## 女性と體育

### 女性體育の理想

體育の目的は一面にありては健康の増進、一面にありては身體の釣合をよく發達させるにある。この目的を達するために身體の練習が要るのである。

むかし、ギリシヤでは健康美を發揮せんために體育を重じた。彼等の理想はつり合のとれた強い身體の持主を讚美したのである。オリンピックの優勝者は賞品よりもこの優勝者となり得た身體の持主たることを名譽としたのである。かくてギリシヤの婦人も亦體育に主きを置きその結果女子も男子に匹敵するほどの身體を築きあげたのである。

體育は身體の釣合をよく發達させることが一つの目的であるからこれに反する運動や遊技は注意しなければならぬ。即ち部分的の運動のみ行ふことはよくない。この點から水泳の如きは理想に近いものと謂ふべきである。



日本婦人の身體美は遺憾の點が多い。試みに日本婦人の裸體を見るに不釣合の發達、骨格及び筋肉の纖弱、榮養の不良等が甚だ眼につき、ギリシヤ人の理想の身體美に及ばぬ點が非常に多いのである。

### 女性と體育

體育の種類はもとより多くある。しかしその目的とするところは身體の發達を促し、練習によつてその強健を増加し、更に精神上の好影響を受けるにある以上、女子も亦これを行ふべきものである。

女性の體育には特別の注意を要するものがある。それを忘つてはならぬ。

現在の日本では學校體育なるものは行はれて居るが、家庭體育や國民體育など言ふものの普及が十分である。日本の女子が家庭に於て又團體的に體育を行ふ風習をつけることは將來最も必要なる點であらう。さし當り學校の體操室の如きものをせめて夜間だけでも公開して男女に體操を行はせるやうにすることがよいであらう。

日本の女子の體格が歐米婦人のそれに比して、著しく劣つて居るのは一は生活形式のためもあるが一は體育の徹底しない罪と謂ふべきである。

### 女性と體操

體操は人體の解剖や生理上の原理に本づき身體の各部を均一に動かし均整的發達を遂げさせることが目的であるから、健康上から言つても適當なる方法である。日本婦人の體格もいくらか進みつつあるが永年續いて來た弊習が容易にとれるものではない。故に婦人は進んで體操によつて身體の釣合のよくとれるやうに努力する必要がある。

この目的で柔軟體操や器械體操を行ふのは何れもよい。我國でも學校で體操を課するやうになつて、その効果を擧げつつあるけれども學校體操を、卒業後も猶家庭で續いて行ふことが殆どできない状態である。

歐米では體育を盛に實行して居るが多くは男女混合である。殊に獨逸の如き體操館を到るところに設けて男女の練習を續けて居る。我國に於ても社會的體操機關を設け男女を通じて適當に指導することが大切である。そうでないと世界的競争線にあつて日本の婦人はまづ體格と健康とに敗北しなければならぬ。

### 女性と競技

競技の目的はたとひ少々の危険があつてもこれを忍んで最後に勝を占むると言ふ事にある。柔道にしても、擊劍にしても、ボートにしても、野球にしても、フットボールにしても、テニスにしてもみなそうである。故にこれ等の競技を行ふに



はまづ合理的の身體練習を受けたものであることが必要である。もし身體の鍛錬が不十分である場合かくの如き競技を一足飛びに行ふと身體の諸所に故障が起り却て健康の害を招くことになるのである。この故に婦人にして既に身體練習を積み且その方面に興味もあれば敢て競技に加はることを躊躇するに及ばぬが、それでなければ相當の練習と準備を行つた後でなければ急劇に競技を初めてはならぬ。

**女性と水泳**

水泳は全身運動であつて、いろ／＼の點から運動の第一位をしむるものである。その理由は水泳は全身の均等運動ができるからである。その結果胸廓は擴張し、肺は大に働く、心臓もよく動く、血はよくめぐる、胃腸は強くなる、皮膚も抵抗力を増す。

水泳に際してはその時期、持續、場所などについて相當の注意が要る。水泳を行ふに方つてはオリーブ油を指につけて耳孔の中へ塗つて置く。そうすると水が耳の中ではじく。又ワゼリンでもゴマの油でもよい。海水の中へはゆる／＼はいるがよい。心臟病、腎臓病、子宮病、膀胱加答兒、腸加答兒、神經痛、肋膜炎などの場合は水泳は適せぬ。感冒、脚氣、浮腫なども水泳はよくない。飲酒して水に入ること危険である。

女子は男子と同じやうにとめて水泳を練習するがよい。右の外體質上水泳を避ける必要あるものがある。これは醫師の診査によつて水泳の可否を定めるやうにしたい。

**女性と散歩及び遠足**

イスパニアの美人



圖九十五第

七の美種人

散歩は全身運動であるが、その運動は極めて徐々であり且輕微であるから女子、幼年者及び高年のものには最も適して居る。散歩は呼吸及び血行を盛にするに都合がよい。ことに海邊、山林、田園などの散歩は新鮮なる空氣を吸ふ點から利益が多い。従つて身體の物質交換が盛に行はれる。遠足は輕装して出かけるのがよい。遠足は散歩の延長したものであるから無理をしなければ利益が多い。ただ注意すべきことは飲食物、傳染病の有無、睡眠の不足なきこと



時々休憩すること、水を携帯すること、顔面とか足とかを水で洗ふこと、アルコール性飲料を避けること、便通を整へること等である。

穿きものは靴にしても草鞋にしても適當に用ひる事が肝要である。足に豆ができたら中の液を出して沃度丁幾をぬるか、硼酸軟膏を貼るのがよい。

### 女性とテニス

テニスは戸外の運動で全身運動に属するものであるから女子にも適して居る。しかしもつとも多く活動するのは一方の肩、腕、手の筋肉であつて使はれる側の方がよく發達するのである。

初めは長時間に涉つてテニスを行ふてはならぬ。過剰に流れるとそのため肋膜炎になることがある。テニスをやると汗がでる。故にやめた後は早くこれを拭ひ、乾いた衣服に着換るのがよい。

初めテニスをやると筋肉や、關節が痛み、運動の制限をうける。その場合は暫時休んでその症状の去るを待つて初めるのが安全である。

### 女性とランニング

ランニングを行ふと肺が大に働く、そして酸素を多く吸ふ。心臓も盛にはたらし血液の循環が盛になる。

ランニングをやると消化がよくなり、便秘が整ひ、睡眠がよくできる。皮膚も強くなる。

ランニングは全身運動で且自然的の運動でもつとも簡單なる方法である。

これを初めるには徒歩から出發し、速足にうつり、遂に駆け足に移るのである。

心臓や肺の弱い人はもとより注意しなければならぬ。診査の上で實行の可否、實行の方法などを指示して貰ふのがよい。

ランニングを行ふと汗が盛にでる。この場合は汗をタオルでよく拭ひ、更に摩擦をすることを怠らぬがよい。

### 女性とゴルフ

ゴルフはその性質上戸外の広い場所で行はれる運動であるから日光に當り新しい空気にふれると言ふ點から、またその運動が過剰に涉らぬ點か

ら合理的運動の一つである。

今日では殆ど全世界にひろがつて居るほどの運動法であるが、廣漠の地を要するので一部分の人に限られて居る。

ゴルフは女子の運動として衛生的のものである。前記の如く、日光と空氣の好影響を受けると同時に歩行運動を伴ふ。この歩行運動も多くは高低がある。相手があつても、なくてもゴルフはでき、運動は過剰ではない。しかし練習を猛烈にやつたり又長時間に涉つてゴルフを行ふときは肋膜炎の



如き病氣を起すこともある。今日のところでは經費其他の關係等で國民遊戯と言ふところまでには達して居ない。

### 女性とスキー及びスケート

スキーは冬期の運動としては興味のあるもので日本では最近可なりひろく行はれるやうになつた。これは全身運動でしかも急劇の運動であるから相當熟練しないと危険を伴ふ。

女子は骨盤の發達が著しいから、急劇運動に際しては變化を起し易い。それは平均が保たれにくいからである。

スキーは何分雪中の生活をするのであるから光線の直射を目に受けないやう、眼鏡で保護するのがよい。スケートも相當練習が要る。轉ぶと骨盤だとか頭だとかに故障を招くことがある。

何れにしても此等は輕快な運動であるから、精神の愉快を覺ゆる事は著しいものである。ただ練習をつまぬ中は無理をしないやうにする必要がある。

### 女性と跳躍運動

跳躍運動に屬するものはいろいろある。走幅跳、立幅跳、棒高跳の如きものである。この運動は肺と心臓とに要求することが劇しいから、相當危険を伴ふ。又足も故障を受けやすい。

何れも急速度を要する運動であるから精神の緊張を缺いではならぬ。跳躍の練習を過度に行つてはならぬ。必ず漸進的に行ふのである。

女子は骨盤の發達が著しく且内部生殖器も發達して居るから此種の運動を行ふには深甚の注意をしなければならぬ。男子と同等の運動を行ふ場合にはその練習に注意し、急劇の進歩を謀ることを避けるのが安全である。

競技としての跳躍はむしろ女子に不適と謂つてよいであらう。

### 女性と登山

登山は合理的運動の一つである。登山により心臓と肺臓の作用が活發になる。下肢の筋肉は勿論働かねばならない。高山は氣壓が低いから、時によると心臓や血行に故障を起し、そのため頭痛、めまい、嘔吐、卒倒、呼吸困難、鼻出血などを見ることもある。

登山は光線や空氣が清潔であり、一面には精神的爽快を覺える等の點から言つて推奨すべき運動である。

登山に注意を要するは心臟病、呼吸器病等の場合である。斯かる場合は登山を見合せ。

又登山のため山岳病にかかつたら早く下山するのがよい。



登山に方つては綱帶、ガーゼ、絆創膏、脱脂綿、消毒藥、鎮痛藥、アンモニア水、沃度丁幾、鉄、小刀などを携帶するがよい。

### 女性と玉突(撞球)

撞球の一つの缺點は屋内遊戯であるためよく日光を受け新鮮な空氣に觸れないことである。その代り雨天でも夜でもできる得點がある。撞球の運動は肩と臂との動作、下肢の動作ならびに頭、胸、腹の前屈と廻轉動作である。心臓には大した影響はないが、球をつくるときには右腕を後に引くから胸廓を擴大する作用を起すのである。なほ撞球は精神を練習することが相當多い。即ち距離の目測、球と桿との關係、球と球との衝突による理學的運動の状態、球をつくつ桿の強弱などである。撞球は優美の運動にて劇烈に涉らぬ上から女子の運動としては適當なるもの一つである。

### 女子と自轉車

自轉車のハンドルが低いと前屈の姿勢になる。これはよくない。肺や心臓が壓迫されるからである。自轉車乗の競技には餘程注意が要る。ことに長途の競技で山を越すとか坂を上るとかの場合は肺と心臓が過劇に働かなければならぬからである。

月經、妊娠、肛門病、直腸異常、子宮疾患などの場合は自轉車に乗ることを避けるがよい。競技でなくとも自轉車にのつて疾走することは考へものである。即ちほこりを吸ふことが著しい又寒い時分だと冷氣をうけることがはげしいから鼻、咽喉のカタールに罹り易い。斯かる場合は、豫めマスクを用ひて故障を未然に防ぐ注意が要る。

## 子供の教養

### 生前教育

人類は親よりも子孫の方がより善くなることによつて進歩する。女子は先づ自己を教育することを忘れないやうにし、次の種族をなるべく強く賢く生むことに心掛なければならぬ。女子自らを修めないで、よい子孫を得やうと欲することは大きな間違である。

妊娠中はもとより身心の衛生を嚴守する必要があるけれどもそれだけではまだ十分でない、寧ろ妊娠以前に遡つて身心の修養をしなければならぬ。生前教育など言へばいかにも子女の教育に縁の遠いやうに思ふものもあるが決してそうではない。不注意やら不心得によつて女子の病氣を招くや



うなことがあつてはならぬ。酒毒や、性病のためにその子孫が落伍者の生活に陥るやうな例は世間  
にいくらでもある。瓜の蔓に茄子はならぬと言ふ。茄子がほしければ自分がまづ茄子の木になる必  
要がある。

### 女性と育児

育児は女性の天職として重要な任務である。育児の務めを忽にする  
母はまづこの點に於て母性の意義を著しく失ふことになる。

人の子を人の母が哺育することは天の與へた使命である。もつとも特別の事情ある場合は致し方が  
ない。

母はまづ自己の乳汁を子に與へなければならぬ。母乳を捨てて獸乳につく必要はない。それは止  
むを得ない時に限るのである。

従來牛母が授乳を避ける理由を見るに或は容色が早く衰へるとか、身體が弱るとか、社會生活に差  
支るとか言ふのであるが、これ等は眞の理由とするにはあまりに薄弱である。母の第二世をよりよ  
くするために犠牲を拂ふことは喜ぶべき犠牲でなければならぬのである。母乳で育つコドモが他  
の人工養育のコドモに比して病にかかること、死ぬることの少いのを見ても母親哺育の勝る點が明  
かである。

哺育は單に健康とか發育とかに限られるものではない。

精神上の影響を考へると、母が自ら哺育の任に當らない場合、母の子に對する愛情、子が母に對す  
る愛情、相共に發達が不十分である。愛は生物のごとく増殖してゆくのである。母と子が相互に接  
觸し、母がコドモの世話をする間に母の愛も、子の愛も成長してゆくのである。愛の生育である。  
世にはこの大切な要件を見逃して居るものが多い。母が我子を哺育すれば女自らの精力はこのため  
に減ることはもとよりであるが、親の身體の一部分を割いてコドモができたものである以上、親の  
精力をコドモの生れた後に割くことは當然のことである。しかしこの任務を母の勝手や、母の我儘  
から避けやうとすることは大なる無責任と謂ふべきである。

### 腺病質のコドモの取扱

腺病質のコドモは皮膚、粘膜、淋巴腺等が侵されやすく、従つて種々  
の加答兒に罹りやすい。もつとも注意すべきは腺病質のコドモが結核  
にかかりやすいことである。故に腺病質のコドモを抵抗づける様取扱ふ事は結核其他の病氣の豫防  
をすることになるのである。

食物は合理的に與へることに努めなければならぬ。成分は動植物より主としてとるがよい。よく嚼  
みてよく消化させる工夫が要る。腺病質のコドモには偏食するものが多いからこれを矯正する必要



がある。それは嫌ひのものでも食べる必要のあるものは漸次與へるのである。日光と新鮮の空氣は腺病質の子どもに必須の要件である。この目的で健康地へ轉ずるのもよい。運動は適度に行はねばならぬ。健康を増進させる目的で理學的療法を應用するのもよい。例へば水治療法、人工太陽燈、レントゲン、日光浴、醫療體操の如きものである。睡眠は十分與へなければならぬ。過勞を避けるやうにすることも大切である。

### 幼児の運動

幼児は所謂小刻みの運動を必要とする時代である。そこでなるべくその目的が達せられるやうに軽い衣服、動きやすい衣服清潔にしやすい衣服を用ひることが大切である。

運動の場所は第一に安全であつて危険を伴はぬことが必要である。田園では戶外が廣いから適當の場所も少くないが、都會では場所が少い。寺院、教會などの庭を公開する必要もあるが、大都市では是非とも児童遊園を多く設ける急務がある。

幼児は運動に不自由を伴ふことが多い。従つて十分監督しないと危害を招くことが少くない。屋内よりも戶外運動の方がよい。ことに砂場遊び、粘土遊びなどはもつとも適當である。

幼児を遠方へ連れ出す必要は少しもない。運動が過ぎると疲勞が現れ食慾が振はぬ、睡眠が妨げら

れる、機嫌も悪くなる。空氣のよい、日光のよく照す場所で幼児に自由の運動をさせることが最もよいのである。

### 子どもと人生

子どもは成人に至るまでの時期に在るもので、その間に成人の精神作用の發芽がある。これを善導することが大切である。

一、生存性 生命を保つ性である。自分を守り、他の侵害をふせぐ性である。生命を保つには食物が要る。防禦は初め人見知りの本能となつて現れる。

二、自由性 拘束をうけないで生活したいと言ふ本能である。自由運動、自由遊戯などがそれである。自由と放任とを混同してはならぬ。遊戯は子どもの身心の發達をさせるに最も都合のよいもの、一つである。自由性は又主張となつて現れる。どうしたいとかこうしたいと言ふ。これ等の心的作用は周圍のものが相當注意して善導する要がある。

三、充實性 子どもは精神内容を豊富にする要求よりして他人に物を尋ねる。これは好奇心から起るのである。そして段々ものを集める性がでてくる。切手だとか、レツテル、寫眞の如きものである。つまり自分の所有にしようと言ふ目的なのである。

四、擴大性 子どもはまた自己の勢力を周圍にひろめて行かうと言ふ本能をもつて居る。これが



權勢の慾である。又世に自分と同じ趣味の人を一人でも多く造らうとする慾もある。遊戯にも趣味にも信仰にもこれが現れるのである。

五、向上性 向上性があるから進歩する。智識慾も向上性の一つである。道徳性も向上性の現れである。慾望が進むと理想になる、慾望の聖化した者が理想である。理想は或標準まで進まんとする慾求である。そこに努力が生ずるのである。

六、延長性 人の生命を延長したいと言ふ傾向である。死んでも魂の榮えることを望み、或は名の永く世人の間に傳はらんことを希望する。魂の不滅を願ふ心は信仰とも、又自己の延長を子孫によつて企てると言ふ點から性慾ともなる。性慾の一つの目的は種族の延長である。結局自己の延長である。

以上擧げた性質は既にコドモの時代に發芽して居る。これを善導すると否とによつて著しい差が後に現れてくるのである。

### 強情なコドモの躱け方

強情のコドモは我儘と判斷推理の乏しいのが常である。悪いことであつても自分が言ひだしたら仲々他人の言ふことを聞かないのが強情の特性である。

身體の要求が満たされない場合に強情が強くなることがある。即ち飲食、運動、休憩、睡眠等の如きものである。ゆゑに強情を矯正するには先づその自然的要求をみたさせるのが必要である。

強情のコドモを取扱ふに方つては合理的の方法を用ひなければならぬ。方法に無理があつてはならぬ。一時興味を他に轉じさせることもよい。僅のことで親が強情を張つてはならない。それはコドモの個性を重んずるといふことである。

強情のコドモに對しては境遇をよくすることが何よりよい。家庭で取扱ひの困難なる場合には他のよりよき境遇へ移すことがよい。

強情のコドモを叱つてもその効果は割合に少い。殊に前後左右を顧みず輕卒な叱り方をするのは失敗の本である。

母の強情と子の強情とが相向ふと仲々むつかしい問題が起る。これでは子の強情は治らない「柔よく剛を制す」と言ふ言葉があるが、母が子の強情を忍びどうにかしてこれが治るやうに念じて居る眞劍の態度が子にわかつたら強情が治る。これは言葉の説明でなく母の態度である。

母が忍びがたきを忍び、行ひ難きを行ふて眞劍に子のために盡してゐるのを子が知つたら強情が崩れる。しかしこれには母が寛大であり、母がコドモをよく理解しなければならぬ。コドモをよく理



解するにはコドモの側に立つて考へてやることである。相當に訓戒することはよいにしても度を過ぐすと、親が子を捨てるやうに考へる。その結果子が親の懷から出てしまつたらそれでおしまひである。母の膝からコドモを逃したたらたと同じ家に住んで居ても親の懷に再びはいることはむづかしい。

### よい習慣をつける方法

幼少のコドモに對しては生理的習慣を養成するのがよい。

排便 時間を規則正しくすることである。生後三、四ヶ月を経ると

規則的に排便の習慣を養ふことができる。

飲食 時間を定めることが最も必要である。これは早くから出来る。初めは授乳は三時間毎にして漸次時間を延ばしてゆくのである。

睡眠 睡眠の時間が來たら成るべく寝つくことのできるやうにするのである。睡眠は幼少のものほど多く要る。

安臥 哺乳兒は時々戸外の空氣にふれさせるのがよい。風のない日で暖かな時は一定時間出してやる。これと同時に定まつた時間に安臥することも必要である。用もないのに起して大人が勝手に取扱ふことは乳兒から言ふと迷惑千萬で玩弄されて居ることになるのである。

禮儀作法は形式的のもの故、相當の年になることできるから放任の儘でよからうと言ふものもあるが年相應のことだけはさせる方がよい。形から精神の修養となることがある。言葉の如きもやはり禮儀がある。言ふべきときには言ふのがよい。言語は模倣によるものゆゑ、その速度、緩急、明否、調子など他人に不快の感を與へぬやうに注意しなければならぬ。又他人をのしり侮り無禮にならぬ言葉を用ゐさせるのがよい。動作はしてならぬことをしないこと、なすべきことを上品にすることである。コドモ同志にしても自らコドモ同志の動作の作法がある。長上に對してはもちろんのことである。

來客に對しては禮儀を失せぬやう注意が要る。家庭によつてはコドモが來客にどんなことをしても一向平氣で居ることがあるが、これでは平素の躰けも察せられて奥ゆかしい氣になれない。コドモを大人と同じやうな禮儀を守らせやうとすることは不自然であるが、コドモに相應する禮儀は守らせたいものである。

### 同情心の養成

親切をすと言ふ精神は同情心から起るのである。同情心は幼少の間から養つて置かなければならぬ。初めは自然的の同情が起る。これは母に

對する同情の精神である。この精神は母によつて養はれる必要がある。更に進むと母以外の家族へ



同情するやうになる。それから動物や植物に同情が及ぶ。かくして同情心が他人に及び、それがもとなつて親切のところが起るのである。

同情や親切が功利的であつてはならない。神佛に養錢をあげて利益を得るためなら同情でも親切でもない。同情と親切は報酬や利益を要求せぬのが貴いのである。

コドモに同情心や親切の精神を養はせるには親がその手本を見せることである。そして他人に同情したり親切をつくすのは結局自分のために善いことだと言ふことを示して置くのである。

### 働く習慣をつける方法

働くことは勤勞と言ふことである。勤勞は人生の美德で、その反対が怠惰でこれは悪徳である。

悪徳で人生を豊富にしたり幸福にしたりすることは絶対にできぬ。勤勞のために最善をつくす人は高德の仁である。

コドモが自發的の興味をもつ時分に勤勞の芽生をよく養ふのである。このとき放任すればよき結果は得がたい。すべてコドモの活動性を阻止することはよくない。悪い行動は移してよい行動へ向はせるのである。砂遊びも、人形遊びも、輪廻しも、かけごつこも皆活動である。これを將來の勤勞の基礎として善導するのである。即ち自由の活動性をよき方向に導くのである。コドモが稍長じ

てくると自分の興味を以て世に立たうとする考へが幾分かつよくなる。その場合は周囲の人々が輕卒に興味の轉換を企ててはならぬ。又コドモに勤勞の精神が起つたらそれを獎勵し持續させる必要がある。勤勞は幾分か困難、苦痛を伴ふものであるから、これに堪へ得る練習をさせなければならぬのである。

### 柔順(服従)の習慣

柔順は一の美德である。幼少の時代は長上の暗示をうけて長上の言ふやうにする。時によると、しないと叱られるから服従することがある。これは必ずしも最もよい服従ではない。

コドモはまた父母のよろこびを買ふために服従することがある。これは寧ろコドモが服従を思にさせる方法である。又親の言ふことを聞いて置くと自分のためになるからと考へて服従する場合もある、この服従は後にはあぶない。自分の利益のために節を賣つたりすることがある。更に進んで服従は自己を磨く上に必要のものである。これを當然のことであると考へて自分から進んでその態度に出るのが一番よいのである。自覺した服従である。他人から命ぜられたものでなく自律的のものである。これが精練された服従になるのである。この服従は幼少の時代には起らない、むしろ青年期になつて起るものである。



服従は命令があつて起るものである。命令のうちには積極的と消極的との二種がある。前者は「あいなさい」「こうなさい」と言ふ式のものであり、後者は「あゝしてはいけない」「こうしてはいけない」と言ふ打消の命令である。

英國の美人



八の美種人

普通はこの消極的命令が多い。むしろ積極的命令の多い方がよい命令には「もつともだ」「理由がある」とコードモに思はしめるものでなければならぬ。それでない命令が動搖しやすい。そこで理由のある命令は斷然實行させなければならぬ。輕々しく命令して間もなく之を「取やめ」にするやうなものであつてはならない。故に命令は度々せぬがよい。またコードモに命じてできないやうな命令であつてはならない。

命令は公平なることが大切である。偏愛と命令とを結びつけてはならない。又命令に不統一があつてはならぬ。父も母もその他の長上も全部一致することが必要で、その中の誰でも命令をこはしてはならぬ。

### 臆病の矯正

臆病にはいろいろの種類がある。本能的には暗黒、巨大、猛獸等に對して恐怖を感じる。想像性の恐怖は例へば夜淋しい道を通るときに芒の穂が見えたとそれが幽霊の姿によく似て居ると思ふやうな種類である。又經驗的の恐怖はかつて犬に噛まれたことから犬を見ると恐ろしい類である。其外に病的の恐怖がある。これは普通の程度を越したものである。

臆病の態度は危害を豫防することにもなる。例へば犬を恐れる子が犬に近づかなければ犬に噛まれることを免れる類である。しかし臆病の精神を増長させることはよくない。無實のことを大げさに言つて恐怖心を増すことは悪い結果をのこす。雷や、地震や、火事や、人取や、お化けなどと言つて恐怖の材料を幼少のコードモにつめこむのは非常に悪い。たとひ恐ろしいものでもよく説明をして、漸次それに馴れさせたら恐怖を矯正することができる。保護者が臆病の態度を示すことはコードモに臆病の教育をすることになるから左様な舉動があつてはならない。



### 正直にする躰け方

正直の後に虚言がある。虚言はいろいろ種類があつて想像から來るものはコドモによく見る。これは悪意のものではない。認識が不十分のため事實と想像とを混同するのである。虚榮心のため、義侠のため、また自衛のための虚言もある。虚言が常習性になつて、利己のためにするやうになると仲々直りにくいから早く矯正しなければならぬ。

虚言をつくものは周囲の人々が信用せぬやうになるから不利の地に立つことになる。後には他人が相手にせぬやうになる。そして社會共同生活ができなくなる。

想像に本づく虚言は知覺の作用の薄弱なために來るのであるから後にその作用が盛になるにつれて自ら直る。

利己的の虚言がコドモの慾望を満たさぬため起つて居る場合であると、まづ其慾望をみたすことを考へるのである。例へば空腹のときにものが食ひたいが周囲のものは與へてくれない。虚言でも言つて得るより仕方がないのでつい虚言を言ふ。これが成功すると又虚言をつく。それが習慣性になるのである。故に不規則の生活をさせてはならない。正當の慾望はこれを満足させてやるがよい。名譽心の少いそして慾望の強い悪友と交はらせぬことも肝要である。自衛の目的で虚言をつく場合

これは悪は悪とし、過失は過失として自白させる習慣をつけるのである。自白した場合は叱つてはならぬ。叱ると自衛的の虚言を増長させることになる。

叱られたり罰せられるのが怖くて虚言をつくことがある。臆病のコドモや意志の弱いコドモに見ることである。これを矯正するには身體を強くすること、運動させること、自分のことはなるべく自分でする習慣をつけること、怖いものに對しては漸次馴らせてゆくことが肝要である。

虚榮の虚言は改めなければならぬ。それは幼少の時代から眞實の生活にならせて置くのがよい。虚榮心がでてからは矯正はむしろ晚い。コドモの虚榮心は父母の虚榮心から養はれることが多い。人生は堅實の精神を發揮することが最も肝要である事を行動の上からコドモに親が示して置くのである。要するに正直を尊む心、虚偽を惡む精神を根底とし、更にコドモの虚言に對してはまづその原因をよく調べ、もつとも適當の方法でこれを矯正するのである。

### 神經質のコドモの取扱

神經質のコドモは第一に身體の健康を増進させることに努めるのである。即ち健康地で相當の運動をさせ、合理的の食物を與へ、睡眠を十分にし、過勞を避けるやうにするのである。それから進んでは精神の教育法であるが、これには意志を訓練する必要がある。自分のものを自分でする程度から漸次進むのがよい。克己忍耐の精神を



養成するのである。  
讀物、談話、劇、フィルムなどは神経質兒に悪い影響を及ぼすことがあるから適當に選擇するの  
よい。

次は環境を換へることである。神経質の親が神経質の子を育てるとますます神経質を増進させるこ  
とがある。この場合はもつと適當の人に教育を託するのである。これは家族的でも、寄宿舎でも、  
教育院でもよい。尙ほ神経質のコードモは大都會よりもむしろ健康地の田園生活がよい。これは田園  
では刺戟が少いのと自然的によい影響を受けやすいからである。

### 最善を子に打ちこむこと

女眞僧都は我國高僧の一人であるが、幼少の時は神童と言はれて居  
た。十五歳の時法華經の講堂に立つた爲に村上天皇から御褒賞を賜  
つたので、母によるこぼせやうと思ひ比叡山から下山して母を訪ふた。母はそれをきいて大による  
こぶかと思ひの外小成に安んじてはならぬと言つて

後の世のほだいのためと思ひしに世渡る僧となるぞ悲しき

と歌つてしたたかに戒めた。僧都も大に悟つて又比叡の寺に歸り一切經を五遍よみ返し「往生要集」  
と言ふ佛書を著し、後に高僧として尊敬を受ける身となつた。

リンコーンの母は貧しい家で我子を育てて居たが常に聖典を示して訓へて居た。貧は憂ふるには足  
らぬ、人は正直でなければならぬと常に子に言ひきかせて居た。母はリンコーンの九歳の時に永眠  
したが、リンコーンはこれを心に刻んで母の教訓を忘れず後に米國の大統領になつた。そして自分  
の今日あるは天使の如き母のあるためだと感謝して居た。  
最善を子に打ちこむ心がけがどの母性にもあつてほしい。

## 女性と家庭

### 家庭の起源

人は單獨の生活を續けることはできない。そこで最初は血縁のものが集  
まつて生活をして居た。子女ができそれを養育するには家庭を造る必要  
がある。即ちコードモが家庭を造る主なる要素となり、ここに父母が家庭を整理し、經營し、遂に今  
日の状態に達したものであらう。今日では單に家庭は血縁のものが相集まつて生活すると言ふだけ  
でなく經濟、道徳、宗教などの意味も加はり、又一面に於ては家庭は社會組織の單位と見なされ、  
社會と家庭とは相互に密接の關係あるものと考へられるやうになつたのである。



### 家庭の成立

家庭は夫婦が單位となつて成立する。斯くて子女が牛れ、婢僕を雇ひ、ますく複雑となる。家庭はあくまで堅固でなければならぬ。これには夫婦相互によく勉めよく修め経済的の獨立と家庭内の平和を保たなければならぬ。夫婦たるの條件が缺けると家庭の成立を強固にすることができない。家庭の成立したる後は自ら夫婦の分業行はれ夫は主に家の外に在りて業を執り、妻は家に在りて、家政を宰り、子女の養育を行ふのである。

### 家族

家族の意義は種々ある。

一、家族は夫婦及びその保護を要する子女よりなれる團體である。

二、家族とは夫婦、祖父母、父母、子孫、兄弟、姉妹の如く極めて親密なる關係より成立して居る團體である。

三、家族とは一戸を構へ血族或は結婚によれる近親同居し戸主ありて之を統一せるを云ふ。

四、家族とは一家内に共住するものの團體をいふ。

家族の起源は男女の結婚關係より同棲するに初まる。次で人の生殖本能に本づき子女を生む。子女は一定の時期保護を受くることを必要とするから、ここに親と子の情愛密になり家族の團體がますます強固になる。

### 父

父は子女の保育に預ること少く概ね家庭の外で働くから子女の教育にはその大綱を示すに過ぎぬ。父親は見識もあり、意志が強いにしても、子女教育の秘訣を知ることが少いとその方針は中庸を得ず、ために子を傷ふに至る。父もし嚴に過ぎ或は寛に失すれば子女の教育を誤ることが多い。父に教育的精神乏しく母の心盡しを無にして却て子を毒するに至ることもある。又父の素行修まらず子女に惡徳を示して神聖なる家庭を禍の郷土となさしむるが如きは最も戒むべきことである。故に父自らはよく修養し家庭教育の大綱をつかみこれを母に示して實行上の過誤を避け合法的方法を用ひるやうになすべきである。

### 母

母は自ら子女を生み、これに乳を與へ、家庭に在りて専ら教養の任に當るもの故子に及ぶ感化は最も著しい。女性に概ね感情密なるものゆへ子女の愛育に最も適して居るが、時として愛に溺れて却て我子の意志を弱くすることがある。故に母たるものは強き意志を以て子を導き他日社會生活をなすに差支なきやう、善を斷行し、惡を抑制するやうに心がけなければならぬ。我子を善良に導くことは母の任務の最大なる事柄である。母はまた知識の修得をゆるがせにしてはならぬ。事にふれ折に乗じて智囊を肥すことを努め現代科學の進歩に伴ふことを期すべきである。



子女を教ゆるに方りては公正を主とし、感情に走らず、緩急よろしきに從ひ、賞罰を誤らず、言行はコドモのよき模範となることを期すべきである。子は母の延長である。されば母は子女の教育に最善を盡すことを心がけなければならぬ。

### 兄弟姉妹

親から見ると兄弟姉妹は五本の指のやうに一視同仁であるが、男があり女があり長があり幼があると、その間に慾望が違つたりして時々いさかひを起して不和になることがある。兄弟喧嘩は直に治るけれどもこれが昂じると年をとつてもなほ治らぬことがある。そこで父母の方から言ふと、共同生活の手綱を巧く取ることが大切である。手綱の取方がまづいと喧嘩、嫉妬、怨み合ひ、復讐などの弊害が起るのである。それだから父母は兄弟姉妹が相互に助け合ふ精神を養ふことに注意をしなければならぬ。父母は子女を公平に取扱ひ決して偏重に陥つてはならぬ。

兄弟姉妹の方から言ふと父母の恩をよく味はひ、同胞相睦み相助け相合して父母から負ふて居る恩に酬ゆることを考へなければならぬ。毛利元就の教訓のやうに兄弟が互に相依り相扶け合へばそこに美はしい大きな力が生ずる。そして親に對する感恩の精神が孝養となつて現れてくるのである。

### 家庭の和樂

人の幸福は何であらう。この問ひに對する答は恐らく極めて多岐に渉るであらう。しかしせんじつめて見ると家庭の和樂と言ふことではあるまいか。普通では富や、地位や、名譽だなどと言ふが、もし家庭にさむい木枯が吹いて居るやうでは富も位も名譽も何の幸福とはならぬであらう。

家庭の和樂を得るにはまづ主婦が努力する必要がある。

第一には經濟的の基礎を得ることである。節約のできるものは節して經濟の獨立を謀らなければならぬ。

第二は精神の安定と言ふことである。家庭に波風が立つてはならない。夫は妻を疑ひ、妻は夫を信用せず、親と子の間に大きな溝ができたりにしては家庭の精神は不安定であつていつ地震が起つて崩れるかしのれない。ささやかな生活をして居ても家庭が極めて和樂であるのは要するに精神の持方がよいからである。好景氣の時などは物質の自由があるので却て家庭に不和があつたり、疑ひが起つたり、嫉妬の角が生えたりして和樂が逃げてしまふやうなことがある。精神の修養の伴はぬ家庭に金ができるとこ言ふやうになるのである。



### 家庭の三大任務

人生に過去と現在と将来のあるやうに家庭にもこの三つの時期を尊重する必要がある。

過去は祖先である。祖先があつたから現在の我と言ふものがある。この我を思ふとき祖先を崇拜し、祖先に感謝することを忘れてはならぬ。家庭には家庭の祖があり國には國祖がある。祖先崇敬の念は人の美德である。

現在は今我等の立つて居る時である。現在を最善にすると云ふことは吾人の過去と将来とを善くする所以である。「只今」と言つて居るうちに「只今」が逃げてしまふのである。今の生活は夫婦、子女の生活である。この生活を充實し、進歩し、向上せるものとしなければならぬ。夫婦は和合して相勸み合ひ、父母は子女の教養に最善を盡さなければならぬ。

将来は明日のことである。只今のこのことを考へて明日のことを思はない家庭は丁度實を結ばぬ花の如き生活である。人は将来を慮つて事をするから動物に優る事業ができる。子は吾の血で



あり肉である。この小さい若いコドモが我がの續きであり、第二の我である。我がの將來はこのコドモに續いてゆくのである。さらばこのコドモの権利を尊重することは我を尊重する所以である。

コドモにはよく育てて貰ひ、よく伸ばして貰ひ、よく用ひる人生を送る準備をして貰ふ権利がある。この権利を尊重して子女の生活が現在の親の生活より更に恵まれたものにならなければならない。それではなければ現在の父と母は將來の祖先となつて崇拜される價值がない。

### 三つの生活様式

生活には三つの様式がある。

一、必須の様式 これはなくてはならぬ程度のものである。例へば空腹をみたすだけの食物が要る。寒暑を凌ぐに足る衣服が要る。雨露をしのぐべき住居が要る。これ等は必要缺くべからざる生活の條件である。

二、實用の様式 これも程度はあるが必須と贅澤の中間のものである。例へば電気、水道、瓦斯を應用する。旅行には汽車、汽船、電車などを用ゐる。衣服も寒暑を凌ぐ外にいくらか裝飾もする。家屋も床を造る。額も掛ける。應接室も造る。しかしこれ等は驕りには移らぬ程度である。

三、贅澤の様式 これは實用を離れた生活で例へば茶碗に數千圓、掛物に數萬圓を投ずる如き事である。むかしローマでは數百人の客に悉く時鳥の舌の吸物を出したと言ふ。時鳥の舌はどんなうまいものか知らぬがそうも澤山よく集められたと言ふところにほこりがある。日本でも景氣のよい時代には香水の風呂を造つてこれに這入つたと言ふ話もある。



愚なる贅澤は單に個人だけでなく他人や社會を毒することになる。贅澤は家庭を亡ぼす資本になるのである。

夫婦和合の道

ワレンチア美人



九の美種人

人はその顔の違ふごとく心も違つて居る。それだから「十人十色」と言ふのである。いくら「似たもの夫婦」だとか「好一對の夫婦だ」と言つても刀の身と鞘ほどにうまく一致はしない。其結果「夫婦喧嘩」や「夫婦不和」や、さては「夫婦別れ」などが起るのである。男が妻を自分と一寸も違はぬものにしやうとしたり、妻が又男を自分の型にはめ込まうとするから不和が起る。男にも女にも弱點と缺點とがある。これは相互に容れ合ふのである。容れ合ふとは許し合ふことである。そ

の代り長所は夫婦相互に賞め合ふのがよい。夫と妻とは相愛し合ふことが何より大切である。愛し合ふうちには相敬し合ふ態度が来る。尊敬し合ふ愛は人格尊重の結果である。動物性の愛ではない。そうすると夫婦互に長短を補充し合ふことになる。これが即ち夫婦互助の本である。夫が刀の鞘なら妻は身になる。それが和合の状態でありそれが夫婦の相互犠牲と言ふものになつて夫婦の大道を果すことになるのである。

父母は共同責任

父は照り母は涙の雨となり同じ恵みに育つ撫子

この古歌は父と母との共同責任を巧に言ひ現したものである。天に日月があり地に晝と夜とがある。父に父の責任、母に母の責任がある。これを果さなければ相共に完成することはできぬ。父は太陽であり、母は雨である。太陽と雨がなければ草木は育たぬ。生殖細胞は父側のと母側との二つがなければ子はできない。この出發から既に父と母とは共同事業をして居るのである。只父には父の分業があり、母には母の分業がある。父の半分と母の半分が相合して一つのものになる。それ故相互に助け合ふことが必要である。父が母を傷つけ、母が父を害つたりしては合一と言ふことがむづかしい。夫婦喧嘩などはこの點から言つても夫婦友食するやうなものである。



家庭が船なら、父は船長、母は機関長である。船長と機関長と喧嘩したり意見の衝突などして居ると遂には船が暗礁などに衝突して船客としてのコードモが溺れてしまふことになるであらう。

### 婦人の犠牲

婦人は時として身をささげ、靈をささげて生涯を終らなければならぬことがある。これは平素考へて置かなければならぬが「家のため」に親が娘を押賣して無理の犠牲を子に強ゆることがある。

某家に二人の娘があつた。姉に養子して子が二、三人でできたが娘が死んだ。親は妹娘を養子の後妻にすることに定めた。夫はもう四十四、五歳で妹娘は十七、八歳である。養子は平凡の性質であり、娘は多少教育をうけて居り、考へも違ふから反對したが親は許さぬ。親は養子に數萬の資産をわけて居るので又他から妻を貰つては他人のものになるから妹娘を後妻にして資産を我家から離さぬ工夫をすると言ふのである。女子が甘じて受けねばならぬ犠牲もあるが右のやうなことは親と娘とが熟談を遂げもし娘が厭であるならこれを無理に強ゆることは考へる必要がある。一にも二にも「家のため」と言つて無理をさせたことが家を破滅させるためになつたことが少くない。例へば資産結婚、地位結婚などのうちにかやうの實話が少からずある。

### 嫁と姑

嫁と姑は犬と猿の仲のやうに考へられる。美はしい例もあるが、それは殆ど藥にするほどの程度と見るべきであらう。嫁と姑とはその年齢の差が多い、従つて心理状態が違ふ。それが衝突の原因になる。その上に學問の程度、趣味の種類、個性、信仰などが違つて居ればなほさうである。

それだから自然のままか又は修養のない場合、嫁と姑の間に衝突の起るのは無理もない。嫁にも姑にも修養があつたらこの衝突はまぬがれる。また嫁か姑の方に深い修養があればそれだけでも衝突は避けられる。一人では喧嘩はなり立たぬ。片手だけでは相手にならぬ。嫁と姑の衝突は大抵愚にもつかぬ些細のことから起る。修養があるとこれを慎むから喧嘩は起らぬ。修養があれば姑は嫁の悪いところをかくして「嫁にもよいところがある」と言ふ。嫁もまた「お母さんはさすがに偉い方だ」と言ふ。

そこに兩者の融和する根本が見出される。

### 姑に事ふる道

嫁は家庭の平和を破らないと言ふ根本の精神をもつて姑に事へる心懸が要る。これを一言に申すと姑の心に融和することであらう。

一、自己を姑の心の中へ投じる 同じことをしてあげても無愛嬌にするのと言葉柔かに行ひをす



るのとは大變な違である。眞情の逆するやうにするのである。

二、自分で手を下す 女中などに命じて姑の用を便させざるより嫁の手であるがよい。姑の病氣の時などはつとめて嫁が手を下し、按摩もする、肩も叩くと言ふやうにするがよい。

三、姑の趣味や嗜好を重んずること たとひ嫁は芝居が嫌ひでも姑が好きな時たまには「辨當をこしらへますからお母さんお芝居へいらつしやい」位の雅量を示すのがよい。又外出の歸りにたとひ自分の嫌ひのものでも「お母さんが好きですから買つて歸りました」と言ふやうにすれば兩方の調和を保つ楔になるのである。

四、嫁の知識を鼻にかけるな 知識を鼻にかけなくともうっかり外國語など口にすべると姑は「わしが無學だと思つて嫁は輕蔑して居る」などと言ひ出すから、その邊は餘程注意が要る。

五、嫉妬心を姑に起させるな 嫁がくると姑はまるで自分の令息を嫁に奪はれたやうな氣がして今まで何事でも相談した令息が今度は嫁とばかり相談すると言ふやうになり、母を疏外するやうに見える。

それだから嫁は夫にして貰つたことは姑にもしらせる方針がよい。相談事があると夫の代りに嫁から持出して都合のよいこともある。

### 六、姑を悪く言ふてはならぬ

誰にも長所と短所とがある。短所を拾へば何人にも澤山ある。嫁が姑のわる口を言へばたくさんあるがこれは慎むがよい。「お母さんはほんとうに善い人だ」と嫁が言へば、姑は「内の嫁は却々しつかりして居る」とほめるやうに他人に自慢話をするのはあまり聞きよいものではないが、姑が嫁の自慢話をしたり、嫁が姑のことをよく言ふのは決して悪い氣持はしない。

### 七、嫁は里のことを鼻にかけるな

嫁の生家が資産家であるか地位が高いか名望があるかすると嫁が里の父は斯うした、母がどうしたなどと口すべらし易いものである。斯うして何心なく言つた事が姑の方では里のことを嫁が威張るやうにきこえ嫁が姑を侮辱するやうに思ふことがある。

### 女性と老人

人になる。その老人をいたわることには婦人として決して忘れてはならぬ。くどうなる氣短になる痴痴になる思ひつくことみな古うなる。聴きたがる死にともながる淋しがら出しやばりたがる世話焼きたがる。又しても同じ話に探ほめる達者自慢に人を侮る。この古い狂歌は老人の心理をよくうつして居る。これを手本としてはならない。誰も年をとるとそ



う言ふ心理状態になるのであるから一面には老人の心持を慰めると同時に自己の老後の精神の持方に注意を拂ふべきである。老人は言はば過去の人である。もちろん例外はあるが。しかし老人のお蔭を受けて居ることを思ふときに親切をつくしてよろこばせ慰めることは修養ある女性の美德である。

### 老人を虐待すな

或國に夫婦と男の子どもとが住んで居た。主人の父が都合で同居することになつた。妻は老人の世話を厄介だと言ひ出した。或日食堂で家族一同食事をして居た。老人は手がふるえたので皿を食卓から落して割つた。嫁は腹を立てて「これからあなたの室へ運ぶから食卓へ来てはなりません」と言つた。それから毎日老人は鍵を卸された部屋で食事をした。座敷牢に入れられて食費をだすのはつまらぬと老人は考へた。

孫が門邊で遊んで居た。木の枝など集めて小さい家らしいものを造つた。母はこれを見て何にするのかと聞いたら「自分が大きくなつたらこの家の中へお父さんとお母さんを入れるのだ」と答へたので、母は非常に驚き早速老人を座敷牢屋から出してお詫をし、それから家族一同楽しく暮したと言ふ。

### 召使

召使は家庭で父と母とだけで手が足りないから他人の手を借りるのである。この他人の手が即ち召使である。これは家庭のために働いてくれるのであるから家族でないにしても準家族と見るべきものである。

召使のあるため母や子女が怠け者になつてはならない。子女自らがしなければならぬことを召使にさせることはよくない。

主婦は召使を監督すると同時によく指導することが大切である。召使だからと言つて奴隷のやうな心持で取扱つてはならない。相當にいたわる必要がある。食物は勿論のこと、よく眠らせることも大切である。疲勞して居れば休ませるのもよい。

召使の心得が悪いとそれが子女に影響して思はぬ失敗を招くことがある。故に召使を選択する場合健康上のことは申すまでもなく、教育の程度や性格の善悪を詳しく調べて置くことが大切である。

### 主婦と女中

女中を監督し指導するものは多く主婦である。主婦は巧に女中を扱ふ法をしらねばならぬ。高い給料を出しながら毎月女中がかはると言ふ家がある。

ある。これには何等かの理由があるに違ひない。

先づ女中の人選に方つては健康、正直、清潔、恰愼と言ふことを考へなければならぬ。雇ふた以上



はその家庭の風習を早くのみ込ませることが大切である。

女中は使ふために置いてあるのだから使はぬと損だと言ふやうな考へはよくない。同情をもつて取扱ふがよい。朝は相當早く起きなければならぬから夜の就寝時間を定めて置くのもよい。食物を惜んだり、又寢具を十分に與へなかつたりすることはよくない。疲労したり病氣のときはよくいたわつてやらねばならぬ。どうせ家族の世話をしてくれるのだから成るべくは家族と差別をせぬやうにするがよい。夜の時間が空いて居れば、讀書、裁縫、娯樂、修養などのために用ゐるやうに指導するのもよい。取次は多くの場合女中がする。叮嚀に取次ぐことも必要だし、要件を早くのみ込むことも大切である。客に不快の感を起させないやうに導いて置く必要がある。

待遇は本人との約束を守らなければならぬ。もし女中の能率が非常によければ約束以上のことをするのによし、主家から結婚するやうな場合は相當の補助をするやうにありたい。

### 將來の家庭

どの時代の家庭でも衛生と健康と能率と慰安と修養を重んずべきであることはもちろんである。將來の家庭でもこの原則の變る筈はないが、文化の進むにつれて時間の貴さが變つてくる。今日でも炊事、裁縫、洗濯、掃除などのためにどれだけ多くの時間を費すか知れない。その上に子女の養育に時間がかかる。時には來客もある。病人が

臨時にできる。主婦はこのために休養は愚か過勞に陥ることが少くない。その結果主婦の健康に故障を招くことになる。

將來の家庭にはもつと雑用に時間を費す必要が起つてくる。これには第一臺所を改良して立働きの便利に造ること、水道、電気、瓦斯などを用ひて家庭の經營を簡便にすることが必要である。洗濯などは早くする工夫をしなければならぬ。

食物の料理法も、種類も成るべく簡易にすることを考へなければならぬ。食事を共同食堂にすれば便利だとの説もあるがこれは都鄙の區別やら嗜好やら其他の關係で實行は困難であらう。

今日の日本の家庭の状態では休養の時間を主婦が得ることは普通は困難である。そこで時間を節約する必要がある。この一つの方法は訪問時間の整理である。事務と社交との別を立てるのがよい。その他將來の家庭ではまづ家屋の構造が變るであらう。その結果今日の坐る習慣がだんだん減るであらう。雨戸の開閉に費す時間も少くなるであらう。蒲團の出入に用ゆる時間が減るであらう。衣服の着脱、結髪、化粧などがもつと早くなるであらう。斯くて日々の生活に時間の餘裕を得てこれを健康増進の目的に利用するやうにする必要が起るであらう。



## 服装と美装

### 衣服

衣服を用ゐる目的は外界の寒暑を調節し、人體内部の温の放散を適當にし、且外方よりする危害を防禦するにある。これと同時に衣服は生活に便りをもつて居なければならぬ。和洋何れの服装を用ゐるにしても右の條件を忘れてはならぬ。衣服は寒暑の調節をなすものであるが、この外界の身體に作用する程度は體質によつて一定せぬ。體質がよく榮養が盛であればその反對のものよりは寒さに對して薄着で済む。衣服は清潔にして且軽いことがよい。これは運動のしやすいためである。身體を壓迫することの著しい衣服は運動を妨げると同時に身體の器官を傷ふことになる。故に衣服の應用に際してはこの點にも注意を要するのである。

### 女性服

日本の女性服は全體の重さが肩にかかり、又帯が廣いので胸部や腹部を壓迫する。のみならず裾が長いので歩行に不便である。袖も長いから運動上の不利がある。これ等の點は改良の餘地あるものと見るべきである。改良の要點は胸や腹を壓

迫せぬこと、裾を歩行に便利にすること、下脚の冷ないものを用ひること、袖の工夫を考へることもつと軽くすること等である。

女性服は男子服にくらべると美的趣味を重んぜられる事が著しい。これによつて人品の優劣をも批判するほどのもの故、普通に言ふ衣服の目的の外になほ女性服は特別の意義を有するものと見るべきである。

### 女性服と流行

流行の中には善悪と中性のものがある。時としては悪い流行でも著しい勢ひで進むことがある。ことに女性の服装に關して著しい。流行が合理的進化を示す場合はそれに従ふことも合理的である。之に反し流行が衣服の目的に反抗し生活に不便を與へるものであればこれを排斥すべきである。

この故に流行の來る場合は衛生と教育との見地よりして判斷すべきである。流行とさへ言へば何でもよいものと思ひ無闇に盲從することはよくない。

### 女性と結髪

日本髪は島田、丸髷、銀杏返し、唐人髷、桃割、天神髷、稚兒輪などの種類がある。日本髷は優美であるが、重いのと、結髪に他人の補助を要するのと、活動上に不便がある。その結果日本でも漸次日本髷が西洋髷になりつつある。



髪はもともと優美なることを目的とするものであるから顔面や頭の形によつて調和を保つやうにしなければならぬ。これと同時にいつでも衛生的なることを忘れてはならない。即ち頭部の皮膚を清潔にすること、毛髪をも清潔に保つこと、有害性の油や、白髪染などに注意することである。断髪は近來髪型の一つとして流行を見るやうになつた。これは軽快なると、自由なるが特徴であらう。断髪にも刈込、アイロン等の種類がある。服装との調和、習慣などの関係があるから日本婦人に直に奨むべきものか否か、早断はできない。

### 女性と履物

足にはくものは神代の時代からあつて襪、足袋、沓、鞋、下駄、雪駄、草履、木履、靴などである。何れも時代によつて變遷はある。要は歩行に便利で、運動を妨げること少なく、危害を招くことのまれなるものがよい。言葉を変換すると衛生的なることである。支那婦人の用ゐる狭い小さい靴は纏足の結果である。又纏足でなくとも靴の踵を著しく高くし且細くすることはよくない、靴の尖端を無闇に尖らせるのも足の壓迫をすることになる。婦人靴や小兒靴に斯かるものを用ゐて居ることがある。

### 美粧

美粧の目的は身體を優美にすることである。普通は顔面や頭や手などに重きを置くが、本來の性質から言へば全身美を考へるはづである。衣服

で被はれるところは服装の美を以て身體をかくそうとするが、姿勢（靜的にも動的にも）の如きは身體美と言はねばならない。故に姿勢美を傷ぶ服装はよくない。

美粧は美を一段と美化し、醜をかくすことが主眼である。顔の美、眼の美、鼻の美、眉毛の美、口の美、手の美、爪の美、毛髪的美などについてはそれぞれ特別の技術が進んで居る。

美粧についてもつとも注意を要する點はその技術や方法が拙であると自然を傷け却て滑稽の美になる。流行に盲従するとこの弊に陥ることが少くない。

美粧の際もつとも注意すべきはいかなる場合にあつても非衛生の方法を用ゐないことである。外部の美を願ふて全身美又は健康美を傷ふことは愚の至りである。

## 家庭衛生

### 洗濯の仕方

洗濯には（一）水洗濯（濕潤洗濯）と、（二）揮發洗濯（乾燥洗濯）との二種がある。

白木綿と白麻布の洗濯法

用具は鹽、洗濯板、鍋、箸、七輪、藥品は洗濯石鹼、洗濯ソーダと



で足る。洗ふ布は用途によつて分ける。

鹽に洗濯物の浸る程湯を入れ、洗濯ソーダを少しとかし、よくかきまはして板をして一夜位放置する。石鹼は粉末のものを湯にとかしたのが経済的である。それより揉み洗ひ又は板もみ洗ひをする。其他ブラシユで洗ふ方法もある。洗濯のすんだ後は水洗ひをして、糊をつけるものは糊付けして乾かす。

煮沸洗ひは洗濯ソーダと石鹼液とを泡の立つほどに入れて揉み洗ひした布を入れ二、三十分煮るのである。これがすめば水洗する。これは數回行ふがよい。

木綿麻類の漂白法 用具は鹽、藥品は漂白粉、硫酸、次亜硫酸曹達。漂白する方法は漂白液に浸す。この液は漂白粉一五乃至四〇瓦に水少量を入れてこねて泥状にする。それから水四リートをに入れて放置すると上澄液が出来る。これに布をしめし軽くしぼり、液の中へ浸し、一、二時間後に取り出し軽くしぼり稀硫酸液に二、三十分間つける。この液は濃硫酸一五瓦に水四リートを加へたものである。次で水洗する。

絹織物の洗濯 用具は鹽、平板、絹洗濯用刷毛、藥品は洗濯曹達、マルセル石鹼、醋酸等銻仙類を洗ふには洗濯鹽の左方に水を入れた器を置きその間に板をかけ、たわし鹽中へ洗濯のすんだ布

を入れ洗濯布を端から引出して板の上に布のよこれてゐる方を端から順にハケに洗濯液をつけて洗ふ。裏がすんだら表を洗ふ。それから微温湯ですゝぎ、次に水洗(二、三回)する。最後に洗ふとき水の中へ醋酸を少し入れると絹特有の光りと絹鳴りが出る。大島紬は決して酸に通さぬこと。絹物の水を切るときは捻絞つてはいけない。濡れたまゝ板の上で乾かす。

縮緬類 ハケ洗ひにせず手揉みにする縮緬類は巾をひろげて洗ひ、水洗後醋酸液を通して乾かせる。

毛織物の洗濯 洗濯液をあまり熱くせぬこと、濯ぐときは微温湯を用ひ次で水洗する。石鹼は良質のものを用ひる。洗ひ方は振洗ひがよい。白布又は白毛織製のもので洗つても純白にならぬ時は漂白して青味をつける。最後に醋酸の液を通し水氣をとつて乾かす。仕上は毛織物はアイロン又は湯熨斗仕上をする。

### 家庭衛生具

家庭に備えて置く衛生的材料は左の如くである。

繻帶。ガーゼ。脱脂綿。リント。油紙。絆創膏。灌腸器。ピンセット。吸入器。氷嚢。氷枕。湯婆(ユ)

タンボ。検温器。グラム秤。メートルガラス。體重計。



### 家庭常備薬

家庭常備薬として少くとも次の種類を用意して置く必要がある。

アルコール  
 ヨード丁機(塗布、消毒ガーゼに浸して用ゆ)  
 イヒチオール(塗布)  
 リゾール(消毒薬)  
 デルマトール(撒布用)  
 アンモニア水(塗布)  
 過酸化水素水(消毒、含嗽用)  
 硼酸軟膏(塗擦)  
 シツカロール、亜鉛華澱粉(撒布)  
 メンソレータム(塗擦)

ワゼリン(塗擦)  
 アンチピリン、アスピリン(解熱剤)(これを用ゆるには特別の注意を要す)  
 オリーブ油(浣腸、塗布)  
 ヒマシ油(下剤)  
 重曹(健胃、吸入)  
 硼酸(濕布、吸入、含嗽)  
 チアスターゼ、パンクレアチン、パンクターゼ等の消化薬  
 ビオフェルミン、ラクトスターゼ等(整腸剤)

### 家庭看護

薬品の用ひ方、食前、食後、食間等の別がある。又頓服、外用等、何れも用法及び用時を誤らぬやうにする必要がある。昔から病人は「治療よりも看護」と謂はれて居るほどである。醫師の指圖を守ることがはもとより、たとひ病人の注文でも

時には應じてはならぬことがある。しかし病人は精神が過敏になつて居るから又無闇に逆らふこともよくない。同情をもつて取扱ひ精神の慰安を與へるやうにする必要がある。またコドモの看護についてもコドモの特性に注意し病を重らせるやうなことのないやうにするのである。

検温 定つた時に正確に測らねばならぬ。  
 吸入 距離は二尺位、一日二、三回  
 灌腸 リスリン、石鹼水等を用ゆ。  
 濕布 フランネル、毛布等を用ゆ、冷濕布及び温濕布の別あり。又藥品塗布を行ひ濕布に代

ゆることがある。  
 氷枕、氷嚢 熱低き時は井水にてよいが夏期で高熱の場合には氷を用ひる。氷枕はタオルで巻いて用ゆ。氷嚢をあまり長く用ひて心臓衰弱を起すことがある故注意しなければならぬ。

### 女性と酒

酒を多く飲む人の子に低能兒や白癡が澤山あつたり、又其他身神異常あるもの少くないことは既に周知して居る筈である。

酒毒のために家庭や社會のうける悪影響を數へあげたら何人でも驚くに違ひない。婦人は自ら酒をのむことをつしまねばならぬ。自分だけでなく夫を飲酒家にさせぬ努力が要る。もし萬策つきた場合でも夫が酒をのんで居る時は同衾することを避けねばならぬ。母となつては子女に飲酒の惡癖を起させぬ注意が要る。實際なら仕方があるまいなど言つて子女の飲酒を見て見ぬふりをするやうな母親ではとても子女を善導することはむづかしい。こう言ふ點から考へて「酒なき家庭」を造ることに努むべきである。



# 食 物

## 栄養素の種類

生命を保つ上に栄養の必要なる事は申すまでもない。この栄養物質は必ず左の成分を含む事を必須条件とするのである。

蛋白質、脂肪、含水炭素、鹽類、ビタミン、水分。

此等の成分は偏してはならぬ故、種々の食品を混じて攝取するがよい。偏食の癖ある場合はこれを矯正する必要がある。

## 調理十則

- 一、栄養素は人體の生活に必須のものを含める事
- 二、必須の栄養素全部が一種の食物に含有することなし。故に種々の食物を攝取する要あり
- 三、調味に有毒性のものを加ふること勿れ
- 四、食物中に病原菌又は寄生蟲卵等を附着せしめざる事
- 五、もし病原菌又は寄生蟲卵等を含む場合は消毒液に食物を浸すか又は煮て食用に供する事
- 六、調理を取扱ふものは手、衣類等を十分清潔に保つ事
- 七、調理に用ゆる器具はすべて清潔を要す
- 八、人により食物に好嫌あり、料理に際してはこれを顧慮せよ
- 九、調理は美化するを可とす、これによつて食欲を増進することを得
- 十、料理は高價のもの必ずしも滋養多かず、廉價のものといへども合理的ならばその價値大なり

## 料理と調味

調味として用ひられるものは醬油、食鹽、味噌、砂糖、酢、ソース、トイガラシ、山椒、シヨウガ、コシヨウ、カラシ等である。調味は感覺を刺戟して食欲を盛にするもの故、従つて消化を助くる作用がある。しかしこれを過度に用ひると種々の害が起る。殊にその害は小兒、老人、病人等に對して著しいのである。

食鹽は必須の成分であるが多量に用ひると腎の機能を害し、腎臓炎を起すことがある。砂糖は亂用すると小兒では骨の發育を妨げる。又砂糖を亂用すると糖尿病を誘發し、糖尿病の場合には此を増悪する。ソースは刺戟性の物質が多く含まれて居るから腎臓炎、動脈硬化症にはよくない。山椒、コセウ、セウガ、カラシの類は大量を用ひると神経細胞、腎臓、心臟等に不良の作用を及ぼす。コードモにはわけて刺戟物の制限を必要とする。カレー粉の如きも刺戟物が多いからコードモに強いカレーを食はせることはよくない。

## 牛乳の良否を知る法

- 一、牛乳は白色濃厚である。色淡く、赤味青味あるは不可
- 二、牛乳には特有の臭がある。不快臭あるはよくない
- 三、牛乳が豆腐のやうに凝固した場合は腐敗の徴である
- 四、牛乳の一滴を硝子の上に落し半球をなすものは善い。飛散もするのは不良



五、コップに水を入れ其中に一、二滴の牛乳を落すと器底に向ひ沈み行く、もし水面に散亂すれば不良

六、酸性つよきは善からず

七、比重は普通一〇三〇—一〇三五である。これより輕きは水を加へた證據

八、脂肪計で測つて脂肪が三%以上あれば善い

**飲食物と病原體**

病は口からと言ふが、實際飲食物から進入する病氣は少くない。其中傳染病は最も恐るべきものである。豫防上の注意として左の如く列擧する

コレラ菌 水中で永く生活し繁殖する故飲料水に注意する要がある。

疫 痢 この菌は熱に對し弱く、煮沸すると完全に死滅してしまふ。これも細菌によつて起るもの故飲食物を注意しなければならぬ。未熟の果物、不良の飲料水等は間接本症の發病を助けることが稀でない。

チーフス 我國では殆ど全國にわたり、年中本病がある。チーフス菌は糞便中で三ヶ月も生存して居る。チーフス菌附着の疑ある野菜や魚類は生で食してはならぬ。牡蠣は生のまゝ食することは危険である。

バラチーフス これにはA及びBの二菌がある。この菌の進入門口も主として消化器であるから飲食物について注意を要する

結 核 結核菌は皮膚、呼吸器より進入する、外消化器からも食物と共に進入する。又接吻によつて口より本菌を感染することがある。

以上述べたる如く消化器より傳染病の蔓延することが少くないから傳染病患者の用ひたる食器は之をよく消毒し、一面には食物の煮沸を怠らぬやうにしなければならぬ。

**果物を食べる時刻**

果物は大部分水分であるから夜分に食べると他の營養物が稀薄になり腸内で醗酵する。西瓜、梨、蜜柑、桃の如き水分の多いものを夜分に食べると體中の水分が増して夜中に排尿の必要が起り易い。日中ならば水分は皮膚から蒸發する。果物に酸を多く含むものがある。これを多食すると腸液に必要なアルカリが酸のために征服されて下痢の原因になることがある。又暑い時分氷で冷した果物を夜分に多く食することなどは腹部を冷す點からよくない。殊に妊娠中の女子には特に注意しなければならぬ。

**ウイタミーン**

ウイタミーンの研究は米國コロムビア大學教授ファンク氏が英國リスタ研究所で一九一一年に米の糠から脚氣の抗成分を分離したのに初まる

九、不純物例へば毛、砂、木屑等が牛乳の中に交ぜつて居てはならぬ

一〇、試験管に少量の乳を入れ、その半分アルコホルを入れよく振盪して凝固せぬはよし

一一、沃度丁幾二、三滴を落し牛乳が紫色となれば米汁の交ざつて居る證據



この抗成分は蛋白質、脂肪、含水炭素及び無機鹽類のどれにも屬せぬ有機化合物であることがわかり、此をビタミン（Vitamin）と命じた。今日では既知の主要素と相伍して人類の生活に必須の要素とみなされて居る。ビタミンには左の如き種類がある。

ビタミンAは油溶性にして水にとけず、大氣中では酸化され易い。これは肝油、牛酪、クリンム、卵黄、牛乳、真空乾燥乳、脂肪、鱈、鮭、牡蠣、大根葉、ホーレン草等に多く含まれて居る。もしビタミンAを缺くと發育障礙、結核、夜盲症、眼乾燥症等を起す事がある。ビタミンBは水溶性で酸類に強い。穀物の内皮、胚芽、糠、カキ、胚芽米、大麥、粟、卵黄、生肉、大豆、隠元豆、蠶豆、玉蜀黍等に多く含む。ビタミンBを缺くときは脚氣、神経系障礙等を起し易い。

ビタミンCは水溶性で熱に逢ひ分解す。又大氣中で酸化され易い。果實、特にレモン、オレンジ、トマト、ラズベリー、苺、植物の綠葉、大根汁等に多量含まれて居る。ビタミンCを缺く場合は壞血病、骨の石灰分の缺乏を告げるに至るのである。ビタミンDは肝油、牛乳、牛酪等に含有され、これを缺く時は佝僂病にかかり骨の生長を妨げられるのである。

### コドモと菓子

生菓子、蒸菓子、餅菓子、駄菓子などがある。

コドモに菓子を與へる際注意すべきことがある。

- 一、菓子の成分がコドモの身體に適して居るものを用ひること
- 二、消化の悪くないこと
- 三、有害の色素を含まぬこと
- 四、刺激性（香氣、香味）の強からぬこと
- 五、賡造の目的で染料を使用したものを避けること

なほ菓子のうちでも砂糖をあまり多く含むものはよくない。砂糖が多量にコドモの體內に入ると、そのため遊離酸が出来、これが身體に害をする。又これが血液中でカルシウムなどと抱合する。そしてこのカルシウムが外から來ない場合は骨や齒から取る。そこで骨質がよくなり殊に發育期のコドモの體質を弱くするのである。

### 食物の好き嫌い

食物の好き嫌ひはコドモによく見る事實である。偏食すると栄養の缺陷が起り易くそのため健康と成長に悪い影響が及ぶのである。食物の好き嫌ひは天性にもよるが多くは養護者の不注意からくる。



食べものの好き嫌ひを矯正するには周囲の人々が偏食しないやうにする。茶漬を周囲の人がするからコドモは見覚えるのである。それから嫌ひのものでも少量づつ與へるのである。一時に大量を與へてすぐ好きになれと強ゆるから却々うまくゆかない。

野菜が嫌ひで困ると言ふ人がある。いくら嫌ひでもその種類、料理法などを母が研究すると嫌ひと思つたものでも好きにさせることができるのである。概して母に研究の熱心が足らぬやうである。

### 食 事 衛 生

食物の要素は蛋白、脂肪、含水炭素、ビタミン等であるから、これ等の成分を適當にとることを忘れてはならない。偏食はよくない。消化器は季節によつて抵抗力が違ふ。即ち冬は抵抗強く夏は弱い。食物は年齢により多少差異が起る。若年のものは肉類を比較的少量に好むが高年に達すると野菜や果物を多くする方がよい。

口内を清潔にし、わけても歯牙の衛生を厳守することが肝要である。もちろん咀嚼をよくすることも大切である。

食事の時間は定められる方がよい。

食器はもとより清潔に保たなければならぬ。食卓は清潔で且整頓され、花などを飾りとして用ゐることは快感を起させる上に都合がよい。

### 病 人 料 理

い。もちろん消化の悪いものはどの病人にも適せぬ。

食物が單調に失しては食欲をそよることが少いけれども、又あまり複雑にすると消化しにくくなる。同じ料理はあきやすいから調理法を變へるやうにしなければならぬ。また食物の成分は有効に用ゐることが必要である。煮すぎたり、よい成分を捨ててしまつては役に立たぬ。

腐敗の恐れあるものや消毒の必要あるものをそのまま病人に與へることはよくない。

果物などは差支のないかぎり生で與へる。もつとも消化を妨げたり又胃腸を傷ふやうではいけない。この場合は果汁にして取るがよい。未熟の果物、ならびにこれと反對に過熱のものもよくない。

### 食 べ 方 の 注 意

咀嚼をよくすることは食事衛生上非常に大切であるが、家庭で此注意が十分できて居ぬことが多い。咀嚼がわるいと胃腸の故障を起しやすく従つて食物の吸収が十分行はれぬ。その結果栄養がわるくなる。咀嚼するには一方に偏せず兩側の歯牙を用ゐるのである。同時でもよく。又交番でもよい。

食物の咀嚼に怠いではならぬ。又食物に汁とか茶とかをまぜると咀嚼が不十分になりやすい。引々



がよい。  
 食物の残つたものが齒の中に止まることがある。これは腐敗しやすい、その結果齒牙を損ふことになるから食後は口を洗ひ且齒と齒との間に残つた食物をとり出す工夫をしなければならぬのである。

**血色をよくする食物**

血色をよくするには鐵を含んだ植物性の食物がよい。例へばホウレン草、人參、そら豆、馬鈴薯、豌豆、小麥、大麥などである。それから果物もよい。林檎、いちご、梨、葡萄の類、又肉類、牛乳などもその目的で用ゐられる。肉類では特に動物の肝臟がよい、牛、豚、羊などのものを用ゐる。肝臟はあまり煮過ぎないやうにする。

**女性と趣味**

**女性と裁縫**

裁縫には和服裁縫と洋服裁縫との二種がある。和服は紋附、重ね物、袴までを家庭技能とし襦袢、袴袴其他のものは専門的技能とされて居る。

洋服は兒童服、婦人服を縫ふのが普通である。近時機械縫の行はるゝに及び家庭にて裁縫するの風習ますます少くなりつゝある。裁縫は周到の注意を要し、女子に適はしき技術であるから成るべくこの術を習得しく置くがよい。裁縫の際は用針の始末をよくし不慮の禍を避けなければならぬ。

**女性と插花**

插花は草木の枝葉を剪り、これに或形式の技工を加へて、水に養ひ人の觀賞に供するものである。この術を華道と云ふ。插花はもと神佛に花を手向けることから起つたと言はれて居る傳説には推古天皇の朝に厩戸皇子が山城の某池の邊に觀音堂を建て小野妹子をして守らせ妹子に插花の法を授けたのが池坊流の初めだと唱へられて居る。今日用ひらるゝ形式の諸流は足利時代に盛になつた立花から出たものと見做されて居る。

華道の流派は今日では非常に多くあるが、大別すると池の坊型、古流型、遠州型の三つであるがその他にもある。その特徴は池の坊型は簡素崇高を旨とし、遠州型は婉麗華美、古流型はその中間である。花型を構成する主體は天地人である天は全型の主宰で最高位を占め地は最

圖二十六第





低部にして安定を保ち、人は中央にあつて全體の平衡を保つのである。

花瓶には金屬製、陶器製、竹製、木製、籠製等がある挿花の一種に立花とて、最も莊嚴性を帯ぶるものがある。寺院の本尊の前に供へる金蓮華等はこの型をとつたもので佛花と稱して居る。立花には眞眞、除眞の別がある。

盛花は色の調和と形の配合を本旨としたもので歐風を日本化したものである。

投入花は意匠を加へぬ挿花である。きまつた型はないがその形によつて半傾斜、傾斜、懸崖の三つに分けることが出来る。

挿花の材料は花物、葉物、樹物、實物の四種である。

女子はもともと艶麗を好み、家庭を清潔にし、裝飾することに馴れて居るから快感を與へる上から言つても挿花は適して居る。たしかに挿花は高尚なる趣味の一つである。

### 女性と讀書

讀書は不老不死の薬とも唱へらるべきものであらう。これによつて心を新たにすることが出来る。讀書は心の糧となるもの故日々そのために時間を割き心に銷のつかぬやうにつとめなければならぬ。讀みもの中にはその日限りで顧みられぬものもあるが、幾度でも繰返し讀むことの必要なるものがある。斯かる良書は暇ある毎に精讀、熟

讀するがよい。高尚なる文學なども女子の趣味としてはふさはしいものであらう。左に記せるは本居宣長の歌である。

書よめば大和もろこし昔今よろづのことを知るぞうれしき  
折々に遊ぶ暇のある人のいさまなしとて書よめかな

讀書のうちには害ありて益なきものもある。故に良書を選びて讀書の利益を受けるがよい。古人が活眼をひらきて活書を讀むと訓へたのはこの點である。讀書なき人生は冬枯の野邊の如き寂寥なるものであらう。讀書せぬ女性に進歩はむつかしい。ゆかしい優美の品性は讀書して先人の徳を學んで養はれるのである。

### 女性と手藝

手藝は日常用ゆる物に、各自の好む裝飾を施すことを謂ふ。普通細工物と稱せらるゝものは押繪、切篋、切置、縮細工、塚細工、摘細工、袋物、小刺繡などを應用したものである。ビーズワークは日本刺繡に似たもので運針縫、返し縫、まつり縫を適當に應用したものである。ビーズモザイクは針、カタン絲、ビーズ、生蠟とで造る織物である。クレープペーパーは造花、人形、小箱等を造る。これは鈇と糊とで出来る。絹刺は絹面へ絹の撚絲を用ひて行ふ繡である。革細工は革を打出し、又は凹めて模様を造るのである染色は種



々あるが現今最も盛に行はるゝは絞り染、蠟染、描き更紗、描き友禪等である。手藝は細やかなことで且時間を要する。これは家庭で女子が行ふにもつとも適して居る。

### 女性と園藝

園藝とは果樹、蔬菜、花卉などを栽培する術である。造園もこれに含まれる。園藝は趣味の上から言つても興味の多いことである。殊に女子がたとひ僅の土地でも利用してここに蔬菜をつくり、花卉を栽培することは興味のあることである。こうして生物の栽培をするうちに自然の力、自然の美、自然の親みがつく／＼とわかつてくる。女子が大々的に營利の目的で園藝を営むことは兎も角、我家のあき地を利用して自然と親い關係をつけることは極めて適當なことだと思はれる。

### 女性と彫刻

女子の手にて彫刻されたものは古くからないではないが甚だ少い。あつてもその雄大壯嚴なる上に於て男子を凌駕することが殆どできない。これは女子の體力にも關係があるであらう。即ち石に臨んで鑿と槌を用ひたり、木をほつたり、土をねるやうなことは女子に不適當なであらう。しかし蠟を用ひたり、粘土をもんだり、陶器をつくることは女子が却て適當であらう。

### 女性と音楽

音楽は調律的音により吾人の感情生活を満足させる藝術である。音には

騒音と樂音との二種がある。音楽は樂音にしてこの音を發せしむる器を樂器と云ふのである。音楽を大別すれば聲樂と器樂となる。

音楽は人生に必須のもので、人の住むところに音楽のない處はない。故に音楽は人類とその起原を一にして居るのである。音楽の形式は素より人智の進歩につれてますます複雑のものとなつたのである。音楽は感情生活を満足させるもの故婦人のこれを好む者多きは當然である。音楽は素よりその生るゝ國の國民性を現す。我國のものは邦樂と稱し、支那樂、西洋樂等と區別し、其間に特殊の趣きを有するのである。

女性は先天的に音楽を好む傾向をもつて居る。故に聲樂などに秀でたものが居る。邦樂にもすぐれた女性がよくある。器樂はむしろ男子がすぐれて居る。

音楽は人のところを高尚に且優美に導くものであるから家庭を音楽によつて愉快にさせる工夫をするのがよい。又音楽を社會的、團體的に用ゐることも必要である。

### 女性と文學

文學のうちにもいろいろの種類があつて女子に不適當のものもある。例へば漢文、漢詩のごときはその一例である。

どちらかと言へば文學は女子の嗜好に合ふものであるから趣味として修めることもよし又専門的に



進めてゆくこともよいであらう。家庭小説、童話、童謡、和歌の如きはたしかに女性に適したものと云つてよい。

### 女性と語學

語學を修めるには言語を明かに語り、アクセントを正しくして、話術に長ずる事が大切である。女性はこの點に於て男子より優つて居る。語學の原理とか比較言語學とか言ふことは女性が男子に勝るとは言へないが、實用的には女性の方が語學に巧みである。外國語の修得は女子の方が男子よりも優れて居る。故に將來女性が外國語を用ひ演説をするやうな場合、男子を凌駕するに至るであらう。

### 女性と和歌

和歌は五七七の五句三十一音から成り立つ、日本特有の短い詩である。二千年の歴史を有し今日も尙ほ潑刺たる生命を持つ不思議なる文學である。

和歌は女性に最も適した文學の一つである。日本文學史上に現れた女流作歌の多いのを見ても明らかである。殊に萬葉時代、平安朝時代に和歌で名をなした女性は多い。鎌倉以後に割に名流女性の少いのは女子を抑へた思想の影響であらう。和歌は優美なる文學であることも女性にこの嗜好を多く生ぜしめる所以であらう。

和歌は婦人の心を高尚にし且情操を養ふに頗る適して居る。音楽や繪畫よりも修得し易い傾きがある。それは到るところで練習ができるからである。感興が起れば電車の中でも、船の中でも、添乳のときでもまとめることができるからである。歌はその中に自分を入れて楽しむべきものである。今日の如き世にあつては女性が歌の世界にどこまでも雄飛することができるのである。實際高調に達した感情を歌に言ひ現すときに千歳の後まで減せぬほどの光がでてくる。萬葉集を見てもこの消息がよく窺はれる。

次の歌は歌聖柿本人麿が旅に出る時人麿の後の妻依羅娘子がよんだものである。

### 女性と繪畫

繪畫は物の形を描きたるもので彫刻の立體なるに比し平面であるから一にこれを平面美術と言ふ。東洋畫は形よりも氣品を尙ぶ傾向がある。西洋畫は寫實を主とし遠近法、油繪具、寫眞術等の發明と共に大に進歩した。近時東西の畫法混入するの傾向を示すやうになつた。

繪畫は一面に美術心を養成するのみならず他面に於て感情の陶冶を期するもの故婦人の趣味として之を學ぶのはその天性にふさはしきものと謂ふべきである。



繪は寫生もあるが想像力を要する。故に女子は繪畫に於て男子に優ることは少い。しかし美を好み美を慕ふ本性から女性に繪畫に興味をもつものは決して少くない。女子の繪は花鳥山水、動物、肖像畫が多い。佛の女流畫家ロザ、ボネールは動物畫を、又佛のルブランも女流畫家であつたが主に肖像畫をもつた。その他女流畫家瑞西のアンゼリカ、カウフマン、伊太利のエリサベツト、クラウス、サビニア、フオンタナの如きがあるけれど傑出はできなかつた。

寫生と模倣性は女子に於てよくできる。この理由から陶器畫や漆器畫は女子に最も適して居る。

## 女子教育

### 女子教育の目的

女子も人である。男も人である。人と云へば男と女の外はない。女が人である以上は人の教育をすることが原則である。しかし男と女とは各特色があり分業がある。故に女子教育は人としての教育の外に女子の特性に適當した事柄をつけ加へる必要がある。

人の教育の原則は善き人格の獨立と謂ふてよからう。此が具はれば自己、社會、人類のためにより

よき生活ができる。女子はこの原則の上に立つて女子の本領を發揮することが必要である。本領と言へば娘としての務め、妻としての務め、女としての務めなどがこれに屬する。そして女子の生活を完成することであらう。この目的で行はれるのが女子教育である。

### 女子教育の理想

教育の目的は人類の生活を圓滿にし人類生活を向上させることにある。その目的を達するには女子としても人間の教育を受けなければならぬ。男子よりも女子の方が低い教育で足りるとする考へは間違である。教育は人類生活を圓滿ならしめる目的を有して居る以上偏してはならぬ。身體を強健にすること、智能を啓發すること、徳を修めることは最も必要である。人類は社會生活を營むものであるから社會意識をもつて共存共榮の實をあげるやうに努めることが大切である。それにはまづ個人の修養が第一となり、家庭生活が圓滿となつて然る後社會をなるべく完全に保つことを人類の理想として進めてゆくやうにしなければならぬ。人類の生活に相反するが如き教育は眞の教育ではない。

### 女子教育の目標

教育の目的を功利的に打算することは間違つてゐる。功利的に考へて女子に教育を授けたらいつでも失敗である。

「娘に高等の教育をして置かないと貰つてくれるものがない」



これが大抵親の言ひ分である。確にそう言ふことはあらう。しかしその言葉の中にはいつでも功利的の分子を多く含んで居る。教育はもつと遠大なもつと深い目的をもつて居る。教育の目的の第一は自己を完成するといふことである。獨立のできる人格を養ふことである。自己をよく用ゐるための準備である。

教育の第二の目的は自己を社會のためによく用ゐることである。婦人が自己の修養をしても社會進化、社會安寧のために盡さなければ女性の本分をつくしたとは言へない。

### 家庭教育

家庭は人生の出発點である。故に家庭は教育の生ずる最初の自然的郷土である。學校に於ても社會に於ても家庭以上の影響を與へる事は出来ぬ。家庭は血族の團結でここから愛情が湧き協同の精神が起るのである。家庭に在る子女に對しては社會生活を營み得る準備をさせなければならぬ。故に兩親はまづ子女に對し國民としてまた社會の一員として盡すべき義務を教へ、これを實行せしむる動力を養ふ必要がある。

家庭教育の根本は家庭の中心たる夫婦が健康を保持し、智徳をみがき、以て子女に模範を示すことである。家庭は神聖なる園であり。純真なる庭でなければならぬ。もし人生の出発點である家庭が亂れたら夫婦の延長たるべき子女は傷はれた生活に陥り悲しい運命に逢着しなければならぬので

ある。

### 日本に於ける女子教育

我國上古の女子は勇壯にして男子に劣るところなく、三韓と交通するに及び織物、養蠶を學び隋唐との交通開けて後上流の女子は詩を作り漢文を綴つた。假名の發明ありて後は女子は主に和文を作り歌を詠するやうになつた。王朝時代には女子の勢力は旺盛であつた。亂世の頃は女子も亦弓矢を使ふことを學んだ。鎌倉時代は女子の裁縫は下級のものが行ふものと見做れて居た。武士の世となり戰亂續きてより女子教育も弛廢するに至つた、徳川幕府時代は女子の教育獎勵され特に徳育を重んじた。此時代の女子は寺子屋、習字、算術、習字の初歩を學んだ。その程度は平假名の読み書きより名頭、國盡、女今川、女消息往来、女用文章等に及んだ。中流以上の女子は更に彈琴、生花、女禮等を學んだ。明暦の頃女子教育の専門書「女四書」の和譯が出てから女子の教訓書が續いて出版されるやうになつた。「女大學」は其中最も有名のものである。この書は明治以前の有力なる女訓書としてひろく用ひられた。先づ女徳を高調し、女子の四行七去を説き舅姑、召使、親族、一般男子に對する道、言語、飲食、衣服の心得、宗教等に及び平易に且親切に訓へたものである。心學は宗教によらず、又儒以上の外女子教育にも著しい感作を及ぼしたものは「心學」である。心學は宗教によらず、又儒



教にも偏せずして入道説いた教訓書である。概ね平易にして趣味と實益を兼ねて居る。故に世道人心を益したことも多い。

近代になつて福澤諭吉氏の「女大學評論」及び「新女大學」が出た。前書は女大學を非難し、これに代るものある要をとき後書を薦めた。

「新女大學」の主旨は子女の教育は両親の責任なり。止むなき場合の外は母は我子を乳養すべし。妻は内政育児に苦勞多ければ夫は妻に時々休養せしむる要あり。女子稍長すれば運動を行はしめ、又家事を豫習させ、物理、法律、經濟の大意を領解し、常識の養成を重んじ、遊藝も等閑に附してはならぬ。男女交際は擴張さるべし。夫妻は苦樂を共にせよ、舅姑は成るべく別居し、又別世帯として尊敬を以て仲睦じく暮すを可とす。召使はよく馴らせ、足らざるところを訓へ、よく導くべし。妻は又夫の經濟を心得なければならぬ。弱年にして夫に別れた場合は再縁可なり。これ「新女大學」の大意である。

### 女性と獨立生活

女性が獨立のできる素養を持つてゐることはその地位を高める上から言つても肝要のことである。たとひ男子に無理があるにしても婦人が侮辱され又虐待を受けることは共同生活を受ける上によくはない。某紳士は自分の愛する歌妓のため、一

かさねの衣服の新調を呉服屋へ託した。出来上つた衣服を呉服屋は紳士の家へ届けた。主人が不在中であつたので細君は自分のために注文してくれたものと思ひ喜んだ。紳士が歸つて立腹し「これはお前のために造つてやつたのではない」と言つてその衣服をとり上げてしまつた。また一人の男子は性病を妻に感染させたので妻が弱くなつた。それがもとで離縁となつた。斯かる例はいくらかもある。

これらは婦人が男子から侮辱を受けたものと謂はねばならぬが、これといふのも婦人に獨立の生活ができて男の扶助なくとも立派に暮してゆくことのできるやうになつて居ないためである。それができるやうに進めたいものである。

### 女性の徳

女性は忍耐力が強い。犠牲の精神にも富んで居る。愛嬌もある。故に女性に神を送つたら確に家庭及び社會に革新ができるはずである。女性に男よりも徳に於て優り得る希望をもつことができる。この方面に一大飛躍を行ふ決心をもつことが肝要である。今日の狀態では徳と言ふ玉の磨き方がまだ不徹底なためその光が現れて居ないのである。



女性が眞實の宗教に入り、ここを修養の道場としたならば、宗教の要求するものに適ひ、強い信仰が流れ出でてこれが著しい感化を人と世に及ぼすことのできる大原動力となるであらう。

### 女性と讀書

ものは少い。

書物が買へないとか書物をよむ暇がないとか言ふのはほんの言ひ草であつて眞に讀む氣ならたしかによめる。それも三十分、一時間とまとまつた時間をとらずとも、三分、五分、十分づつを割いてこの時間をまとめるのである。日本の今日の生活で女子が讀書の時間のできないといふのはできないのでなくて爲ないからである。時間の經濟が極めて下手である。だらしく時間を費して居る。もつと上手に時間を用ゐて修養の時を儲けなければならぬ。女性が書物を讀まぬ家庭は進歩がない。進歩のない家庭に充實を見ることはできない。幼少の時から零碎の時間を讀書に善用する習慣をつけて置くことは大切である。

### 娘に苦勞を教へよ

人生は苦勞を資本にしてその上に仕事を築いてゆくものである。苦勞のない人生に幸福はない。幸福に見えてもそれは眞の幸福ではない。雨が

ふらずに年がら年中晴天ばかりであつたら草木は育たない。楽しみばかりで眞の人間はできない。今の娘は樂をしたがる傾向がある。それと言ふのも母があまり甘くて砂糖の度を越えてサツカリンに似て居るのが間違である。昔から「可愛い子に旅をさせよ」と教へたのは千古の金言である。家庭で甘やかせ、樂をした娘は必ず嫁に行つて苦しむ。それよりも家庭で苦しんで置いて嫁に行つて樂をする方がよい。

今の娘は苦しみを大層怖がる。ふるへる程に怖がる。家で甘やかして函入にすると勇氣がなくなるもつと苦しみに堪へ、苦しみを突破する元氣と覺悟とを家庭で養ひ置くことが肝要である。苦勞の味を娘時代に味はつて置けばそれが他日強い意志となつて現れ、妻となり、母となつて務めが十分果せるやうになる。

### 天才兒の教育

「あの子は天才だ」などと、俗間ではわけもなく「天才」と言ふ文字を用ゐる傾向がある。しかし學校の成績がよいと言ふ位のことを悉く天才とすれば世界に天才の數は大したものである。天才とは獨創的精神現象を産むものであつて、天才とか、早熟とか、神經質とか、勤勉兒とか言ふものと區別されるべきはづのものである。天才は早くから現れるが又後年になつて現れることもある。幼少の時に愚鈍と見做されたもので後



年破天荒の事業をしたものがある。天才は獨りで天才になるのではない。天性があつてその上に境遇が天才の天才たる所以を發揮させ得るものでなければならぬ。天才の教育は天才教育を施すのが一番よい。即ち當人の好むところを自由に延ばせるのである。普通の學校よりも寧ろ自然の學校で學ばせる。初めは大家の直弟子にするとか圖書館を利用したりすることもあるが後には師以上圖書館以上の所へ延びて行くのである。

### 家庭教師

家庭教師の最善なるものは「母」である。しかしコドモの學業が進んでくるか、家に種々の仕事があるか、又その他の事情で家庭教師として他人の力を借らなければならぬことがある。教育的の才能があつて家庭的の教育を行ふとその効果は多い。斯う言ふ人が二人、三人、四人のコドモを家庭的に教育すれば理想的であるが文明が進み、社會生活が複雑になると到底それができにくくなつて今日の學校教育制度になつたのである。その學校教育がまた主智主義になつたので學校教育を家庭で補佐する必要ができて來た。本來から言ふと家庭教師は人格教育を施すはづであるが今日では智識の教育をするものやうに考へられて居る。

家庭教師の人格はもつともコドモに對して影響が著しいから圓滿の仁を選ばねばならぬ。又いくらか教師が家庭に居るからと言つてそのためにコドモがたより過ぎて意志が弱くなるやうでも困るのである。

### 女子教育と學科の過重

現代の教育は主智主義に傾いて居る結果、學科の過重を來すことが多い。その結果疲勞を招く程度が仲々はげしい。疲勞が重なるると過勞になる。過勞が重なるると衰弱する。衰弱すると身心の病氣になりやすい。教育は一種の修養である。修養は幾分の努力を伴ふから、多少の苦しみを伴ふことは申すまでもない。しかし人を傷ふ程度にまで行つてはいくら教育でもいくら修養でも考へなければならぬ。我國の女子教育に於て學科過重のため女子の受くる弊害を除く策を講ずることは極めて肝要のことである。これと同時に體育の奨励及び實行の普及を努め更に精神衛生の實施に心がけることが急務だと思ふのである。

## 女性と職業

### 女性と職業

金力に権力が伴ふことは妙な言ひ分であるが實際はそうなつて居るやう



だ。獨立のできない程度では金力のあるものが権力を以てこれに臨むのである。自活の實力のない婦人は絶えず他人の権力から支配を受けなければならぬ。そこで女子は結婚した後にも不利の位置に立ち男子の支配下に置かれる。家庭で婦人が各職につく必要はない。しかし一定の職業にづくだけの素養を得て居れば事ある場合それが役に立つ。

女性に職業的の素養のないため結婚後種々の事件に逢ひ一家悉く街頭に迷はねばならぬやうなことも稀ではない。富は雲の峰の如きものである。もし一朝にしてその峰が消えてしまつた時に職業がなかつたら極めて悲惨な目に逢ふかもしれぬ。

女性の職業が裁縫、料理、農業、給仕などに限られて居たのは昔のことである。今日では工業の範囲に著しく多くの婦人の職業を見るに至つたのである。又一面には婦人が精神的職業の範囲へ進入したことも事實である。例へば教師、辯護士、醫師、美術家、音楽家、薬剤師、記者、女俳優、タイピスト、速記者、交換手等の如き方面に進出したのである。

文化生活は斯くの如く婦人の職業を多汎ならしめるものである、現今では賃金その他の關係よりして男子の職業範囲へ女子の進入するものが甚だ多くなつた。これの利害は別の問題として女性が職業的素養を有して居ることは實際生活から見て非常に必要なことなのである。

女 醫

醫師は疾病、豫防、衛生、保健、治療等のことに携はるのであるが、醫學知識の進歩につれ、その専門分科は次第に多くなりつゝある。

醫師としての必要條件は身體の健康、五官作用の鋭敏、注意、記憶及び觀察力に富み、推理、判断分析、綜合の能力に秀で、研究心強く、同情の念厚く、沈着にして責任の念深く、他人に信頼される性質に富むことが必要である。これは男子も女子も同じである。病院の經營は上記の性能を有する外に經濟的手腕、計劃的知識、經驗的才能を有する女子でないと困難である。

女 藥 劑 師

調劑業は劇毒薬を取扱ひ、過失によつて人命に危害を及ぼすことがある我國の薬剤師は醫師、齒科醫又は獸醫の處方箋により調劑をなすもので

薬品の製造販賣もできる。故にこの業に携はる人は記憶力に富み注意深く、視力十分にして目測にも長け、辨別力もあり、分析、綜合、推理等の能力があることが肝要である。又責任觀念の強い人でなければならぬ。調劑業は單に病者の服用する薬劑を調合するのみならず、製薬、化粧品、工業化學品等の取扱ひにも従事することが出来る。女子は綿密にして注意深く機械的の記憶も得手であるから薬劑に興味あるものには適當である。

女 教 師

教育には廣、狭二種の意義がある。學校教育は狹義の教育にして社會的



教育機關例へば博覽會、博物館、美術館、圖書館、動物園、植物園、活動寫真館等は廣義の教育である。故に上記の事業に従事する人は廣義に於ける教育者と謂ふべきである。學校教育の中にもその程度は下より上に、又これを横に見ても甚だ種類は多い。縦に見れば幼稚園、小學、中學、高等學校、專門學校、大學に至る順序があり、横に見れば同じ程度のもでも専門によつて自ら多岐に渉る。

總じて教育家の資格を言へば科學的頭腦を持ち、各科目の専門に對し研究的態度を失はず、清廉にして徳性に富み、暗示力強く、指導の力勝れ、懇切なることを要するのである。女子は幼稚園、託兒所、小學校、女學校、裁縫學校、料理學校等の教師として適當である。

### 女子美術家

美術とは率ね視覚的藝術を總括するもので藝術的建築、彫刻、繪畫、工藝美術等を指すのである。美術は斯くの如く視覚に訴ふる藝術ゆえに之を造形美術とも稱せられる。又空間的藝術とも云ふ。

美術の要素は色と形とであつて、これが適當に配合満足させるやうになるのである。

以上の如く美術の種類は多岐に渉るから實際家としては、畫家、彫刻家、圖案家、陶器畫工、肖像美術建築家等種々ある。畫家は平面に表現する美術家であるが、彫刻は立體的表現を現すのである。

美術家は一名空間藝術家なるが故に色彩、位置、形狀、大小、距離、方向、線の調和等についてすぐれたる視覚的觀察をなし得る性能の所持者たることを必要とする。又記憶力、想像力に富み獨創力を有し、美術的感情豊富なることを要する。これと同時に手筋運動の巧妙なることも必要である。女子は畫家、圖案家、陶器畫、肖像畫等に適し、彫刻にはむしろ不得手である。

### 女性音樂家

音樂の中には(一)器樂家がある。例へばピアノリスト、ヴァイオリンの外ギタ、マンドリン、セロ、木琴、尺八、鼓、三味、コルネット等の器樂家である。(二)聲樂は聲樂家、長唄、義太夫、琵琶、浪花節、謡曲師等である。(三)作曲、音樂は音響を主體とし、これに形式を結合して、感情を表現し、美感を起させるものである。即ち視覚聽覺の佳良なる發達、筋肉感覺の鋭敏、記憶力の強きこと美妙なる音樂感情の外に想像力、構成力等の優秀なることを必要とするのである。聲樂では特に聲帶の優美なる發達を伴はねばならぬ。女子はむしろ聲學、或種の器樂が適し、コンダクターなどには適しない。

### 女優

演劇は綜合的藝術にして歌劇、舞踊等と並び稱せられるものである。演劇には舊劇、新劇、喜劇、映畫劇等があるから俳優も亦自らこれによつて異なる。一般俳優の要素として具ふる性能は身體運動に巧なること、聲音よきこと、容貌よく、表



情に富み、記憶力盛にして想像に長け、模倣の巧なる女子は、女優として有利である。映畫俳優は台詞を多く記憶する必要はなく顔面及び容姿表情の巧なることを必要とする。容貌は素より優れたることが大切である。

### 保姆、兒童教養婦

保姆及び兒童教養婦は幼稚園、託兒所の如き兒童の教養機關及び家庭に於て兒童の教養に従事するものを指すのである。

保姆及び兒童教養婦は兒童の衛生、心理、教育等の素養に富み、兒童に對する愛情心強く、親切にして、注意深く教育の念厚く清潔を好むことを必要とする。幼稚園保姆は一定の試験を経てその資格を得るのである。

### 女性寫眞師

寫眞は光學的作用に本づき實景畫を得る技術である。實景の外書畫等を復寫するにも用ひられる。又寫眞を用ひて版に製するものがある。これには寫眞鉛凸版、凹版等がある。映畫の盛な現時にありては活動寫眞の撮影が盛に行はれて居る寫眞は視覺的藝術の一であるから、これの技術を修むるものは光、色彩、形狀、景色等に對する感覺に富み、修正の技術、化學的知識等を要するのである。故に色盲、光覺不十分等のものにおいてはこの職業に適しない。

### 助産婦

助産婦(產婆)は出産を取扱ひ、更に一定期間に生兒の養護を行ふ職業である。高等小學卒業以上の學力ある者は平易なる一般醫學と產婆學とを修得し、試験を受けて、產婆名簿に登録すれば開業が出来る。

助産婦の資格は、身體強健にして注意力に富み、感覺機能鋭敏にして、責任の念深く沈着で、懇切であり且信頼性あることが肝要である。専門の智識を有し、經驗に富めるものを可とするは勿論である。助産婦養成所は大學病院、産科病院、産院等に附設せらるゝ養成所又は學校の外助産婦學校、助産婦養成所等に於て行はれる。

### 看護婦

看護婦は傷病者又は褥婦看護の任に従事するもので往々生命の危險にも遭遇するから身體強健にして且慈愛心に富み忍耐力強く、責任感の深い事が必要である。其他注意深く、臨機應變の才に長じ、沈着にして信頼性を有する要がある。

看護婦の免狀を得るには年齢十八歳以上のもので府縣で一定の試験を経るか、又は地方長官の指定した學校又は講習所を卒業するのである。



## 女性と社會

### 社會

社會とは團體を指しての總稱である。これは發生の原因や方法や時代によつても著しい差がある。

人間は單獨に生活して居るが又社會をなして居る。社會には社會の存在條件がある。即ち社會は意志及び目的を以て生活して居る點に於て個人と比すべきものである。社會はそれ故一つの獨立した體である。各個人は社會の分子である。

社會は人體と同じく有機體と見るべきもので全體と部分との間には密なる關係がある。身體の一部に傷を受けるとその影響が全身に及ぶごとく社會の一部に不健全のもの又は有害のものが生ずるとこれが全體に悪い影響を及ぼすのである。

故に社會をよく生活させやうと思へば個人々々がよい生活をしなければならぬ。社會は有機體とは觀るものの各部分が意識して目的の下に活動して自主自由たり得る點に於ては人體の有機體とは違ふのである。

社會の起原は人が生活する上に他人と協力を要することが發生したに始まる。故にその、起原は古く原人時代から存して居る。原始的時代は人種の社會であつたが後に文化が進み團體生活が營まれるやうになつてから國家的社會と家庭的社會とができた。

國家的社會は主に利害の關係で出來、家庭的社會は種々の血族的關係でできたのである。

### 男女の尊卑

人はややもすると男女に尊卑の區別をしたがる。そこで男尊女卑と謂ひ又この反對に女尊男卑と謂ふ。どちらを正當の解釋としたらよいのであ

らうか。

蜜蜂の類には女王があつてこれが支配をして居る。蜜蜂の社會では女尊男卑である。創世記には男の身體の一部分から女が造られたと言ふことであるから女より男の方が根本的と言ふことになる。しかし科學の立場として考へてみると動物の社會や神話は別として男女には尊卑などと區別すべき筈のものではない。第一その證據に男性と女性の生殖細胞がなければ種族は續かない。男ばかりでも女ばかりでも人間では子孫ができない。男ばかりの社會、女ばかりの社會を造つてもそれは只一定の時間以上には保たれてゆかぬ。

男は生殖細胞を女の生殖細胞に與へる。女は兩性の生殖細胞を自己の體內で繁殖させ分裂させ胎兒



にさせて生れると自分の膝にだき、これに乳を與へ愛育する。實際天性の外はかくして母の手によつてコドモの性質が定まるのである。大臣になると國の政治を支配すると言ふ。母は子を生んでこれを自分が支配して人にすると言ふ大任を自然的に與へられて居る。この権利は確に大きなものである。この點に於ては女が社會生活の根本を支配して居るとも言へる。

その外女性に家庭を治め家庭を整へ、食物の世話、衣服の面倒、住居の注意を受持つのである。してみると、人の生活の大部分は女の手で行はれて居るのである。男はよし不足は言ひながらも女の手を借りて生活をしなければならぬのである。

男が女をめとるといつの間にもやら妻の感化をうけて性質が圓滿になる。これもよく目撃するところである。女から言へば柔よく剛を制して男を思ふやうに支配したことになる。男は女を叱るがそれも雷か夕立のやうなもので、叱りつけ、壓しつけたと思ふのは間違で、男の方は知らぬ間に女から征服されて居るのである。

女には貞淑の性質がある。忍耐の力もある。愛の温かい泉もある。これ等の力が妻となつては夫に働き、母となつては子に働くのである。そうして見ると女が男よりも低い、卑しいものとは言へない。

生物學的に見て男と女とは兩間の間に價値の區別をつける筈のものではない。生れつき女が卑しいの、男が卑しいのなどと言ひ得るはづのものではない。最も公平に見て男も女も共に尊いものである。男女共尊と云ふのがもつとも公平の見方であらう。

そこでこの問題の解決法は男が女を尊み、女が男を尊むことである。これができたら男女互尊であるから兩性の間に尊敬の念が起り相互に扶け合ひ、相互に睦み合ひ、相互に信じ合ふことができるのである。

### 男女同権

生物學上から見ると男女は同権の性質を持つて居る。同権の性質をもつて居る筈の女性が男性より壓迫されて、屈從の生活をしなければならぬ社會がありとすればそれをどうして平均させることができるか。

その工夫は一つではない。智識の啓發、教育の向上、財産を造ること、交際をひろめること、名譽を増すこと、政治に參與することなどでありませう。しかしこれは皆が皆まで急にはできない。できても男の方がもつと早く進むかも知れぬ。

そこで最もよい工夫は男が追従をゆるさぬ分業、言ひ換へると、女でなければできない部分を確りやるのが合理的である。即ち婦人の天職と謂はれる點に渾身の努力をすることである。それは婦



人の使命を自覚すると言ふことである。即ち婦人は尊い責任を以て生れ、これを果たすために最善の努力をしようと云ふ自得感である。婦人の力によつて人類生活の向上と進歩と充實を謀ると言ふ精神である。この目的を達するために人生の奮闘をつづけるのだと言ふ自覚ができたところに婦人の使命が果されてゆくのである。

### 女性と交際

人間は到底一人では暮してゆけない。

世をさけて山に入る人ここにも憂きこゝあらばいづち行くらむ

交際は相親み相慰め相助けるためである。無駄に時間を費すためではない。交際を巧にすれば社会も進み、人類も恩愛を受ける。交際は男女に限られたものもあり、家庭的のものあり、社会的のものもある。何れにしても交際には秩序があり、規則がなければならぬ。歐米の男女の自由交際はよほど勝手気ままのやうであるが決してそうではない。日本の若い男女の交際は將來なるべく健全に發達させたいものである。

概して言ふと歐米の婦人に較べて日本の女性は交際に慣て居ない。もつと交際法を改良する必要がある。現今では交際の方式が區々であつて、この間に時間や、其他の事柄で不經濟になつて居ることが少なくない。又交際が不健全に發達しないやうに注意しなければならぬ。

### 女性と集合

集會の目的はいろいろあるが大勢のものが限られた時間に定められたプログラムを滞りなく果すことにある。集會の種類が演説會となると、音楽會となると、親睦會となると問はぬのである。日本の女性は集會の禮儀に慣ない場合が多い。秩序が却々保たれない。時間が守られない。押し合ひへし合ひをする。ご馳走のある時は随分無作法が演じられて殺風景である。演説會などの時は却々前の方へ進んで席をとらぬ。やかましく言つても腰をあげない。集會の席で動作が騒がしい。話をする。田舎へ行くところが一層ひどい。

これと言ふのも今まで集會に慣なかつたため訓練が足りない結果であらう。將來はどこの人が見ても見苦しくないやう、もつと巧に行ひたいものである。

### 社會奉仕

女性が自分の居る家庭をよくする必要があるごとく我の屬する社會を善くすることを考へるのは當然である。これは有力者だとか名流婦人だとかに任して置くべきものでなく、悉くの女性が關係するはづのものである。

社會を善くするには家庭をよくする要領を延長すればよい。家庭に病人があると看護が要る。社會的にも病人の保護が要る。婦人で生活の出来ない人々は女性が世話するのが最もよい。コドモの保護もそうである。老人の保護をすることも大切である。これは女性の仕事としてはもつともふさは



しい。

婦人会とか母の會とかを設けて婦人の修養を進めるのもよい。女中や女工などのために講演會、音樂會、美術會、趣味、娛樂の會などを企てるのもふさはしいことである。社會的の仕事をするには經費がかかる。これは仕事の會とかバザーとか音樂會とか適當の方法で造り出すのである。

社會のために盡すことは婦人が家の仕事を捨て、社會事業をしようと云ふ意味ではない。心がけさへあれば家事を治めつつ社會奉仕ができる。これが本人のためにも利益となるのである。

### 井上通女のうた

常にゆく道ならばこそ世をうみのあまの乗りたる舟も頼まめ  
しるべせよ浪間をわけてゆく舟の心しらぬ八重の鹽風  
風吹けば月にみがける白玉もくだけて浪の立つにぞありける

### 千代女の句

時鳥ほととぎすとして明けにけり  
誰かろかしらねど柿の初ちぎり  
起きて見つ寝てみつ蚊園の廣さかな  
朝顔に釣瓶とられて貰ひ水  
さればとて石にふとんもきせられず

## 各方面より觀たる女性

### 女性の美德

#### 忍耐する女

弱そうな、やさしそうな女でも恐ろしく忍耐心の強い場合がある。夫が酒のために身を持ち崩して家も畑も山も皆のんでしまひ後には妻の晴着まで手をつけ、家具家財も酒に代へてしまつたときに、その妻はなほ夫の酒をのまぬやうになることを願ひ、後に自分の髪の毛を切つてそれを酒代として丸坊主になつて初めて夫の目をさました例も、又一朝にして夫を失ひ數人の子女をかよわい手で立派に育てた婦人もある。

斯かる例は世に決して少くはないが、非常に忍耐力の強いものでなかつたらできない事である。女性は生みの苦しみに堪へる忍耐力をもつて居る。生死の境にあつてもよく忍ぶと言ふ態度はまことに肝要である。

#### 快活の女

快活で愛嬌のある女は人によろこばれる。八方美人であつたり、お上手の陳列をやる人はあまり當にならぬ。さらばとてむつり屋もこまる。快活で愛嬌があつて眞實が缺けて居なかつたらそれでよい。昔から日本では愛嬌を禁じられて



居た形跡がある。あまり快活だと「お轉變」な  
どと言つて嘲つた。しかしほがらかに生きてゆ  
くには憂鬱よりも矢張快活の方がよい。憂鬱で  
は他人に快感を與へたりすることは望まれない  
ガラ々々であつたり、又お世辭が上手であつた  
り、「あの女は放送局のやうだ」など言はれる性  
質のものは困るが、修養のある女で愛嬌のある  
のは交際を圓滿にすることが出来る。この點に  
於て婦人は外交官たる資格がある。

#### 犠牲的の女

婦人は子女を産み、これを育  
てるうちに驚くほどの犠牲の精神がでてくる。

これはむしろ自然の約束かも知れない。  
夫のために自己を犠牲にした妻もある。子女の  
ため犠牲になつた母もある。

すそたもと合さはいかで合はざらむ  
表につけるうらの身なれば

これは水戸烈公夫人の歌である。この夫人は有  
栖川宮家から降嫁せられたのであるが、男は衣  
服の表、女はその裏であるからむしろ男の意思  
に合せて行くのがよいと述べられたのであらう  
斯くの如く婦人が犠牲の精神を發揮するところ  
に男子の犠牲を拂ふ美德を養ふことにもなる。  
犠牲心のあるところに必ず幸福が生れてくるの  
である。

#### 理解のある女

夫婦生活に理解がなかつた  
ら春がきては花も鳥もない世界と同じことであ  
る。貧しき日にも、富みたる日にも、順調の時  
も逆境の時も、病ある場合も健康の場合も妻は

夫に對して理解を持つことが必要である。

理解は温度のやうなものである。冬であつても  
温かい室に居ると自然身體があたたまるが冷い  
室では不快である。

妻に理解があれば夫を許すこともできるし、又  
責めることもなくてすむ。有名な畫家ミレーは  
貧乏で、自分共の食物を節してコドモに食べさ  
せたと云ふほどの窮した生活をして居た。それ  
でも妻は夫を信じ夫の業を大成させるために貧  
窮の中に猶且夫を慰め夫を信じ夫を勵ませた。  
ミレー生前の最も同情者は彼の妻であつた。妻  
の信じた通りミレーの死後彼は畫聖と言はれる  
ほどの名望を得、彼の作は數十萬圓を價するほ  
どになつた。

#### 内助の女

家庭は夫だけのものでもなければ  
ば妻だけのものでもない。夫婦相扶け相勵んで  
家庭を進め、充實させてゆくべき筈のものであ  
る。故に夫は妻を助け、妻は夫を助ける心がけ  
が要る。

内助にもいろいろある。夫が醫者であれば妻が  
藥の調合をするとか、夫が著述家なら妻は原稿  
の整理や校正などをするのも内助である。し  
かし又夫は外で働くから家のこと萬端を妻が受  
持つのも内助である。  
何れにしても妻が夫と同じ目的で骨をします  
に働くことが必要である。夫は財を得るために  
生れ妻はそれを消費するためにこの世に生れた  
ものだなどと考へられては最後である。



一家をよく整理して堅い基礎の上に置くことは即ち社會と國家とを強固にする所以である。

### 名譽を重んずる女

名譽心は善をなして他人に譽めて貰ふといふやうなところから出發するものである。もしこれを悪く導くと虚榮になる。虚榮心が増長すると個人にもよくない、又社會にも害毒を流す。名譽心は本分を守ることが教へる。自己の徳性を磨き、品性を整へ、社會を進歩させやうとする。

人知らぬ心に耻ぢよ耻ぢてこそ

遂に耻なき身とぞなりぬる

名譽を重んずる女は虚榮には流れない。本分を守ることを知つて居る。名譽の爲めには悪い暗い行ひをせぬ。妻に名譽心があれば夫に少々虚榮

心があつてもうすぐらい點があつてもこれを矯正してゆくことができる。

### 女性氣質

#### 嫉妬する女

よき仲間近ごろ悪しくなりにけり  
隣りに座の立ちてよりのち

嫉妬心は誰にもあるが婦人は家の中に居ることが多いので自然狭量になり且羨ましく思ふ念が増すのであらう。そこで他人の成功を喜ぶと言ふ考へが起らず嫉妬するのである。婦人の團體が時々つぶれるのは役員間の嫉妬にもとづくことが多い。斯くては折柄人の社會をよくしやうと思つたことが却て反對の結果になる。他人の成功を共によろこび他人の失敗をともし

悲しむほどの大量な心になりた。そうすれば他人が成功すると、そのために拂はれた努力が教訓になるのである。

妻が夫に對して嫉妬することは情として免れぬけれどそれもひどく眞黒くなるよりは狐色位はやき方がよいであらう。

### 働かぬ女

何が怖ろしいと言つても働かぬ女ほど怖ろしいものはない。それは滅亡の外ないからである。働かぬと身神がうつろになつて命が縮まる。閑居しては必ず不善をなす「遊んで食べられる」と言へば多くの人々が羨ましく思ふことだが、怠惰者の、命縮めを何でうらやむ必要があるか。

日々我々が食つて居る米の收穫までに農夫のそ

そぐ汗がなみ大抵でないことを思ふと働かずに居やうなどは夢にも考へられない。人はよく用ゐられるために生れたものである。よく用ゐられるためにはよく働くより外に途とてはない。働かねば百年、二百年、生きてもよく働いた短命に及ばぬ。長壽法は働くことである。人はこの世でよく働き、その手と足のあとかたをのこしてゆくべきである。

よく働くには無駄の働きであつてはならぬ。理性的の働きでなければならぬ。昔の人より多く働く覺悟が要る。働かぬものは他人の働きにまで害を及ぼすことになるのである。

### 虚榮の女

虚榮はもちろん男にもあるが、女の方が強いとは定評である。



人は外側(そと)のものより内部(うち)のものを尊重(そんじゆう)すべきであるが、外(そと)の美(うつくし)、外(そと)の大(おほ)、外(そと)の形(かたち)を以て誇(こほ)らうとしたがる。女(おんな)には美貌(うつくし)、美粧(うつくし)、美服(うつくし)を以て他人(たにん)に誇(こほ)りたがる特性(とくせい)がある。學識(がくしき)とか品性(ひんせい)を修養(しうやう)するために話(わ)を聞き讀書(とくしょ)する婦人(おんな)は割(わり)に少(すく)いが、服装(ふくそう)や附屬品(ふぞくひん)の指輪(ゆびわ)などに千金(せんぎん)を惜まぬものは割(わり)に多(おほ)い。

虚榮心(きやうしん)は養(やう)へば限りなく成長(せいじやう)する。コドモの小(こ)さいころから物質上(ぶつしつじやう)のことについての誇(こほ)りを他人(たにん)に對(たい)してもたせると言(い)ふやうなことは注意(ちゆうい)を要(よう)す。虚榮心(きやうしん)を他人(たにん)相手に増長(ぞうじやう)させたらその起(おこ)るところはあぶない。虚榮(きやう)は人を殺(ころ)すからである。

### 冷膽(れいたん)な女(おんな)

主人(しゅじん)が垢(あか)の附(つ)いたシャツを着(き)て居(ゐ)ても一向(いっこう)平氣(へいき)な細君(こぎみ)がある。コドモが病氣(びやうき)して熱(あつ)をだして居(ゐ)てもその世話(せわ)を看護婦(かんごふ)にまかせて自分(じぶん)はゴルフ(ゴルフ)へでかける母(はは)がある。隣(りん)に病人(びやうじん)のあることを知(し)つて居(ゐ)てもその容態(ようたい)をききにゆく親切(せふせつ)がない。窮(きゆう)して居(ゐ)るものがあつても「あれは自業自得(じげつじとく)だ」と言(い)つて一向(いっこう)かまわぬ。からだの弱(よわ)いコドモのあるのを見て「あんなのは早く死(し)んだ方がましネー」と言(い)ふ婦人(おんな)がある。

「自分がよければそれでよい他人(たにん)のことなどどうでもかまわぬ」と言(い)ふ社會(しゃかい)は非常(ひじょう)に危險(きけん)である。社會(しゃかい)だけでなく家庭生活(かていせいかつ)でも人類生活(じんるいせいかつ)でも同じ(おな)じことである。

### 人を壓迫(あつぱく)する女(おんな)

稻(いね)の穂(ほ)は稔(み)るほど頭(かぶ)が下が(くだ)つて來(き)る。女(おんな)が富(と)み、榮(さか)え、地位(ちゐ)が高(たか)くなつたときに他人(たにん)を壓迫(あつぱく)し、他人(たにん)を侮辱(おごり)する心(こころ)を起(おこ)してはならぬ。優越感(いうげつかん)をもつて満足(まんぞく)することは動物(どうぶつ)にも人間(にんげん)にも本能的(ほんのうてき)に與(あた)へられて居(ゐ)る。しかし人間(にんげん)には修養(しうやう)と云(い)ふ特別(とくべつ)の方法(はうほう)があつて本能(ほんのう)の上に練達(れんたつ)と言(い)ふ美(うつくし)はしい精神(せいしん)が授(たま)けられてある。

婦人(おんな)が男子(だんし)を使役(しやいやく)して無上(むじやう)の優越感(いうげつかん)をいだくやうな場合(ばあひ)があつても更(さら)に熟思(じくし)すれば男子(だんし)に對(たい)し同情(どうじやう)し、感謝(かんしゃ)すべきことを發見(はつけん)するであらう。婦人(おんな)が同性(どうせい)の人に對(たい)して壓迫(あつぱく)を加(く)へるやうなことは實(じつ)に大なる矛盾(むじゆん)である。この無情(むじやう)なる壓迫(あつぱく)の精神(せいしん)が婦人(おんな)の社會問題(しゃかいもんたい)をますます大(おほ)きくさせ

### 境遇(きやうい)より觀(かん)たる女性(おんな)

弱(よわ)き女(おんな)、貧(ひん)しき女(おんな)、淋(しみ)しき女(おんな)、病(びやう)める女(おんな)、惱(なご)める女(おんな)に對(たい)しては女性(じよせい)がまづ滿腔(まんかう)の同情(どうじやう)を持たなければならぬ。彼等(かれら)を壓迫(あつぱく)し、彼等(かれら)をその儘(まま)に放置(はちやく)することは、女性全體(じよせいぜんたい)の生活(せいかつ)を破壊(はくわい)することになるのである。

### 娘(むすめ)としての女性(おんな)

娘時代(むすめじだい)の女(おんな)は女性(じよせい)の自分(じぶん)を完成(わんせい)するための準備時代(じゆんびじだい)である。故(ゆゑ)に身體(しんたい)の發達(はつたつ)を促(うなが)すための努力(どふり)をなし、ひろく智識(ちしき)を求め、意志(いし)を鍊(く)り、感情(かんじき)の陶冶(たうぎ)を行(な)ふことに努(つと)めなければならぬ。年少(ねんしょう)の間(ま)は素養(そやう)も少(すく)く經驗(けいけん)にも乏(た)しいから長上(ちやうじやう)の指導(しだう)を受けこの間(ま)に人格(じんかく)の基礎(きそ)となるものを



得て置かなければならぬ。思想定まらず、意志の弱い娘時代に正道を踏み外すと生涯浮ばれぬやうなこともある。古歌に

みどりなす一つ草ぞ春は見し

秋はいろいろの花にぞありける

とある通り娘時代は皆同じやうに見えるが人生の秋になるといろいろに變つてくる。これは全く個人々々の修養によるものである。

何事でも大成しやうと思へば準備を十分にすることが肝要である。娘自身の覺悟と指導者の努力、この二つが一つの目的で進まなければならぬ。

### 妻としての女性

諺に「悪妻は百年の不作」と言ふことがある。誰が何と言つても家庭に悪

妻が居たら助からぬであらう。女である以上人の妻になることはできる。しかし悪妻であつてはならぬ。良妻であることが必須の要件である。良妻はよく夫を助け家を治めさらによい子を生むことが出来る。

夫婦の間に一人も子を恵まれないものもあるがそれは致し方ない。授けられた子はこれを丈夫に生み丈夫に育てることを努めなければならぬ。それには妻が健康であることが肝要である。妻は自分の健康だけでなく家族全體を健康にすることを心がけなければならぬ。家庭に健康がなかつたら平和も慰安も得られない。

妻は家庭の主権者である。しかし威張つてはならぬ。謙讓にして貞節の徳を持ち慈愛と思ひや

りと、明るい理性をもつた妻が夫を助け夫を慰め夫を導くことすらできるのである。

### 母としての女性

母となるはやすいが母たるは難い。これ母になつた人が多くて母たる資格のない人の少い所以である。

人生最初の學校は家庭であり、最初の教師は母である。家庭が悪く母が悪かつたらその子が善くならうとは考へられぬ。コドモから言ふと母ほど大切なものは三千世界に二つとはない。半屋の中でも母の懐にだかれて居ればそこが極樂である。

母は生れながらにして子のために犠牲となる本能をもつて居る。伊太利のベスピオ山が噴火しポンペー市が灰に埋まつてしまつたが、その灰

の中から母がコドモを懐いて自身で被ふて居たのが化石となつて現れたと言ふ。美術以上の美術ではないか。母となつては善き母、偉い母、賢い母、強い母とならなければならぬ。

母多き母の中にも母ぞなき

母こなれ母母こなせ母

### 職業家としての女性

婦人の職業がどこからどこまでと定めることはできない。時代によつて變るからである。文明が進むと男と女の職業別がだんだん狭くなる。昔男でなければできないと思つた職業でも今日では立派に婦人で行つて居るものがある。妻になり母になることも一つの職業と見てよい



がこの外に獨立のできる職業的素養をとること  
は婦人に必要である。職業の種類は婦人の天性  
教育、境遇、趣味などによつて自ら違ふ。只最  
も適當とみとめるものを選ばばよい。女子の職  
業などと言へば一般にいやしむ傾向があるがそ  
れは間違である。閑居すれば不善をなし易い。  
人は働く職分を具へて生れたのである。

職業より生ずる報酬の多い少いもさることなが  
ら、婦人が獨特の技量を持ち仕事に従事する場  
合、世と人を益する點から言へば寧ろ報酬を第  
二義とすべきであらう。

**孤獨の女性** 獨身生活を送ることは耻でも  
不道德でもない。種族を繼ぐと言ふ點から見  
ると未婚のまま生涯を送るのは不徳のやうであ

## 母の氣質

**序言** 母の數は多い併し眞によき母は少  
い。我が生みし子を善く育てあげることが母と  
して最も大なる務であるが、却て母の手にて子  
を悪くすることはまことになげかわしきことで  
ある。左に示す實例、もし他山の石として我玉  
を磨くに足らば幸である。

ここに示すは私が永い間多くの母に接して最も  
多く遭遇した實例である。斯くの如きは母とし  
ての落第者であると云はなければならぬ。母と  
してこれほど不名譽のことはないのである。

**子との約束を無にする母** 事柄の實行がで  
きると否とに拘らず軽々しくコドモに約束する

るが、もしその女性が結婚するよりも獨身でゆ  
く方が社會や人類に多く貢獻すると言ふことで  
あれば決してとがめるべきではない。  
又身神に缺陷があり、若くは他に感染させる病  
氣があつてそのため結婚しないのであれば民族  
衛生上から見てもその方がよい。米國やその他の  
文明國で結婚に一定の制限を法律的に定めて居  
るのはこのためである。

今日の社會生活は女子の獨身生活を多からしめ  
る状態となりつつある。故にたとひ婦人が獨身  
生活をして居てもこれを老嬢など言つてのよ  
しつたり、又あざけつたりしてはならぬ。社會  
としては斯かる人々に同情して慰安を與へ、又  
適當なる保護を考へなければならぬ。

母がある。コドモはこれをよく覺えて居て先の  
約束を果してくれと母にせまる。その時になつ  
て母はあれは冗談に言つたに過ぎぬと言つて只  
わけもなく前の約束を反古にしてしまう。これ  
は母自らが約束を守らぬことを教ゆるものであ  
つて、不義不正の教育法を實行することになる  
のである。故に相當の理由のない限りは母自ら  
約束を破つてはならぬ。もし避けることの出来  
ぬ場合で、約束を破る際はコドモにその理由を  
よく説明しなければならぬ。

**父の教育を重なしにする母** 少々學問でもし  
て居て、それを鼻にかける母は父の教育法を非  
難し、コドモの前でもかまわず「あなたのお考  
へは間違つて居ます、矢張コドモの教育はこう



しなければなりません」となどと抗議を申込ますから、コドモは父の威権を傷け、父を父と思はぬやうになる。斯くては父がいくらコドモをよく躾やうとしてもその努力は無駄に終る。父の意見に反対する理由があれば父と母と二人のところで協議するのがよい。コドモを行司にする必要は毫もない。これと同様に父もまた母の威を傷ふやうなことがあつてはならぬ。

### 子に對する命令を賣かぬ母

コドモに

且命令を下した以上は實行させねばならぬ。實行の出来ない命令なら下さぬ方がよい。ところが母は實行の出来ぬ命令を濫發することがある。命令の濫發、命令の不實行に馴れて居るコドモは大切の命令に逢つても大切とは思はずに、聞

いたまゝに流して行く。この習慣が永く續くと幾度親がコドモに命じても馬耳東風である。コドモに命令を徹底させやうと思へば母にそれだけの原動力がなければならぬ。これには母たるものが絶えず修養を積み犯すべからざる威権を保つことを必要とする。日本の母性には往々意志の弱い人があつて、命令の徹底が行はれにくいことがある。

### 子を病身にさせる母

育児の智識に乏しい

母親がどれだけ多くコドモを人工的に弱くして居るか知れぬ。例へばお自慢の毛糸の編物を澤山着せて皮膚をわざと弱くする。小波氏の「菊をまねて人の子弱くなり」と歌つて居られるのは全くその通りである。赤ん坊をキャベツ巻の

やうにすることは避けたいものである。乳兒を寒中に活動寫眞館へ連れて行つたりするのも病氣の仕入に行くのと同じやうなものである。其他食はせ過ぎによつてもコドモを弱くする。コドモのからだを弱くすることを知り、強くすることを知らぬ母親は子のために子不幸である。子を強くするにはその正しい方法を知らなければならぬ。生兵法は大怪我の本と言ふ、宜なるかなである。それだから母は母性學を修め、育児のことに明るくなる必要がある。

### 子の質問を邪魔にする母

コドモが質問

するのはものを覺えたい考への起つたときである。この時には智惠の袋が開いて居る。折角母に尋ねて居るのに母は勝手に悪いと言つて一言

の下にはねつける。智惠の袋の開いて居るときに智惠を入れなければ他の時に決して這入るものではない。母は自分の都合のよい時にコドモに教えやうとする。その時はコドモの方で都合が悪く智惠の袋の口も閉ぢて居るからいくらやかましく言つても中々頭腦にはいらぬ。昔の人も問ふは知るの始めと申して居る。故にコドモが質問するときは勉めて丁寧に教えてやるのがよい。もし母にその解答が出来なければ百科辭典でも引いて見るとそこにちゃんと出て居る。

### 子の性質を惡化させる母

コドモに嘘を教

へて喜ぶ母がある。嘘が上達したとて賞める母がある。コドモのよい習慣を造ることを勉めず



不規則の生活を續けて平氣の母がある。自分のことを自分で行はせる癖をコドモにつけることを知らぬ母がある。謙遜、親切、慈愛の精神をいかにしてコドモに注ぎ込むかと言ふことを考へたことのない母がある。高慢、放逸、虚榮をよるこび、子にもこれを教ゆる母がある。斯かる母親は我子の性質を悪くするに最も適當の教育者である。昔から今日までどれだけ母の手でコドモの性質が悪くされたであらう、まことに恐ろしいことである。どんなに子が丈夫で賢くても性質が崩れたら人間としての價値が少いのである。

**子の悪行を増長させる母**

幼少のコドモには善惡の深い意味がよくわからぬ。これを適當

に導くことがよい。コドモが悪いことをしたときはその程度によつてこれを戒めなければならぬ。いくら可愛い子でも悪行の場合にはこれを不問に附してはならぬ。悪いと言ふことをコドモに悟らせ、再びこれを繰返さぬやうに指導することが大切である。コドモの悪行を見逃しする母は悪行を増長させる扶助者に外ならぬ。すべて人間には善を斷行する力と惡を制止するころとがある。これが即ち意志である。もしこの積極と消極の兩方面の意志を倒さに發揮すればそれこそ大變である。

**子を愚物にする母**

智能の程度は生れつきその分量が殆んど定まつて居る。それを顧みないで生れつき以上のことを教へて見たり、又母

の勝手でよい頭のコドモに頭を費さぬ仕事を命ずることがある。一は實質以上のことを、他は實質以下のことを強ゆるわけで、どちらもコドモを愚にする結果となる。松の木に櫻の花を咲かせやうと骨を折つても駄目である。角を矯めて牛を殺すとはこの類である。松の木は先天性に松の木で到底櫻にはならぬ。それよりも松の木としてどうすれば十分松の眞價を發揮させることが出来るかを工夫するがよい。母の手によつて子を愚にすることは愚の至りである。

**子の病氣を氣にせぬ母**

コドモの鼻がつまつて居ても、咽喉が痛いと言つても、咳嗽をして居ても、捨てゝ置けばひとりで治ると言つて氣にせぬ母がある。多く禍は小さいこと

を捨てゝ置くに本づくことがある。なに感冒位と言つて油断して居る間に突然肺炎が起り、とらぬことになるのである。小事を顧みぬ人は大事を知らぬ人である。禍の起るはその起る日に起るにあらすその因るところは非常に遠いのである。年々歳々日本の山火事は随分大きい現象である。しかるにそのもとをたゞすとタツタ一本のマッチのあと始末の悪かつたによることが多いのである。

**子をよく叱る母**

罰の目的は個人の行つた事柄の性質が悪いことを指摘してこれを悟らせ斯かる悪行を再びせぬやうにする手段である。故に罰があまりに多ければその効果は甚だ少い